

# 鹿児島高専 だより

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY (KOSEN),  
KAGOSHIMA COLLEGE

第80号

令和8年3月



独立行政法人 国立高等専門学校機構  
鹿児島工業高等専門学校

# 目 次

● 校長室から .....	1
● 好きなことを追いつけて見えた世界 .....	2
● 鹿児島高専 SupportingStudentDreams .....	10
● 学生の活躍～部活動編～ .....	20
● 学生表彰 .....	26
● 学生会だより .....	30
● 寮学生会だより .....	32
● 部活動紹介 .....	33
● 旅立ちに寄せて～卒業生あいさつと担任の贈る言葉～ .....	42
● 卒業生及び修了生の就職・進学先一覧 .....	49
● 卒業生の現在 .....	52
● 教務だより .....	56
● 総務企画だより .....	57
● 学生だより .....	58
● 志学寮だより .....	59
● 専攻科だより .....	60
● 国際交流だより .....	61
● 地域共同テクノセンターだより .....	62
● 学生何でも相談室だより .....	63
● 退職の挨拶 .....	64
● 新任教員の紹介 .....	65
● 後援会だより .....	67



# 校長室から



## 歴史を大切にしながら未来へ

校長 上田 悦子

皆さんの手元に高専だよりが届く頃は、令和7年度がもう直ぐ終わる3月で、1年間どうだったかな?と振り返っている頃かと思います。本校は今年4月、創立以来になる大きな学科改組を行います。いよいよ、鹿児島高専の再スタートの時を迎えます。

今年度はスムーズな立ち上がりに向けた準備と共に、積極的な広報活動も行ってきました。県庁での記者発表は新聞やテレビニュースで取り上げられましたし、9月にはKTSの日という番組で、本校OBで現在芸能界で活躍中のひょうろくさんと共に覇者の像周辺を整備する企画が放送されました。また、今年も体育祭応援団へ密着取材もいただき、学生たちの真摯な姿が特集として放送されました。また11年ぶりのロボコン全国大会出場前のNHK生放送も関係の皆さんに対応してもらいました。新聞報道も例年以上にたくさんいただけたと思います。また従来メディアだけでなく、YouTube「みんなの高専チャンネル」で改組や文化祭の様子を発信したり、InstagramやFacebookなどのSNSでの情報発信も強化してきました。鹿児島県内だけでなく全国に向けての発信が今後さらに重要になると考えています。私自身も講演依頼をいただく際には、必ず鹿児島高専のPRを講演内に含めることを了承してもらうことを条件に受けることとしています。校長としても鹿児島高専の様子を発信する機会をさらに増やし、高専をメジャーな学校にしていくつもりです。

みなさんもお存知の通り、鹿児島高専は大きな変化の時を迎えます。しかし在学中のみなさんのカリキュ

ラムや学科は、入学時に約束した通りで卒業までしっかり教育しますので、今と大きく変わることはありません。心配しなくても大丈夫です。むしろ、移行期間に在学するみなさんは、鹿児島高専が変わっていく様子を間近で見ることができます。また、カリキュラムや学科の枠組み以外でも新しい取り組みが増えるはずです。それらは改組後に入学した学生のみが対象になるのではなく、鹿児島高専在学中の学生全員を対象とし学校全体に新しい風を巻き起こすものになるでしょう。校長の私はワクワクが止まりません、ぜひ在校生の皆さんも期待しながら新年度を待っていて欲しいと思います。

改組は、決してこれまでの本校の取り組みを否定するものではありません。校長着任以来、多くのOB/OGの方々にお会いしてきましたが、それぞれの母校への深い思いに触れるたび、これが鹿児島高専の教育の成果であり、大きな強みだと毎回再認識させられます。特に、今年11月に開催された同窓会関東支部総会では、60名近くの卒業生と直接お話しし、世代を超えた絆を感じました。こうした「鹿児島高専らしさ」を大切にしながら、社会の要請や急速な技術革新に取り残されないよう、未来に向かって進む決意です。

この文章の最初で触れた覇者の像周辺の再整備にあたって、昭和48年11月3日に発行された「鹿児島高専十年史」を読み返しました。覇者の像がある中央ロータリー噴水池は学校の中心となるシンボルとして昭和41年3月25日に除幕式が行われたとありました。整備計画にはかなりのご苦労があったようで、特に予算面でのご苦労は大変だったようです。「覇者の像台座、噴水施設等の経費一式は父兄の寄金と学校職員全員が俸給の1/100ずつを5ヶ月間醸出するなどして、総がかりで『学園の中心』として作り上げたものであります。」と記されています。当時の皆さんの学校への思いを知り、私たちもこのシンボルを守り、未来へつなぐ使命を強く感じました。こうした歴史を振り返ると、鹿児島高専は常に多くの人々の支えによって成り立ってきたことがわかります。

本校は10年ごとに記念誌を作成しており、それぞれを読み返すと各時代の思いが伝わってきます。新たなスタートを切る今こそ、これまでの積み重ねに感謝し、歴史を大切にしながら未来へ進んでいきたいと思



# 好きなことを追いつけて見えた世界

## フレスポジャングルパーク リニューアルデザインコンペ

都市環境デザイン工学科4年  
西 裕莉愛、橋本 らら、松田 碧華

都市環境デザイン工学科 高安 重一

みなさんは、フレスポジャングルパーク与次郎の歴史をご存知ですか？約20年前、ここは人々から愛される遊園地・植物園でした。そこで私たちは、「緑に刻まれたジャングルパークの軌跡を、時代を超えて次の世代へ繋ぎ、これからも人々に愛される憩いの場になってほしい！」そんな願いを込めてこの作品を作りました。

私たちは2027年にリニューアルが計画されている鹿児島市与次郎のフレスポジャングルパークの学生デザインコンペに参加し、最優秀賞をいただきました。こ

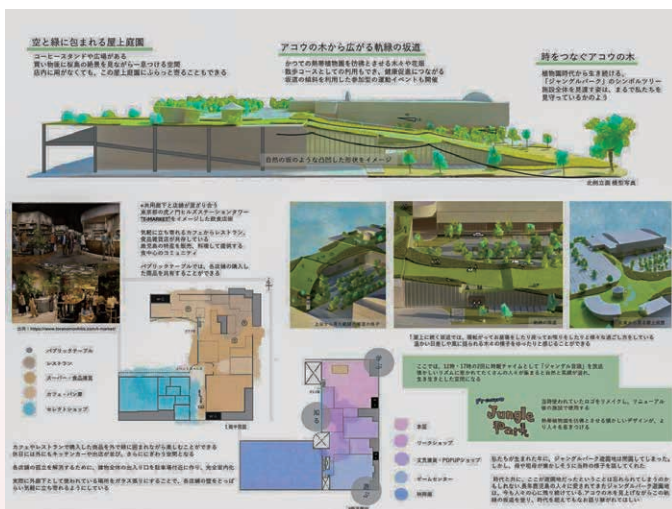
のコンペは、鹿児島県内の学生からリニューアル案を募集するというもので、約80作品の応募がありました。そこから5作品が一次審査を通過し、3月8日の二次審査公開プレゼンに挑みました。

今までもコンペにはチームや各個人で参加してきましたが、今回はリニューアルに伴った今回限りのコンペということで特別感を感じていました。そのため、結果を残したいと気合を入れて取り組んだので、最終的に大学生・大学院生の作品もある中、結果として実り、とても嬉しかったです。

このコンペに参加するにあたり、私たちはまず現地調査を行い、現在のフレスポジャングルパークを知ることになりました。ここで実際に私たちが参加してきたコンペとの違いを大きく感じました。与えられたテーマで一から設計するのではなく、元ある施設を一部残しながらどう新しく変えていくかを考える事に新鮮さを感じながら、難しい部分も多かったです。しかし、事前調査に行ったことが大きく影響し、自分が来館者として「こんなだったら…」と想像を膨らまし、それぞれ様々なアイデアを出すことができました。

現地調査から得た現状を踏まえ、改善点を良くする案を3人で出し合い、合致したアイデアを作品に込めました。最終案として、緑を取り入れ、自然を感じ、遊び心をくすぐるような新しいジャングルパークの形を考え、植物園だったことを思い出させるような敷地全体の緑化を軸に設計を行いました。プレゼンボード2枚の中で私たちの案をいかにわかりやすく伝えられるかを考え、模型の作成にも取り組みました。細部までこだわり、上手いかわないこともありましたが、私たちの考えが形になっていく過程は楽しく、完成後は大きな達成感がありました。

今回このコンペに参加し、商業施設のコンペであることや公開審査など沢山の初めての経験を経て、自信にも繋がりました。グループとしてコミュニケーションを取りながら事前調査から進め、形にしていくことは将来就活後にも活かせる部分があると思うので、この経験を糧に、これからも様々なことに挑戦していきたいです。



## 研究って面白い

建設工学専攻1年 永田 侑希



私は令和6年3月8日に琉球大学で行われた「土木学会西部支部 研究発表会」に参加しました。この学会は、土木の研究をしている主に九州・沖縄地区の大学生、企業の研究者の方々が、研究成果を発表する場となっています。各セッションで優秀講演賞があり、経験を積む第一歩として参加しやすい学会です。

私の所属する研究室では、毎年5年生が「土木学会西部支部研究発表会」での発表を最終目標に掲げ、日々研究に取り組んでいます。昨年度はその成果が実を結び、優秀講演賞をいただくことができました。鹿児島高専からは10名が参加し、うち3名の学生が同じく受賞するという嬉しい成果となりました。

土木学会は8部門に分けられます。第I部門から順に、構造、水理、地盤、計画、コンクリート、建設技術マネジメント、環境・エネルギー、分野横断となっています。

私は第III部門である「地盤」で発表を行いました。第III部門のセッションは多く、沢山の人が地盤について研究していることを知りました。私の所属する材料研究室にはコンクリートの研究をする人が多く、地盤の研究を行っていたのが一人だった為、なんだかワクワクしました。

地盤部門のなかでも、大雨や地震などで起こる地すべりや地盤の崩壊について、その原因を調べる研究や、地盤改良工法の研究、地盤を固める為の固化材の研究などさまざまな研究がありました。その中でも私は、地盤改良材の研究について発表しました。現在セメントを使用した地盤改良が一般的ですが、セメントは製造時に多くの二酸化炭素を排出するほか、改良地



盤から六価クロムが溶出する危険性があるなど、環境への影響が懸念されています。そこで私は、セメントを使用しない「環境に優しい改良材」を用いた研究に取り組み、その成果を発表しました。

研究では、写真のような改良体を作製し、どの程度の荷重に耐えられるか、また海水によって劣化するかどうかを調べました。授業ではできないような、本格的な実験を通して、未知のことを明らかにしていく楽しさを実感しました。思い通りにいかないこともありましたが、先生や研究室の仲間からアドバイスをいただきながら、試行錯誤を重ねて研究を進めることができました。

高専に入学した当初は、橋梁設計や都市計画に興味があり、それに関連する研究を行うつもりでした。しかし、授業を通して土木分野の幅広さを知り、自分の関心に合ったテーマに出会うことができました。

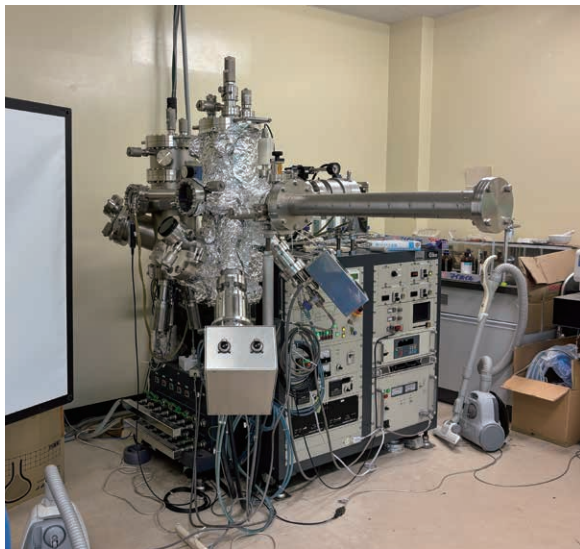
専門的な設備や実験環境が整っているため、自分の「やってみたい」「もっと知りたい」という気持ちをそのまま研究や課題に生かすことができ、改めて高専に来て良かったと感じています。授業や実験を通して、普段の生活では気づかなかった“なぜだろう”という疑問に出会うことも多く、その小さな疑問を大切にしていって調べ続けることで、理解が深まり、新たな興味へとつながっていきます。自分のペースで探究できる環境が整っている高専だからこそ、主体的に学ぶ姿勢がより育まれるのだと思います。ぜひ皆さんも“なぜだろう”を大切に、日々生活してみてください。わくわくするものに出逢えると思います。

最後に今回、このような賞をいただけたのは、日頃より熱心にご指導くださった安井先生のおかげです。また、自由にのびのびと研究に取り組める環境に恵まれたことにも深く感謝しております。今回の受賞を励みに、今後もより一層研究に励んでまいります。



## 国際学会誌の論文掲載まで

機械・電子システム工学専攻2年 吉川 音々



私が本科5年から専攻科2年までの計3年間所属する研究室を決めるきっかけとなったことは、本科4年生の頃に見た先輩方の研究発表でした。概要欄に書かれていた「世界トップクラスの性能を持つ研究」という言葉に魅力を感じ「自分もこんな研究に関わってみたい」という軽い憧れが決め手でした。当時は深く考えず、純粋な興味と直感で選んだ研究室でしたが、この選択が3年間を大きく変えるものとなりました。

実際に研究室の配属が決まり、先輩の指導を受けていくと、高専で学んだ内容だけでは到底足りず、新たに必要な知識が多々ありました。成膜装置の操作、金属の結合や結晶に関すること、評価装置の原理など、当初は専門用語の意味を思い浮かべることさえ難しく、理解するまでにかなりの時間を要しました。それでも5年生の1年間で数多くの成膜を行い、先輩と共同で研究を進めたおかげで、専攻科進学後もスムーズに研究に取り組むことができました。

今回の題目である国際学会誌のはじまりとなったのは専攻科1年の11月、新田先生から「5年生の頃の研究を基に英語論文を書いてみないか」と声をかけていただいたことです。英語で論文を書くなど到底無理だと思いましたが、先生から「論文は修士に進んでも必ず書く機会があるとは限らない」ということを聞き、「今しかできないことに挑戦したい!」「このような貴重な機会を無駄にしたくない」「21歳で英語で論文を公表できたらカッコいいな」と思い、英語論文へ挑戦

することを決めました。

最初は日本語で論文を書き、それを英語に直すという方法で進めたものの、実際に論文を書いていくことは困難なことばかりでした。まず、今私が普段行っている研究と並行して論文を書かないといけないこと。これに関しては時間のやりくりが大変で、私の研究は1枚のデータを取得するのに6時間ほどかかるため、この研究との並行作業は大きな負担でした。次に、多数の英語論文を読み込む必要があること。そもそも知らない単語ばかりで理解するのもにも苦勞しました。そもそも英語でこんなに長い文章を書くことが初めてで全てが私にとって初めての挑戦でした。

そのような中で、先生からたくさんのサポートをいただきながら、研究室に何時間もこもり、文章の作成や図の体裁を整えていきました。しかし、ただただ文章を書くだけではダメで作成した文章の剽窃チェックを行い、今発表されている論文と15%以上内容が被らないようにしないとはいけません。そして校閲をかけ、さらにより良い文法や単語に変更します。そして、学会誌に投稿し、査読者からの改善案に基づき、編集者からアクセプトカリジェクトかの判断をいただきます。ここまで頑張っても、もしリジェクトされたらその学会誌には投稿できなくなるためハラハラする2ヶ月間を過ごしました。私の結果は「メジャーリビジョン」でした。これはさらなる内容の修正を行い、もう一度査読者に読んでいただく形になります。先生のサポートを頂きながら、指摘内容を丁寧に読み込み改善していきました。そして査読者にもう一度読んでいただき1、2週間後、学会誌から届いたメールには「Congratulations」の文字があり、とても喜んだことを覚えています。10月から執筆を始め、掲載に到達するまで約6ヶ月半が過ぎていました。長く険しい道のりでしたが、その分達成感は大きく、自分の研究に強い自信を持つきっかけとなりました。

現在は、また新たな英語論文の執筆に挑戦しています。2本目の論文作成ということもあり、前回の経験を生かして構成を考えたり、文献の読み方や文章の組み立て方をより深く理解していることを実感しています。初めての論文では手探りだった作業が、今回は自分の力として身につけていると感じられる場面が多く、研究者になるための確かな成長が感じられました。このような貴重な経験をさせていただけた研究室、新田先生にはほんとうに感謝しています。

# コンペに参加して得たこと

都市環境デザイン工学科3年 今中 美輝

この度、私は「第四回POLUS木造住宅建築インターハイ」の設計部門において、佳作を受賞いたしました。

POLUS木造住宅建築インターハイは、ポラス株式会社が主催する、高校生・高専生向けの建築コンペティションで、「ものづくり」に重点を置き、図面や模型を通じて木造住宅のアイデアやデザインを具現化する大会です。今年のテーマは「斜面を活かした家」でした。

日本列島の地形は起伏に富み、国土の75%は山地が占めます。昔から限られた平地に家を建て、現在も家を建てるときは、当たり前のように敷地の平地部分で設計を始めています。安全性の確保が難しく、建築的な制約が多い「斜面」という条件の中で、その土地ならではの景色や光といった自然の恩恵を最大限に活かせるか。その傾斜や環境を活かした建築の在り方を考えることから、新しい家のデザインと暮らしの豊かさを考えることが課題でした。

私が提案した作品の題名は「斜面と融合する屋上緑化」です。設計の軸としたのは、「斜面と一体化し、自然を生活に溶け込ませる住まい」です。高低差を利用することで、平地ではできない構造と斜面だからこそできる自由な空間を作りました。具体的には、山の自然を壊さず溶け込ませ自由に屋根の上を歩けるように屋上緑化を採用し、どの部屋からでも見える中庭を配置しました。

この設計で一番大変だったのは、模型制作です。斜面のバランスを取るために何度も失敗して、心が折れそうになりました。しかし諦めずに試行錯誤を続けた結果、自分のアイデアを実際に形にできたことに大きな達成感を感じています。

このコンペを通して、設計図や模型制作といった建築の知識や一つの決めたアイデアを自分の力で最後まで形にすることができました。

今回の佳作受賞を励みにして成長できるように、これからも様々なコンペに挑戦していきたいです。

## 斜面に寄り添い、大地と融合する住まい。

設計主旨:豊かな自然の恵みを感じるために、斜面の地形そのものを住空間に取り込んだ。自然を生かし、自然と共に生活することをイメージし、まるで大地から生えたかのように屋根の輪郭は斜面のラインと融合させた。余すことなく自然の恩恵を享受するために、屋根の上は自由に歩けるようになっている。

模型材料:模型材料費:厚紙、竹串、合計340円

屋根を緑化することは、建物劣化の原因となる急激な温度変化による膨張や収縮を抑え、紫外線や酸性雨によるダメージを軽減する。緑化をすることで結果的に建物の耐久性が増し、建物を保護することができる。よって、夏場は熱が建物内に入るのを抑え、冬場は熱を外に逃さないため空調の消費量を抑制することができる。植物の風散効果(葉から水分を蒸発を発生することによって、周囲の空気を冷やす効果もある)。

緑化に適した芝生  
コライシバ:メンテナンスがしやすい、ゴルフ場で使用されるほど踏み圧が強い、アザミ:寒さにも暑さにも強く、気温差の激しい環境でも安定して成長できる。タヌキユウ:芝の育たないような日陰でもよく育つ。  
ヘアラ(アイビー):シワ性なので壁に貼ることができる。日陰に強く、育てやすい。

緑化の構造(芝生)  
土壌(100mm)  
フィルム層  
排水層(50mm)  
保護層  
防根層  
防水層

2階も中庭を見渡すことができる大きな窓が付いている。二つの子供部屋があり、それぞれの空間を楽しむことができる。

1階は、中庭を囲むような形になっている。中庭に隣接する壁は、ほとんどガラス張りになっており、家の中いながらも開放感のある暮らしができる。

1階の窓を開けて入ると直ぐに浴室に行くことができるので持たせてしまっても安心。中庭では、BBQをしたり壁が白いことを生かしてプロジェクターで映画を見たりすることができる。

2階からでも、家にいながら子供を見守ることができる。干渉しすぎず適切な距離を保つことで子供の成長を促せる。

中庭で遊ぶ子供たち  
屋上は山の斜面に沿ってだから広がっており、敷地の境目が山に溶け込むようになっている。

屋根緑化:敷地外と区別がつかないよう山に馴染んでいる。高い部分には柵がわりの手すりが付いている。壁から光を取り入れる量が少なくなってしまうため、屋根に多くのガラス穴が開いてそこから光を集めている。

中庭でBBQをしている様子  
地域の人を呼んで集まるのに十分な空間がある。山の中は静かで、誰にも邪魔されない場所になる。

住んだ場合の動線  
まず、帰ってきたら家族が集まるリビングを通り自分の部屋に向かう。部活動があって直ぐにお風呂に入りたい日には、リビングを抜けてお風呂へ...という動線が綺麗にできている。



## 挑戦を続ける

都市環境デザイン工学科1年 沼田 紗良

私はスポーツクライミングという競技をしています。この競技はボルダー・リード・スピードの3種目があり、ボルダーは高さ5m以下の壁に設定された複数のコースを制限時間内にいくつ登れたかを競う種目です。リードは制限時間内に高さ12m以上の壁のどの地点まで登れるかを競う種目です。スピードは同じ条件で設置された高さ15mの壁を2人の選手が同時に登り速さを競う種目です。私は3種目の中でボルダーとリードをしています。スポーツクライミングは小学1年生の時に母や父、兄弟がしていたのをきっかけに始めました。始めた当時の憧れの人は母で、登る姿がかっこよく私も母みたいに強くなりたいと思って練習していました。鹿児島県の競技人口は少なく、同年代の友達は一人もいませんでしたが、この頃は登ることがただただ楽しかったです。



国民スポーツ大会に初めて出場したのは中学3年生で母や兄の姿を見て出てみたいと思っていたので出場が決まった時は嬉しかったです。国スポは2人1組になってボルダー、リードの2種目を行います。スポーツクライミングは基本個人戦なのでチームで戦うことは少なく、貴重な経験です。ペアの子とどうすれば登れるかを話し合い、試行錯誤しながら登りました。結果はまだままだでしたが、出たことに意味があると思った大会でした。その後、無事高専に入学することができ、入学後も競技を続けていくことを決意しました。

5月にリードのユース日本選手権に出場し、久しぶりの大きな大会に緊張しながらも自分の力を発揮しようと頑張りました。そしてこの大会の終了後に、国ス



ポの九州ブロック大会に出場するための県予選が始まりました。県予選は出場する2人と補欠を決める予選です。しかし同年代の競技人口が少なく私以外にあと一人しかいませんでした。そのため補欠がない状態で九州ブロック大会への出場が決まりました。それでも去年出場した国スポがとても楽しく思い出に残っていたので、今年も絶対に本戦に出場すると覚悟を決めました。大会までペアの子と本番に向けた実践練習や登りこみなど色々な練習をしました。登るときはペアの子とコミュニケーションをとることを意識し、どうすれば登れるか話をしながら登っていました。一人が登れるともう一人も登ろうと頑張り、協力しながら切磋琢磨して練習に励みました。自分の苦手な動きをペアの子が補って登り、逆に私もペアの子ができない動きをカバーするという信頼関係があるからこそできているのだと思いました。大会が近くなった時、練習でうまくいかず、焦りと登れない自分に腹が立ち、涙を流してしまったこともありましたが、しかし今までの私たちの努力は決して無駄ではないと信じ、本番に挑みました。大会1日目は、リードでした。緊張して思うような登りができませんでしたが手ごたえは感じていました。ただ、登り自体は悔しい結果となり、終わってから課題を見てはもっと登りたかったと思いました。2日目はボルダーでした。1日目は後悔が残る登りになってしまったため、ボルダーは今までの成果を存分に発揮しようと頑張りました。結果として九州ブロック大会への出場には出来ませんでした。納得のいく結果でした。

ペアの子とたくさん練習して笑ったり時には泣いたりしたことすべてが私にとっていい思い出です。来年は必ず国民スポーツ大会に出ます。そのためにこれからまた練習に励んでいきます。

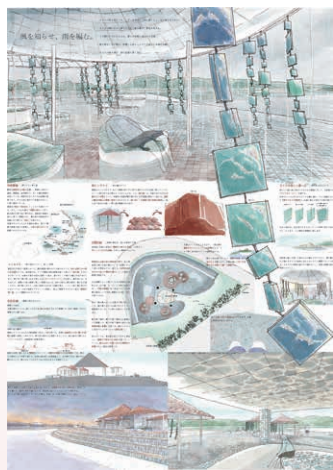
## 港から再び ～地元を舞台に挑戦した夏～

都市環境デザイン工学科5年  
水流 瑞季、廣森 敬士

今年の夏、私たちは「the Tile competition | 学生タイルデザインコンペ2025」で入賞することができました。全国29歳以下の学生を対象とした大規模コンペで評価を頂けたことに心から喜びを感じています。今回のテーマは「お風呂をかんがえる」。私たちは指宿市・山川港の岬を舞台に、新しい足湯空間を提案しました。ちなみに指宿市は水流と廣森の地元でもあります。

コンペ挑戦のきっかけは、実はデザコンの予選敗退でした。私たちはその時も山川港を舞台に作品をつくっており、土地の調査から提案、設計と心から納得できる作品を仕上げたつもりでした。しかし結果は敗退。やりきったからこそその悔しさと虚しさは大きく、そして突然、夏休みの予定が空白になりました。作品は卒業設計へ引き継ぐつもりだったため、「同じ敷地でまったく違う視点の提案をしてみたい」という気持ちが生まれました。こうしてぽっかり空いた夏休みを前に、私たちの新しい挑戦が始まりました。

締め切りまで約3週間というタイトなスケジュールでしたが、私たちは半年間にわたり山川港の調査を続け、土地のことをよく理解していました。短期間でもしっかり考えられたのは、この蓄積があったからです。また、私達は半年間同じ作品をつくってきた“ボディ”として、作業分担も息ぴったりでした。限られた時間でも密度の高い制作ができたと思います。



作品名は「風を知らせ、雨を編む」。観光客がふらりと立ち寄れる岬の足湯として計画し、デザコンの

「地域」に向けた提案に対し、今回は「観光」を軸に考え直しました。求められていた「新しいお風呂」「新しいタイル」の二点に応えるため、屋根の仕上げとなる「雨を編むタイル」、そしてカーテンのように揺れて風を可視化し、風景をゆらぎとして取り込む「風を知らせるタイル」を考案しました。これらのタイルは構造でも装飾でもなく、環境と人を繋ぐメディアとして機能します。

提出形式はA1縦1枚。一次審査のみで発表も行われなかったため、ボードのクオリティが作品の生命線です。限られた紙面で視線の流れ、図の密度、文章量、余白の強さまで考え抜き、「どうすれば審査員が立ち止まるか」を何度も検討しながら構成しました。そして満足できる作品ができました。完成したボードは研究室の壁に貼っており、今でも時々眺めては「よくつくったな」とにやけてしまいます。入賞の知らせを受けたとき、この作品が審査員の一人にしっかり届いたのだと思うと、本当に嬉しく感じました。

コンペ終了後、すぐに私たちは卒業設計へと動き出しました。水流は敷地として「山川港」を、廣森はテーマとして「温泉」を引き継ぎながらも、全く違う方向で新しい建築をつくり始めています。互いの経験を糧にしつつ、別々の解釈へ広がっていくのがとても刺激的です。

鹿児島高専に入学して5年が経とうとしています。3年生の夏、初めて挑戦したコンペでアイデアが形になる喜びと、外部から評価される嬉しさを知りました。特に、都市環境デザイン工学科は建築よりも土木が強い学科のため、建築作品を専門的に評価できる先生が限られ、評価はどうしても少数の視点に偏ってしまいます。だからこそ、外部コンペはまったく違う物差しで作品を見てもらえる貴重な場です。それ以来、私達はたくさんのコンペに挑戦し、入賞したものも、悔しい結果に終わったものもありました。しかし、そのすべてが確実に私達の力となっています。この積み重ねを大学編入後、そして将来の建築の仕事に活かしていきたいと思います。

最後に、今回の挑戦を支えてくださった高安先生をはじめ、日々の議論や作業を共にしてくれた仲間、先輩方、そして後輩たち、さらに温かく見守ってくださった周囲の方々に心から感謝しています。皆のおかげで私たちはここまで歩んでくることができました。この経験を糧に、これからも建築を学び続け、より良いかたちで恩返ししていきたいと思っています。



## 一歩ずつ

情報工学科2年 瀬戸口 はな



鹿児島高専に入学してから、もうすぐ2年が経ちます。自分は全国高等学校少林寺拳法大会（インターハイ）に、鹿児島を代表して2年連続で出場しています。少林寺拳法という言葉が初めて聞いた方もいると思うので、少しだけ説明させていただきます。そもそも少林寺拳法は「人づくりの行」です。修練を通して社会に役立つ人づくりを目指し、勇気、慈悲心、正義感を育む武道です。自分は女子単独演武で競技に出場しています。インターハイは、運動系の部活をしている人なら一度は憧れたことがあるのではないのでしょうか。大きな会場。全国から集まる選手。背中に背負う都道府県名。張り詰めた空気。たくさんの声援と視線。これが、「インターハイ」。もちろん、選手全員が本気で演武します。競技中に、「鹿児島ファイター！！！！瀬戸口ファイター！！」という声が聞こえてきました。鹿児島県の高校生の少林寺拳法の選手は、当時自分を含めて3人しかいなかったの、そんなにたくさんの声援があるわけがないんです。緊張しすぎて、ついに幻聴が聞こえ始めたかと思いました。ですが、違いました。他の九州勢や、同じコートの方が応援してくれていました。仲間でも、親しい人でもないのに応援してくれたのです。実は、少林寺拳法のインターハイでは、ほかの選手への応援だけでなく、演武が終わったら次の演武をする人とタッチしたり、声をかけたりします。「頑張れー！」とか、「演武よかった

よー！」とか、心から相手へ敬意を払うのが当たり前環境でした。なんなら、試合前の公開練習などで強豪校の方に型や演武のコツを聞いたら、教えてくれたりもします。試合前にですよ。自分の今の演武や技術を評価してもらい、学び、成長する場なので、何でも見たり聞いたり、真似してやってみたりできます。強い人が弱い人を見下すなんて状況は、絶対に生まれません。強い人は、さらに上に行けるように自分自身と戦っているような印象を受けましたし、実際にインターハイ優勝した方の行動や言動を見ても、そう思いました。自分は、そんな素晴らしい場に行くことができ、幸せだと思います。周りの方々のおかげでインターハイに出ることができ、技術面でも、精神面でも、その他にもたくさん学び、成長できたと思います。少林寺拳法は「人づくりの行」。本当にそうだと実感できました。自分はまだまだ、学ぶことがたくさんあります。学ぶことに限界を作らず、大きなことだけでなく小さなことでも一歩ずつ学び、人として成長していきたいです。もちろん、少林寺拳法も学業も同様です。何か一つでも、好きで夢中になって、そのためには何んでも頑張れるようなものを見つけてみてください。その好きなこと一つを全力で楽しんで、全力で頑張るだけでも、一歩ずつ成長していけるとと思います。「夢を見る。それと同じくらい鏡と現実を見る。」自分が好きな言葉です。1年目、初めてのインターハイ。ボロボロにされました。演武の記憶がないくらい緊張しました。これが全国。これが今の現状。勝てない。悔しい。2年目、2回目のインターハイ。予選落ちでした。去年よりは点数も上がったし、何より演武の記憶が残っていて、最高に楽しかった。これでいいんです。一歩でも成長していれば、それでいいんです。一歩ずつでも成長していけば、どこまでも上に行けます。「なんでそんなもの続けるんだ」とか、「少林寺拳法は弱い」だとか、周りの声はどうでもよくて、自分が好きなことを好きなだけやれる環境の今が幸せです。鹿児島代表でインターハイに出場できるのも幸せです。鹿児島高専の名前を背負えるのも光栄です。自分は来年も少林寺拳法でインターハイに出て、背中に「鹿児島鹿児島高専」というゼッケンを背負って、悔いの残らない、自分が納得できる最高の演武をしたいです。感謝を忘れず、これからも一歩ずつ成長し続けます。

## アイデアを形に技術を未来へ

情報工学科1年 中岡 小虎

私は現在、起業クラブに所属して活動しています。今年度は私にとって、大きく飛躍する一年となりました。その背景には、主に二つの大きな挑戦と成果があります。この一年間の活動についてご報告させていただきます。

一つ目は、この2025年の夏、8月から9月にかけて鹿児島市内で開催された『Spread Pt.4』への参加です。このイベントは、2022年から毎年開催されている「インキュベーション（事業創出支援）型」のビジネスプランコンテストです。単にアイデアを競うだけでなく、先輩起業家の方々から専門的な知識や助言をいただきながら、ビジネスプランを「実現可能な事業」へと昇華させ、鹿児島から起業する人を増やすことを目的としています。

私は今回、同じ起業クラブに所属する電気電子工学科1年の小田原星央さんとチームを組み、参加しました。参加当初の私たちは、具体的なビジネスプランを持ち合わせていなかったどころか、起業家精神についても何も知らない、まさに素人同然の状態でした。しかし、担当して下さったメンターの方からの熱い指導を受け、一生懸命取り組みました。発表への準備期間中、メンターの方にはビジネスアイデアの生み出し方はもちろん、相手に伝わるプレゼンテーションの手法や、長期的に継続できるサービス設計の考え方など、多岐にわたるご指導をいただきました。

私たちが考案し、発表したのは『サブカルカレンダー』というビジネスプランです。これは、サブカルチャーのイベント情報や発売日管理に特化したカレンダーアプリの構想です。その結果、審査員の方々から評価をいただき、「アイデア賞」という素晴らしい賞を受賞することができました。

これまでは「起業」という二文字に対して漠然とした印象しかありませんでしたが、このイベントへの参加を通じて、起業に対する具体的なイメージを描けるようになりました。今後は、このアイデアをさらにブラッシュアップし、実際にユーザーに使ってもらえるサービスへと育てていきたいと考えています。

二つ目は、国内最大級の業界カンファレンス『XR Kaigi 2025』への参加です。

私は普段のクラブ活動で、VR ゲームの制作を行っ

ています。私がゲーム制作を始めたきっかけは、単に「ゲームを作りたい」という気持ちだけではなく、「自分が実際にその世界に入り込み体験している」という感覚を強く感じられる、VR というコンテンツそのものに強く惹かれたからです。

今回、起業クラブの外部顧問である村上 将太郎さんからの誘いもあり、自身の視野を広げるために参加を決意しました。

『XR Kaigi』とは、XR（VR/AR/MR）、メタバースなどの技術者が一堂に会し、最新の技術やノウハウを共有し、業界全体を高め合うことを目的としたイベントです。

実際に参加してみると、そこは刺激の連続でした。業界の最新情報や技術の進歩を肌で感じることができただけでなく、同じくVR コンテンツ制作に携わる企業の方々とお話する機会も得られました。また、鹿児島県内でVR コンテンツ制作に取り組んでいる鳳凰高校や鹿児島情報高校の生徒とも知り合えたことは、私にとって大きな一歩だと感じています。

さらに会場では、私が制作しているVR ゲームを多くの来場者に体験していただくことができました。「面白い!」といった嬉しい感想だけでなく、ゲームの改善点など、プロやユーザーならではの視点で多くのご意見をいただきました。

今後はいただいた意見を制作に活かし、より多くの人に遊んでもらい、記憶に残るようなコンテンツを目指していきたいと思います。

起業クラブでは、部員全体で一つの目標に向かって突き進むというよりは、それぞれが個別の目的と熱意を持って、自由な発想で活動しています。鹿児島高専内での認知度がまだ低いことが現在の課題ですが、来年度はクラブの認知度向上、そしてさらなるXR コンテンツの制作に力を入れていきたいです。

起業クラブには、自分の夢を叶えるための設備と環境が十分に整っています。モノづくりやビジネス、新しいことへの挑戦に少しでも興味がある方は、ぜひ入部してみませんか？

今後とも、起業クラブの活動を温かく見守っていただければ幸いです。



# 鹿児島高専 Supporting Student Dreams

## 鹿児島高専 Supporting Student Dreams とは

鹿児島高専では、学生のもつ潜在的な能力・向上心を引き出し、それらの涵養と実現に向けた支援を全学的に行うために、鹿児島高専 Supporting Student Dreams (SSD) を実施しています。学生たちの「こんなことをやってみたい」「こんなコンテストに出てみたい」といった夢や目標をサポートするための取り組みです。

具体的には、(1)学生が自主的かつ主体的に取り組むもの、(2)本校教職員のサポートのもと取り組めるもの、(3)高専の学生が取り組む活動として相応しいもの、という3つの条件を満たした活動に対して、必要な経費を補助しています。今年度は、下記10件の活動が採択されています。

- ・ Robogals Kagoshima
- ・ 日本弁理士会「ビジネス/技術アイデアコンテスト」への活動
- ・ 小学生への科学の魅力発信プロジェクト
- ・ 地域活動プロジェクト—鹿児島高専×伊佐市—
- ・ IoT・プログラミング教育支援テーマ開発プロジェクト
- ・ 第4回防災減災コンテスト
- ・ サイバーセキュリティボランティア
- ・ コンクリートコンテストへのチャレンジ
- ・ デザコン 空間デザイン部門・プレデザコン部門参加プロジェクト
- ・ 高校生向け建築設計競技参加プロジェクト

以下では、鹿児島高専 SSD で支援を受けた活動について、参加学生やサポート教員から報告をしてもらいます。

### ものづくりは楽しい

情報工学科4年 白石 陽花



私が所属している Robogals は、女子学生が中心となり、子供たちに工学の楽しさを伝えること、そして理系女子を増やすことを目的として活動している団体です。ロボットや簡単なプログラミングを使ったワークショップを通して、子供たちが理系の世界に触れるきっかけを作っています。

私が Robogals に入ったのは3年生のときでした。私が高専を目指した原点は、小学生の頃に参加した科学館のイベントで、高専生が自作ロボットの仕組みを本当に楽しそうに語ってくれた姿に憧れたことでした。しかし実際に高専に入学すると、レポートや実験など大変なことが続き、当時抱いていた「ものづく

りって楽しそう、面白そう」という気持ちを忘れかけてしまいました。

そんな時期に、SSD など別の活動で子供たちと関わる機会があり、ものづくりに夢中になる姿を見ているうちに、Robogals のことを思い出しました。SSD で子供たちと関わってきた経験を活かせるかもしれないと思い、3年生への進級をきっかけに参加を決めました。

初めての活動は大隈青少年自然の家でのワークショップで、教室を回ってサポートする役割でした。子供たちは課題に向き合うとき、正解や失敗を気にすることなく自分の考えを口に出し、グループで試しながら形にしていきました。思い通りにいかない場面もありましたが、子供たちは落ち込まずに新しい方法を考えていました。そのものづくりを純粋に楽しむ姿が、私に工学に触れたときの純粋な面白さを思い出させてくれました。

今ではプレジデントとして団体をまとめています。分からないことも多く、メンバーに助けられながら活動しています。現在は、もっと子供たちが主体的に考えられるワークショップをしたいと思い、新しい企画づくりに取り組んでいます。これからも、子供たちと一緒に「ものづくりは楽しい」という気持ちを共有しながら、その魅力をさらに広げていきたいと思っています。

## 技術アイデアを生み出す

電気電子工学科2年 大原 優依

10月上旬、私たちは大阪・関西万博を訪れました。人々の熱気が溢れる会場の中、白石先生引率の下、2年電子工学科 錦 林檎さん、馬原 琉佳さんと共に日本弁理士会によるビジネス／技術アイデアコンテストに挑戦させて頂きました。万博会場内にて日本企業による最新技術を体験し、その体験をもとにビジネス／技術に関する新しいアイデアを生み出すことを目的としたコンテストです。私達のチーム“ミャクリティック”では、AVITA 株式会社、富士通株式会社／株式会社ジー・サーチ、株式会社 WisH Lab、株式会社栗本鐵工所計4社の技術を体験しました。

最初に、富士通株式会社／株式会社ジー・サーチでの技術体験を行いました。骨格検知や物体認識技術を用いた行動予測・検知システムが開発されていて、手を振る、椅子から立つなどの行動を起こすと、取っている行動が検知されどんな行動を行っているかモニターに映し出されました。なかには、ランニングを行うと骨格情報から走り方を検知し、フォーム改善のためのアドバイスを提示してくれるシステムがあり、白石先生に代表して体験させて頂きました。なかなかでないと言われている星3をいくつか出していて、企業の方を驚かせていました。

次に AVITA 株式会社にてアバターや生成 AI などの技術を活用した、AI 面接官との模擬面接の体験です。受け答えの内容以外にも、表情についての採点も行われており、面接を行った錦さんは、受け答えについてはかなりの高得点を出していたものの、表情をもっと動かすように指摘されていました。

3つ目の株式会社 WisH Lab では、人の動きやジェスチャーを汎用パソコンで解析する技術を体験しました。

最後に株式会社栗本鐵工所での技術体験では MR 流体を用いたグローブ型の装置を装着し、HMD に映し出された仮想の物体をまるで本当に触っているかのような感覚を味わいました。VR 空間では、ロボットの腕を掴むと実際に固いものを握っているような手ごたえがあり、指を曲げれば弓を引き絞る感覚、指を伸ばせば矢が放たれる瞬間の抵抗がグローブを通じで伝わってきました。グローブの硬さが変化することで、VR 空間上での感覚をリアルに体験できるこの技術に

驚きました。いずれ現実のあらゆる感覚をゲーム内に落とし込むことができるのではないかと心を弾ませながら体験しました。

前述の通り、本コンテストでは技術を体験するだけでは終わりません。次に12月の作品提出に向けて、アイデアを考えなければなりません。技術体験以来、担当の弁理士である河野さんや白石先生と数回渡りミーティングを行い、アイデアを練っていきま

した。最終的に、“柔らかい車”というアイデアが着地点となりました。車による死亡事故を減らすため、骨格検知や画像検知を用いて車に当たる箇所を予測、MR 流体を仕込んでおき、予測した箇所を柔らかくして衝撃を抑えるという車です。このアイデアを元に今、作品提出に向けて動き出しています。ひとまずは1次審査を突破し本戦へ行けるようアイデアの構想を固めています。たとえ結果として形に残せなかったとしても、最後までやり切ったと胸を張れるように取り組んでいこうと思います。

追伸――

あれから見事、1次審査を突破し、私たちは90チームのうち10組のファイナリストとして選ばれました。2月21日に大阪の日本弁理士会事務所にて最終審査発表会に参加しました。短い準備期間の中、全力を尽くした結果、イノベーション賞2位をいただきました。私たちが目指していた賞を受賞することは叶いませんでしたが、トロフィーや賞状を頂くことができ、気持ちには万々歳です。何より、賞以上に大切な経験を得られた実感がありますし、これからも挑戦する機会が沢山あります。

次はもっと面白い景色を見に行こうと思います。





## 小学生への科学の 魅力発信プロジェクト

一般教育科 池田 昭大

科学コミュニケーション（科学の魅力を伝える活動）の一環として、鹿児島高専の学生が取り組んでいる活動を紹介しつゝ、本活動は、学生による地域貢献やコンテスト参加を支援する鹿児島高専SSD（Supporting Students Dreams）のサポートを受け、「小学生に科学の魅力を伝えること」を目的に実施しています。

この活動の一つとして、2025年8月に鹿児島市立科学館にて「科学工作教室」を実施しました。学生が講師となり、主に小学生以下の子供たちに、様々な工作を教えました。SSD参加学生の4年生6名を中心に、3年生2名、1年生1名が講師として参加しました。

鹿児島高専 科学工作教室

「たのしいこうさくをしよう！！」

2025年8月31日(日) 10:00-15:00

鹿児島市立科学館3階 企画展示室

工作テーマとして準備したものは、「キラキラ万華鏡」、「太陽で光るキーホルダー」、「ストローロケット」、「しゅわしゅわあわロケット（環境創造物理研究部担当）」です。工作は光の性質や、運動量保存則などの物理法則と関連したものとなっています。工作教室にはたくさんの子供たちの参加があり、大盛況でした。当日は新聞社の取材もあり、学生の活躍が新聞にも掲載されました。

また、本活動では「小学校への出前授業」にも力を入れており、奄美大島の小学校3校に対して授業を実施します。出前授業は、児童が光の観察や、紫外線の測定を行い、太陽からの電磁波について楽しく学べる内容を予定しています。

出前授業実施校

節田小学校（12月13日）

屋仁小学校（2月27日）

佐仁小学校（3月14日）

新しい工作の開発も進めており、光の屈折に関連した「光のオブジェ」も試作しました。今後の科学コミュニケーション活動で活用したいと考えています。



科学工作教室のポスター



科学工作教室当日の様子



新しく開発した工作「光のオブジェ」

## 地域活動プロジェクト —伊佐市での空き家活動の記録—

都市環境デザイン工学科2年 山崎 さくら

今年度、鹿児島高専 SSD 活動の一環として、私達は伊佐市での地域活動に参加しました。この活動の特徴は、あらかじめ決められたテーマがないこと。現地に足を運び、地域の空気を感じ、人と話し、風景を見て、そこから自分たちで「やりたいこと」を見つけていくスタイルです。だからこそ、私達の気づきや興味が活動の中心になり、主体的に取り組むことができました。

その中で、私達が選んだテーマが「空き家」です。伊佐市を訪れる中で、地域の方々から空き家の増加が課題になっていることを聞き、実際に空き家を見て回ることで、その現状と可能性を肌で感じました。誰かに与えられた課題ではなく、自分達の目を見て、心で感じて、「これをやりたい」と思ったからこそ、本気で向き合えたと思います。空き家は、ただ古くて誰も住んでいない建物ではなく、誰かの新しい暮らしが始まるかもしれない場所。そんな可能性に気づいた瞬間、私たちの活動は一気に動き出しました。

伊佐市は、空き家の情報をまとめた「空き家バンク」というウェブサイトを運営しています。これは空き家を探している人と、空き家を提供したい人を繋ぐための仕組みで、移住希望者や地域活性化に関心のある人にとって、役立つ情報源です。私たちはこのサイトを活用して、実際に掲載されている空き家を訪問し、現地の様子を見ながら、どんな可能性があるのかを探りました。



移住者へのインタビューでは、空き家をリフォームして民泊を始めた人、自給自足の生活を楽しむ人、音楽を自由に奏でるために伊佐に来た人など、それぞれが自分らしい暮らしを実現していることを知りました。都会ではできないことが、伊佐ではできる。そんな声を聞いて、「空き家=問題」ではなく、「空き家=チャンス」だと強く感じました。

リフォーム作業にも参加し、床板の張り替えや柱の補強、シロアリ対策の薬剤塗布など、実際の現場で使われる道具を手に取りながら作業を体験しました。初めて使う電動工具に戸惑いながらも、少しずつ慣れていくうちに、作業の楽しさと、誰かの暮らしを支える実感が湧いてきました。



最後には、私達が体験したことをまとめて、空き家バンクのサイトに「伊佐に住んでみたい」「行ってみたい」と思ってもらえるようなポスターを掲載しました。市役所で掲載式も開かれ、新聞にも取り上げられました。自分たちの活動が誰かの未来につながるかもしれないと思うと、嬉しさと誇らしさがこみ上げました。

こうした取り組みをさらに広げるために、今は空き家のある校区の情報も紹介できるよう準備を進めています。移住を考える人が暮らしのイメージを持ちやすくなるよう、地域の魅力を伝える発信にこれからも挑戦していきます。

この活動を通して、私は「自分たちで考え、動くこと」の大切さを学びました。地域の課題に向き合うことは簡単ではないけれど、そこには人の想いや、未来へのヒントが詰まっています。空き家を通して、地域の魅力を再発見し、それを発信することで、誰かの人生を動かすきっかけになるかもしれない。

そして何より、この活動を通して強く思ったのは「地元や故郷のために、私たちにもできることがある」ということです。小さな行動でも、誰かの暮らしを支え、地域の未来を変える力になる。私たちの手で、私たちの言葉で、地域とつながることができる。そんな経験が、これからの自分の生き方にもきっとつながっていくと思います。



## すごいぜ！ マイコンプログラミング講座

電気電子工学科 今村 成明

我々のSSDは、「IoT・プログラミング教育支援テーマ開発プロジェクト」として、小学生・中学生・高校生・一般向けに開催するモノづくり公開講座を学生主体でテーマ開発を行い、実施することを目的に活動しています。

令和4年度から本格的に活動を開始し、現在のメンバーは、電気電子工学科2年生が1名、電気電子工学科3年生が8名、電気電子工学科4年生が4名、電気電子工学科5年生が4名、合計で17名となり、活気があふれています。メンバーは、他の部活動も兼部しているため、週1日だけ全員で集まり、公開講座のテーマについて一緒に考えたり、マイコンやプログラミング、IoT技術を学んだり、公開講座の準備を行ったりしています。

令和7年度の活動は、「すごいぜ！マイコンプログラミング講座」と題して、9月6日と12月20日に実施しました。また、大阪万博の「高専未来チャレンジ」にAI導入教育とモノづくりを組み合わせた鹿児島高専の教材として「AIスタックチャン・改」を出展しました。

9月の講座は、小・中学生・一般6名を対象に「自分だけの電飾貯金箱を作ろう！」というテーマで実施しました。メンバーで考えたオリジナルの「電飾貯金箱」は、フルカラーLEDとフォトインタラプタ、スピーカーを使い、投入した硬貨を検出すると、枚数に応じてLEDの光り方、効果音が変化する仕様になっています。公開講座の前半は、マイコンプログラミングにてLED点滅させたり、スピーカーを利用して音階作成をしたり、フォトインタラプタによるLED点灯／消灯、効果音を鳴らすなどをしました。後半は、「電飾貯金箱」のプログラムにて、参加者独自のLEDのイルミネーションパターンや好みの効果音を実装し、完成させていきました。講座では、一部のマイコンにプログラムを書き込めない不具合もありましたが、臨機応変に対応し、無事に講座を終了させることができました。参加者は、自分で考えたイルミネーションパターンや好みの効果音をプログラミングで実装し、大変、満足しており、充実した講座となりました。



12月は、中学生・一般の方12名を対象に「リモート操作！AI・スタックチャンカー！」というテーマで実施しました。これは、大阪万博の「高専未来チャレンジ」に出展した「AI・スタックチャン・改」に車での走行機能を持たせたものです。DCサーボモーター、超音波測距センサー、WiFi、Webサーバー機能を使い、ブラウザ上でリモートコントロールできる優れもので、IoT技術を応用し、ブラウザ上には障害物までの距離、バッテリー残量も表示されます。さらに、前進、後退、左回り、右回りの際には、スタックチャンがしゃべる機能も実装しました。参加された方は、マイコンの動作、少しずつ機能が実装されていく様子を大変、興味深く、楽しんでいました。



今年度、2回の公開講座を実施しましたが、公開講座テーマ案の検討から、回路基板の設計、電子部品・マイコンを使った製作物の試作、3Dプリンタによる外装の設計・試作、講座の流れの検討、説明資料作成などを学生達で行っており、メンバーには貴重な経験になったと思います。

最近、リスキリングという言葉も聞かれるようになりましたので、小学生・中学生・高校生向けだけでなく、一般の方にも多数、参加いただけるような講座を実施できるようになればと考えており、来年度は、電気電子工学科2年次の実験・実習テーマを初心者向けにアレンジして実施する予定です。

## 高専防災減災コンテストに向けて

都市環境デザイン工学科5年 石川 航輝



私たちは今、高専防災減災コンテストに向けて三和土の手法を用いたシラスの改良を行っています。このテーマを選んだ理由は、鹿児島県は年間を通して雨の多い地域で、それに伴い土砂災害が多く起こっています。その原因は、鹿児島県本土面積の約55%を占めているシラスは水を含むとたちまち崩壊する性質によるものです。そこで、水に弱いシラスの性質を克服することで土砂災害を減らすことができるものと考え、このテーマを選びました。シラスの固化の手法として、私たちは三和土の技術を選びました。三和土とは、母材（ここではシラス）、苦汁そして漆喰を混ぜ合わせ叩き固めることによって強度が増す我が国固有の技術です。強度の発現に時間はかかりますが、セメントのような重金属を含まないことから、環境への負荷が小さいという利点があります。三和土の材料の一つである漆喰に水酸化カルシウムの試薬を使って昨年度の高専防災減災コンテストに挑みました。最終審査会までは勝ち残ることはできましたが、入賞には届きませんでした。今年度は漆喰を鹿児島県が生産量日本一を誇る鶏卵の殻から作成する方法で最終予選会に臨みます。鶏卵殻は3割ほどは再利用されるものの、残りは廃棄されることから、このテーマを実用化することにより郷土の防災への寄与のみならず廃棄物の削減を達成できることが期待できます。

しかしながら、いざ実験を始めると様々な困難に直

面します。鶏卵の内側には非常に薄い卵殻膜があり、これを除去しなければ漆喰の製造過程で行われる焼成で異臭を放つことになり、公害の原因になりかねません。洗剤やクレンザーで洗い流してもなかなか取れず、主成分であるタンパク質を分解する酵素プロテアーゼの試薬は非常に高価です。そこで我々はカビの仲間である糸状菌に着目しました。糸状菌もプロテアーゼを有していることから、糸状菌を含む土壌に鶏卵殻を埋め、温度30℃、湿度90%程度に保って好気性の糸状菌を活性化させ、1週間ほど放置することで卵殻膜が容易にはがれやすくなります。この手法により焼成時の異臭の発生の回避を確認できました。現在、強度への影響を確認するために実験を続けています。

また、ステーキホルダーへのインタビューが必須なものこのコンテストの特徴です。本校に非常勤講師としてお見えになっている建設コンサルタントにご勤務の末吉智宏先生や大会事務局にセッティングしていただいたメンター（防災科研の先生方）から助言をいただきながら実験を進めています。実験室内での作業では材料の配合や養生条件と強度の発現のことばかり考えていますが、折に触れ社会実装に向けて解決すべき課題を提示していただき、まさに目から鱗が落ちる思いです。たとえば、鶏卵殻の入手経路は？卵殻膜を除去するための人手は？水源地付近で使用を想定した場合の流出水のpHの影響は？などなど…。これらの解決に向け、農林水産省、鹿児島県庁、霧島市役所、食品メーカー、本校学生食堂へのインタビューを続けています。

参加する学生は私を含め4名ですが、1月24日につくば国際会議場で開催される最終審査会への大会事務局からの旅費は3名分しか支給されません。しかしながら、不足の1名分は本校の高橋記念寄付金をはじめ本校独自の基金で支援していただく見込みがつき、大変ありがたく思っています。

昨年、このコンテストに臨むにあたり、86水害を中心に過去に県本土で起こった土砂災害を調査しました。近年、国土のあちこちで発生する線状降水帯が今夏は霧島市や始良市に現れ、甚大な被害をもたらしました。姿を変えて我々を襲う災害に立ち向かう技術が今なお必要であることを思い知らされました。私たちの取り組みがその一助となれば幸いです。



## サイバーセキュリティボランティア

電子制御工学科 福添 孝明

サイバーセキュリティに関するニュースで、大企業が被る経済的損失ならびに社会的影響の大きさを感じられることが増えています。この活動は、学生が小中学生を対象に訪問講演を行う取り組みで、積極的に活動している学生に寄稿して頂きました。



電子制御工学科5年 木佐木 陽介

私は2年次からサイバーセキュリティボランティアに参加し、小中学生への出前授業やK-SECの学習会などの活動を行ってきました。中でも特に印象に残っているのが、小中学生への出前授業です。

出前授業では、サイバーセキュリティに関する分野からテーマを選び、小中学生に向けて講演を行います。私はニュースやSNSなどで話題になっているテーマを選ぶことが多く、小中学生にもわかりやすく伝えられるよう試行錯誤を繰り返してきました。発表後に「わかりやすかった」という反応をもらえたときは強い達成感を感じ、活動を続けるモチベーションになっていました。

また、出前授業は、テーマの選定から資料の作成、発表順の決定、本番の発表まで、すべて学生が中心となって実施してきました。私はまとめ役として、メンバー間でのテーマ調整や発表資料の作成、発表順の決定、発表時間の管理などを担当してきました。特に発表時間については、他のメンバーに「時間の調整は僕がするから、話したいことを話しておいで」と声をかけ、それぞれがやりたい発表を実現できるようサポートしてきました。

これらの経験はサイバーセキュリティボランティアとして活動していなければ得ることのできなかった経験であり、財産だと思っています。昨年度に引き続き今年度も企業へのサイバー攻撃やランサムウェアの被害は連日ニュースになっています。サイバーセキュリティボランティアとしての活動時間は少なくなっていますが、残り時間で少しでも多くの小中学生に、正しく身を守るための知識を伝え続けていきたいと思いません。

電気電子工学科3年 迫田 陽奏子

私は今年度からサイバーセキュリティボランティアに参加し、小中学校でサイバーセキュリティに関する講演を行う活動をしています。

その中で最も印象に残っているのは、9月に種子島で行った講演です。2日間で3つの小学校を訪問し、講演をさせていただきました。種子島では、子どもたちが日頃触れているものが本土とは少し異なるため、最初の講演では例として挙げた話題が伝わりづらい場面がありました。そのため、具体例をより身近に感じられるようなものに変更して資料を作成し直したり、反応を見て質問を交えたり工夫をして講演を行いました。

離島訪問は短い期間に多くの講演を行います。そのため、一つひとつで得た反省点や改善点をすぐ次へ活かすことができ、自分の伝え方や対応力を磨く貴重な経験となりました。どの学校でも先生方と子どもたちが温かく迎えてくれ、島ならではの和やかな雰囲気の中で授業を行う時間はとても印象深いものとなりました。

今では小中学生の多くがスマートフォンを利用し、日常的にインターネットに触れることが当たり前になってきています。そんな時代だからこそ、正しい知識を身につけ、情報を適切に選び取り自分で判断する力がとても大切です。この活動が、その力を育む上で少しでも力になればいいなと思います。これからもより良い講演を届けていけるように頑張ります。

## 眼鏡4人で挑んだコンクリ

都市環境デザイン工学科2年 前野 琥介



私達4人は「チーム眼鏡」として、「鹿児島コンクリートコンテスト2025」のニアピン部門（指定された強度にいかに近づけるかを競う部門）に出場しました。今年度の指定強度は15 N/mm<sup>2</sup>と45 N/mm<sup>2</sup>の2つがあり、私達は15 N/mm<sup>2</sup>の部門で3位に入賞しました。

コンクリートとは、砂と石、水にセメントを混ぜてつくられる建設材料です。これら原料の使用量を試行錯誤しながら多くのチームが優勝目指して奮闘しました。私達のチームは体育祭が終わってから、15 N/mm<sup>2</sup>のコンクリート製作に集中し、時間のある放課後はほぼ毎日材料実験室に通いました。「どうすれば15.0 N/mm<sup>2</sup>に近づけられるか」をテーマに、チームのメンバーや材料研究室の先輩と話し合いながら、配合を試行錯誤して考えました。

本番に近づくにつれて、より良い供試体ができるようになり、誤差がほとんどないと思われる配合を4条件製作しました。本番当日の朝、集合時間よりも早く集まり、コンテストに提出する供試体を決めようとしたのですが、実際に測ってみると、2条件の供試体が20 N/mm<sup>2</sup>を超えており、予想と大きく違っていたため、チーム全員が驚きました。そのため、残った2条件のうちどちらを提出するかを選ぶことになりました。1つ目は16.8 N/mm<sup>2</sup>と測定できましたが、もう1つは予備がなく、強度を測定することができませんでした。どちらを提出するかチームで長時間話し合いをした結果、15.0 N/mm<sup>2</sup>には近いと予想されるものの、実際の強度は不明な4つ目の供試体を提出することに決めました。

会場に到着すると鹿児島工業高校、第一工科大学、鹿児島大学など、様々な学校が参加しており他校と競えることを嬉しく思い、またどこまで仕上げているのか楽しみでした。15 N/mm<sup>2</sup>の部門から競技が始まり、鹿児島工業高校からの順で始まり鹿児島工業高校が15.0 N/mm<sup>2</sup>、15.2 N/mm<sup>2</sup>、14.4 N/mm<sup>2</sup>と好記録を出しており、先生方も「この3つは優勝してもおかしくない」と話していました。私達のチームは、正直なところ入賞は難しいかもしれないと感じていました。

私たちの番になり、「15.0 N/mm<sup>2</sup>に近ければ良いな」と思いながら試験機に供試体がセットされるのを見守りました。試験の結果は15.2 N/mm<sup>2</sup>！私たちが試作した中でも最高の結果で、2位タイという素晴らしい記録となりました。

ただし、順位は1チームずつと決まっていたため、2位をかけてくじ引きによる抽選が行なわれました。結果は残念ながら外れてしまい、3位となりましたが、自分たちにとっても、周囲から見ても誇れる記録だったので、とても嬉しかったです。

放課後に手伝ってくれたり、相談に乗ってくれたりした先生や研究室の先輩方のおかげで、3位という結果を残すことができたと思います。感謝しています。

午後には、普段はなかなか体験できない生コンクリート工場の見学がありました。主に操作盤、資材置き場、プラントの3つについて説明を受けました。私が特に印象に残ったのは資材置き場です。そこには大分県津久見市産の石灰石など、大きさや種類の違う骨材がたくさんあり、興味をひかれました。さらに詳しく話を聞くと、コンクリートの用途によって骨材の種類を変えているとのことで、どのような骨材がどの用途に使われているのか、詳しく調べてみたいと思いました。

今回は15 N/mm<sup>2</sup>の部門に集中して取り組んだため、来年のテーマは不明ですが、45 N/mm<sup>2</sup>の部門にも挑戦し、両方で良い結果を出せるように頑張りたいと思います。また、今年度も都市環境デザイン工学科以外の学科からも数名が参加していたので、他学科の人たちにももっと興味を持ってもらいたいと思いました。私自身も他の学科のことや様々な分野にチャレンジしてみたいと感じました。

最後に、この文章を読んで、少しでもコンクリートに興味を持っていただけたら嬉しいです。



## 集大成への通過点

都市環境デザイン工学科5年 近藤 瑛奈



私にとって“デザコン”が「高専生活の集大成」から「集大成への通過点」へと変化したのは、作品づくりの中で価値観そのものが変わった瞬間があったからだ。私達の研究室では毎年デザコンに挑戦しており、今年も「絶対に本選へ」と意気込んでいた。しかし提示されたテーマ「織りなす」は非常に難しく、作品の方向性に悩みながらのスタートだった。

私達のチームは空港と離島課題を扱うこととなり、

南西諸島最大の奄美空港を訪れて現地調査を行った。実際に地域の人々と話し、土地の自然や文化に触れる中で、ただの課題解決ではなく「もっと深くデザインしたい」「自分が心から納得できる空間を創りたい」という思いが強くなった。

調査を基に案を形にする過程で、建築の難しさと面白さ、そして“人がどう使うのか”という視点の大切さを改めて実感した。結果として本選には進めなかったが、この経験が私を次のステップである卒業設計へと導いた。私は自然と奄美空港を卒業設計の題材に選び、島への思いや人々の願いを空間として表現したいと強く願うようになった。

この経験を通して変わったのは、賞のためでも技術力のためでもなく、地域やそこに暮らす人のためにデザインしたいと思えるようになったことだ。デザコンは卒業前の集大成ではなく、技術者としての未来へ進むための通過点だったと今でははっきり感じている。これから先も、多くの人の生活や笑顔を支える空間を創る技術者になりたい。

## デザコンに参加して得たこと

都市環境デザイン工学科3年 今中 美輝



この度、SSD デザインコンペティションでプレデザコン空間デザインフィールドにおいて、最優秀賞を頂きました。ご指導くださった先生、制作中に支えてくれた友人や家族のおかげです。この場を借りて心より感謝申し上げます。

プレデザコン空間デザインフィールドでは、現存する、または過去に実在した構造物をモチーフにテーマである「織りなせ！アイデアとデザイン」を表現する独創的な絵を描くことが応募条件でした。今大会は福井県が開催地であり、最初にイメージした「恐竜」をテーマに描くことにしました。恐竜に関する構造物と

して「福井県立恐竜博物館」を選びました。

しかし博物館を描くだけでは、テーマに応えることはできません。そこで私はデザインを通して「時間」を織りなすことを表現しようと試みました。

試行錯誤の末にたどり着いたのが、銀色に輝く卵のようなドームの恐竜博物館を中央に配置し、周囲に複数の恐竜たちの姿を描く構図です。上空には恐竜時代の変化の象徴となる隕石を配置しました。

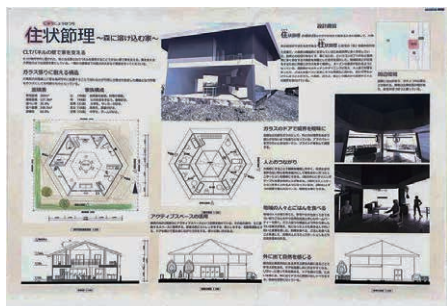
本来は決して交わらない「太古の恐竜」と「現代の構造物」を一枚の絵の中に共存させることで、福井で展開された時間の流れを「織りなす」ことができるのではないかと考えました。

今大会を通して、私は大きな学びを得ることが出来ました。それはデザインとは絵を描くだけでなく、理由を考えることだということです。「なぜここに隕石があるのか?」「なぜこのアングルなのか?」という疑問に対して直ぐに答えられるような自分なりの物語を持つことで一つ一つの構成に意味を持たせることができ、見る人の心に届く作品を作れるのだと感じました。

今回の受賞は大きな励みとなりましたが、この結果に満足することなく、さらに難易度の高いコンペティションや、より建築に深く関わるようなものにも挑戦していきたいです。そして、多くの人に魅力を感じてもらえるような建築を生み出せるように努力していきたいです。

## 建築設計競技

都市環境デザイン工学科3年 竹元 ほのか



今年の夏休み、私は第61回建築設計競技において金賞を頂きました。テーマは「家族みんなで明るく暮らす住まい」です。この競技は鹿児島県内の高校生を対象に行われています。私が3年生のため、今年が最後の年ということで今回初めて挑戦しました。

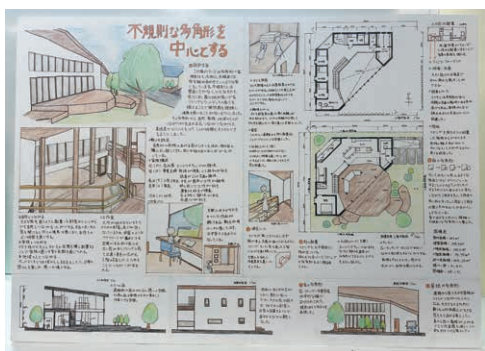
作品作りはPCの3DCADで設計から作品のレイアウトを行いました。私はPCなどに苦手意識があり、今まで様々な場面で避けてしまっていたのですが、将来のため、何事も経験と思いCADで設計を行いました。

設計した住宅は、上から見ると正六角形の形になっています。幾何学的な形で円形に近く人と人との関わりが生まれやすくなると考えました。しかし一般的な住宅の形とは異なるため、2階へと続く階段を設置する場所に、最後まで苦戦しました。最終的には、最適な場所に設置することができました。

そうは言ったものの、気になる部分はまだいくつかあり、提出した時は、完成した達成感と、もっとやりたい所があったな、という不完全燃焼感を感じました。そのため競技の結果が出て、金賞に選ばれたと知ったときは、目を疑いました。自分が金賞に選ばれるとは、ましてや賞に選ばれるとは思っていませんでした。賞を頂けて素直にうれしいという思いと、私でいいのかという思いを抱きました。自分にあまり自信が無く、賞を頂けたことをただ純粋に喜ぶことができませんでした。作品に満足できていなかったことも関係しています。賞を取ることが全てではないですが、一つの指標にはなると思うので今後、様々なことに挑戦して経験を積み、センスを磨き、選ばれたと、堂々と言えるようにしたいと思います。これから、より成長できるよう頑張っていきたいです。

## 挑戦したから得られたもの

都市環境デザイン工学科2年 八谷 陽渚



私は今年の夏、建築設計競技に参加しました。夏休み前から週に一度、同じコンペに参加している人達で集まり、互いのアイデアを共有し、先生にご指導頂きながら、夏休みから作業を本格的に始めました。自分本位のアイデアだけでなく、スタディに参加したからこそ、同級生や先輩方のアイデアを見ながら、多くの刺激を得て、客観的に見ながらより良くすることができました。そして、コンペに向けて作り始めたスケッチブックがあります。一からどのように家を考えてい

けば良いのか右も左もわからない中、考えたアイデアをできるだけたくさん書いていったものです。大変でしたがノートを見返す度に、「こんなことやりたい!」「もっとこだわることができるんじゃないか?」とワクワクしてきて、諦めずに取り組むことができました。

作品の中で特にこだわったのは、大きな屋根です。私は大きな屋根の家に幼い頃から憧れがありました。ですが、ただ大きな屋根ではコンペの提案として意味がありません。どんな風に家全体や人に影響していくのか。そして、それを一枚のプレゼンボードで伝えられるように、手描きで細部までこだわりました。最終日、完成した時は達成感で胸がいっぱいになりました。

1年生の時にも2つのコンペに参加したのですが、どちらも賞は取れず、悔しい思いをしました。けれど、1年生の時に挑戦していたからこそ、どのように意見を説明するのが伝わりやすいのか、どの作業に時間がかかってしまうのかなど経験を活かして、取り組むことができました。だからこそ、今回銅賞を頂けたと連絡を聞いた時は、本当に嬉しく、これからの自信に繋がりました。来年もより良い家を目指して挑戦したいと思います。



# 学生の活躍～部活動編～

鹿児島工業高等専門学校では、学業だけでなく、課外活動においても学生たちが日々挑戦を続けています。部活動は、仲間と共に切磋琢磨し、技術や知識を深める場であると同時に、人間的な成長を促す大切な時間です。そこには、勝敗を超えた努力の軌跡や、仲間との絆、そして自分自身を高めようとする強い意志が息づいています。

今年度も、数多くの部活動が大会やコンテストに挑み、素晴らしい成果を収めました。結果だけを見れば華やかですが、その裏には、地道な努力と工夫、そして仲間との信頼関係があります。限られた時間の中で、学業と両立しながら挑戦を続けることは決して容易ではありません。それでも、彼らは諦めることなく前を向き、目標に向かって突き進みました。

ここでは特に優秀な成績を残した11団体について、その成績にたどり着くまでの軌跡をご紹介します。

- バドミントン部：全国高等専門学校体育大会バドミントン競技団体戦個人戦優勝
- サッカー部：九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会サッカー競技優勝
- ハンドボール部：九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会ハンドボール競技優勝
- 吹奏楽：FM きりしま『霧音～Radioからの調べ』出演
- 剣道部：全国高等専門学校体育大会剣道競技出場
- テニス部：九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会テニス競技団体戦優勝
- 卓球部：全国高等専門学校体育大会卓球競技出場
- ソフトテニス部：全国高等専門学校体育大会ソフトテニス競技男子団体戦3位
- 柔道部：全国高等専門学校体育大会柔道競技3人制団体戦3位
- 陸上部：九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会陸上競技優勝
- メカトロニクス研究部：高専ロボコン全国大会出場

## 挑戦と感謝の5年間

【バドミントン部】都市環境デザイン工学科5年  
宮里 七星

私たちバドミントン部は、「夢」というスローガンのもと、全国高専大会3連覇という目標に向けて活動してきました。日々の練習や、堂園先生をはじめとする顧問の先生、草ノ瀬コーチ、山崎コーチのご指導、応援して下さる保護者、OB・OGの支えのおかげで、3連覇を達成することができました。

個人としても全国高専大会の団体の舞台に立たせていただき、厳しい戦いでしたが、勝ってチームに貢献できたことをとても誇らしく思っています。

私が入学した頃は全国高専大会初優勝を目標にやっていたチームでしたが、現在は連覇というさらに難しいことに挑戦しています。こんな風に夢が一つずつ大きくなっていくことができたのも先輩方が繋いできた努力や伝統があったからこそです。

5年間の活動を通して、多くの人と関わり、自身の成長にも繋がりました。日々の練習で厳しく指導して下さった先生やコーチ、面白くて優しくありながらも厳しくたくさんのことを学ばせてくれた先輩方、努力を惜しまず、輝かしい成績を残していく後輩たち、試合のたびに応援や差し入れを届けてくれた保護者の

方々、私たちを後押しし続けてくださった地域の方々、そうした多くの存在を通して、結果だけではなく「人としてどうあるべきか」ということも学べました。勝ったときは喜びを分かち合い、負けた時は悔しさの中でも前を向くこと、仲間のために全力で戦うこと、自身と向き合う姿勢など、その一つ一つが自分を強くし、大きく成長させてくれたと思います。



共に汗を流し、励まし合い、高め合ってきた仲間との存在は、高専生活を最高のものにしてくれました。仲間と築いた力を大切に、これからも刺激し合いながら前に進んでいきます。この経験は一生の宝物です。

これからもバドミントン部は新たな夢に向かって走り続けます。自慢の後輩たちが伝統と誇りを胸に新たな夢を実現していく姿を応援してください。今後とも熱い声援をお願いいたします！

## 九州沖縄地区高専大会 2 連覇

【サッカー部】 電子制御工学科 5 年  
久保 蘭 弘 稀



九州沖縄地区高専大会は例年とは違い秋の11/7～11/9にかけて行われました。昨年の7月に行われた九州沖縄地区高専大会から長い準備期間が与えられていましたが、もう一度トロフィーを掲げ、2連覇を成し遂げるために日々の鍛錬を怠らず、前向きにサッカーに打ち込みました。その結果、初戦である熊本高専八代キャンパス戦は1-0で勝利し、続けて有明高専戦1-0、決勝は3-0で熊本高専を下し2連覇を成し遂げることができました。

今年は「響銘」をスローガンとして掲げ、学年関係なくチーム全体を巻き込んで協調し、互いに良い影響を及ぼし合い鹿児島高専の歴史に名を刻むという意味を込めました。4年生の部員が一人もいない中でしたが、チーム一体となり学年の壁を越えて互いに競い合い、高みを目指すことができました。また、チーム内だけに限らず、保護者、父母会、OB・OG、そして応援にも来てくれた同級生の方々とも一体となることができ、改めて「響銘」を掲げることができてよかったです。

今年も全国優勝には届かず、後輩たちに託す形となりました。これからも目標は変わらず、全国制覇に向けて練習に取り組んでほしいと思います。

ここで5年生の高専でのサッカー人生は幕を閉じましたが、これまで培ったメンタル、経験を活かしてそれぞれのステージへと羽ばたいていこうと思います。当時、1年生で何も持ちえず幼かった私たちをここまで成長させてくれた先生方、保護者の方々、共に戦った仲間、そして鹿児島高専サッカー部には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

## キャプテンとしての1年

【ハンドボール部】 都市環境デザイン工学科 5 年  
笠師 福之助



私たち鹿児島高専ハンドボール部は、九州沖縄地区高専大会優勝、全国高専大会入賞という目標を掲げ、日々練習に励んでいます。今年度は九州高専大会優勝という目標を達成することができました。

今年は昨年までの主力メンバーが抜け、上級生の部員が少ないため、試合経験が少ないなどの不安を抱えておりチームとしての土台作りにも苦労する場面もありました。

そうした中で迎えた三月の西日本チャレンジカップでは思うような結果を残すことができませんでした。夏の九州高専大会は6連覇がかかっているというプ

レッシャーもあり、「このままでは優勝には届かない」という焦りを強く感じていました。その思いをうまく言葉にできず、後輩に対して厳しい言葉をかけてしまったことは、今でも反省しています。

それでも後輩たちはくじけることなく、最後までチームについてきてくれました。経験の浅い選手も一つ一つの練習に真摯に向き合い、コミュニケーションをとりあいながら成長してくれました。そんな姿に引張る立場でありながら、実際には後輩の存在に助けられていたと思います。

夏の九州高専大会を前に、6連覇へのプレッシャーやチーム状況への不安もあり、大会前日の夜はほとんど眠ることができず、これまでの試合や練習、チームメイトの顔が頭に浮かびました。それでも当日はチーム全員で力を出し切り、優勝という最高の結果をつかみ取ることができました。試合終了のブザーが鳴った瞬間ほっとしたと同時に後輩たちが笑顔で駆け寄ってくれて、ここまで一緒に歩んできた時間が報われたように感じ、本当にうれしかったです。

優勝という大きな目標を達成できたのは、きつい練習にも逃げずについてきてくれたみんなのおかげです。みんなの努力がチームを強くしてくれました。これからも仲間を大切にしながら自分たちらしく成長していくことを願っています。



## 吹奏楽部第25回定期演奏会 ～FM きりしまで放送されました～

【吹奏楽部】都市環境デザイン工学科5年  
坂元 こよ莉



鹿児島高専吹奏楽部には、1年生から5年生まで40人の部員が在籍しています。主な活動として、6月の定期演奏会、7月の県内地域を巡るボランティア演奏旅行、高専祭をはじめとした学校行事での演奏、12月のウィンターコンサートなどがあります。

第25回定期演奏会で演奏した曲を、FM きりしま

(FM76.9MHz)『霧音～Radioからの調べ～』にて放送していただきました。

定期演奏会は、部長・副部長を先輩たちから引き継ぎ、新入生を迎えて初めて臨む演奏会です。今年度は主顧問が町先生、副顧問が曾山先生に交代し、新体制としてのスタートの年でもありました。こうした点から、本演奏会は〈新生〉鹿児島高専吹奏楽部としての最初の定期演奏会となりました。

5年生は就職や進学に向けた活動と並行しながら、演奏会の運営についても自分たちで考えます。上級生として部員をまとめ、運営面で調整することは大変でしたが、そこから得られた学びは大きかったと感じています。今年度は外部指導者の助力も得て、基礎力の大切さや本気で音楽に向き合う楽しさを改めて実感しました。

また、25回目の節目として、一部楽曲にOB・OGの先輩方にもご参加いただき、世代を超えたつながりを感じる機会となりました。私自身は引退となりますが、これからも後輩たちが多くの方に愛される吹奏楽部を築いていくことを願っています。

## 来年こそは

【剣道部】機械工学科3年 富田 蒼士



私は小学校から剣道を始め、中学校で辞めて、高専で再開しました。3年のブランクもあり入部した当初は、練習についていけるか不安でした。前は出来ていたことが出来なくなっていました。

そのため、心が折れかけました。しかし、日々の練習を頑張っている先輩方の姿をみて自分も負けてられないと思いました。また、個人戦で全国大会出場を果たした先輩を見て私も全国大会出場が目標になりました。練習が嫌になることもありましたが、1日も休まず毎日通い続けました。その成果もあり、第60回の全国高専大会に出場することができました。

全国大会出場にあたり、私が心掛けていたのは、小さな努力を継続することです。練習は正当な理由がない限り休まないようにしました。継続することで新たな課題も見えてきました。また、家での素振りも毎日行いました。その小さい積み重ねが実を結び全国大会出場につながったのだと思います。そして、全国大会出場は、日頃の練習で一緒に切磋琢磨してきた部員たちのおかげでもあります。ブランクを経て再開した私にとっては、部員全員が常に高い目標となりました。全国大会の直前まで練習を一緒にしてくれました。部員の協力や応援が私にとってとても心強かったです。これに見合った結果を出そうと思いました。初めての全国大会で不安もありました。個人戦での出場だったため部員が会場に来ていませんでした。いつもなら近くで聞こえていた応援がない状況でした。それでも、一緒に頑張ってきた部員や先生方の顔を思い浮かべ、頑張ろうと思えました。全国大会では満足のいく結果を残すことはできませんでしたが、その経験から明確な新たな課題を見つけることができました。この課題を克服すべく、これからの練習に励み、来年こそは団体戦と個人戦での全国大会出場を目指します。

## 感謝の九州大会二連覇

【テニス部】電子制御工学科5年 日高 優



今年の7月に開催された九州高専大会の団体戦において優勝することができ、去年に続き二連覇することができました。そして、夏休みに熊本で開催された全国高専大会では、逆転勝ちで初戦を突破できたものの、二回戦で負けてしまい、全国ベスト8という結果で私の5年間の部活動は終了しました。

私はテニス部の部長として去年の九州高専大会団体戦優勝に引き続き、必ず今年も九州で優勝して全国高専大会でも勝ち上がると心に決めて新チームをスタートしました。今年は、チームとしての課題だったスタ

ミナ面を強化するために走りのメニューを増やしたり、土日に部内戦を増やしたり、緊張感をもって練習することを意識した練習メニュー作りを心がけました。練習メニューがチームに馴染んできたのは九州高専大会連覇という目標があったからだと思います。実際に大会が近づいてくるにつれて部員全員の士気が高まり、いい雰囲気の中で練習をすることができました。その結果、絶対に優勝できると確信して九州高専大会に挑むことにつながったと思います。

私の話になるのですが、私は中学までは野球に打ち込んでおり、高専に入学と同時にテニスをはじめました。というのも、高専では何か新しいスポーツに挑戦したいと思っていて、選んだのがテニスでした。試合で負けることが悔しく、経験者との差を埋めるべく部活の時間外で自主練や、トレーニングを5年間積み重ねてきました。一緒に頑張ってきた同級生が部活に来なくなったり、自分のプレーが嫌になったりして部活をやめなくなったことが何回かありました。中途半端で辞めると後から後悔するとの思いから、5年間テニスが続けることができました。最後の九州大会での優勝はその努力の集大成だったと思います。最高に充実した5年間の部活動でした。

最後になりましたが5年間の部活を支えてくださった顧問の先生方、チームメイト、親に感謝します。

## 高専大会

【卓球部】都市環境デザイン工学科3年 東郷 浩弥

7月に九州沖縄地区高専大会がありました。私たちはグループリーグ1戦目で久留米高専と、2戦目で大分高専と当たることになりました。

今回は全国が九州であるということで九州から2枠プラス開催校枠の合計3枠が与えられていました。グループは3つ。すなわち、グループリーグを1位で上がることができれば全国高専大会で出場ができるということです。

今の5年生の代で全国行きたいと話していた中でのチャンスが巡って来たのです。それから私たちは2勝して全国に行くという目標を立て、毎日練習を重ねていきました。1つの目標に向かって努力することがどれだけ楽しいのかを実感した瞬間でした。

そして迎えた当日、初戦の久留米高専には勝ちまし

た。その後大分と久留米の試合で大分が勝ちました。3戦目鹿児島と大分の勝った方が全国にいけるという状況で私たちはいつも増して気合いが入っていました。試合前に普段しない円陣をみんなで組んだり点数とったらいつもよりも声を出して目の前にある目標に向かって全力を出していました。結果は勝ち！勝ったチームメイトの元に駆け寄りみんなで抱き合い涙を流したあの瞬間、忘れることはありません。今まで卓球をしていて良かったと心の底から思えました。決勝リーグでは一勝もできませんでしたがあと1ヶ月5年生のメンバーと私の愛してやまない卓球をできると考えただけでも嬉しかったです。

今まで出た高専大会でもこんなに嬉しく充実した時間を送れたことはありませんでした。5年生への感謝とつくってくれた部活の良い雰囲気を元にこれからも鹿児島高専卓球部は前に進んでいきます。



## みんなで掴んだ勝利

【ソフトテニス部】電子制御工学科5年  
中野 紅



今年度の九州地区、全国高専大会は2つとも熊本で開催されました。3年前に私が初めてメンバーとして出場できた九州高専大会と同じ開催場所で、とても思い入れのある会場でした。今までの高専大会ではなんとか全国大会に出場できましたが、なかなか九州大会で優勝することができないという結果が続いており、今年こそ絶対に優勝するという気持ちで部員全員一致団結して練習してきました。

今年は私が入学してから一番多い40人近くの部員がいて、その中から8人がメンバーとして選ばれました。サポートをしてくれる部員みんな、先生、保護

者の方々の期待を背負って大会に臨みました。

初日は団体戦で、リーグ戦で勝ち上がったチームが決勝リーグに進むといった流れでした。決勝リーグでは私がかまくいかず有明高専に負けてしまいました。後輩が挽回してくれて優勝することができました。

2日目はトーナメント形式の個人戦でした。前日の団体戦で不甲斐ない試合をしてしまったため、個人戦ではしっかりと結果を残してやろうとより一層気を引き締めて挑みました。ペアと話し合っ常強気の姿勢を崩さず、そして後ろから聞こえてくる応援の声に押され、遂に優勝することができました。これまでのテニス人生の中で一番うれしかった瞬間でした。

そして全国大会です。ここにはインターハイに出場している高専などもあり、かなりハイレベルな大会となっていました。九州地区からは団体戦に鹿児島高専と熊本高専（熊本キャンパス）、個人戦に鹿児島高専2ペアと有明高専1ペアが出場しました。団体戦は、予選リーグを1位で通過し、決勝トーナメントで石川高専に負けてしまいました。全てのペアがギリギリの試合をしていてかなり悔しかったです。

今回の高専大会で鹿児島高専がかなり強くなったと思います。来年はさらに強くなった後輩たちがもっともっといい結果を残せると信じています。これからも応援よろしくお願いします。

## 全国高専大会3人制団体戦3位

【柔道部】情報工学科4年 尾辻 朱蓮



今年度、柔道部は初心者3人も入部し、去年よりも活気のある部活動になりました。近年、柔道競技人口は減少傾向にある中で、新

入部員の存在はとても嬉しいです。柔道部は、九州高専大会で団体も個人も入賞することを目標に日々、練習に励んでいます。

7月に熊本で開催された九州高専大会では、団体4位、個人66kg級で井之上賢成（4M）と前山雄大（2M）が3位、81kg級で尾辻朱蓮（4I）が2位という去年よりも悪い結果となり、目標を達成することができませんでした。福岡県で開催される全国高専大会に出場できるのは団体も個人も準優勝以上だったので、

幸運にも開催地方代表として、4位の鹿児島高専が3人制団体戦に出場することができました。

このチャンスを無駄にしないよう、全員で力を合わせて更に練習に励み、臨んだ全国高専大会1日目の団体戦、予選2試合とも危ない場面もありましたが、何とかどちらとも勝利し、決勝トーナメント（準決勝）に上がることができました。この調子でトーナメントも勝ち上がり優勝しようと臨んだ準決勝、対戦校は都城高専。同じ地方として負けられないと全員試合に挑みましたが、惜しくも代表戦で敗れてしまい、3位という結果で終わってしまいました。2日目の個人戦は、尾辻が出場しましたが、2回戦で今年の優勝者に敗れベスト8でした。

今年の全国高専大会は、内容としては悔しい思いをしましたが、たくさん学ぶことがあり、何よりも全国高専大会3人制団体戦で3位という思い出を残すことができて、とても良い経験になりました。また来年に向けて、より良い結果を残せるように、部員全員で力を合わせて練習に励んでいきます。

最後に、柔道部は現在6人という非常に少ない人数で活動していますが、まだまだ部員が欲しいです。体験でも大丈夫なので、ぜひ少しでも興味があれば武道館に来てください！

## みんなで二冠達成

【陸上部】都市環境デザイン工学科5年  
板山 幸汰



私は昨年、九州高専大会の5000mで3位に入賞しました。その結果をきっかけに、「来年は必ず優勝する」という強い目標を抱くようになりました。怪我に苦しみ、限界を超える練習を重ね、ついに今年の九州高専大会を迎えました。大会は2日間に分けて行われ、1日目は1500mに出場しました。スタートラインに立った瞬間、強い緊張を感じていましたが、それ以上に「やってやるぞ」という高揚感が胸に広がっているのを感じました。レースが始まり、ベストなポジションを保ちながら周囲の動きを警戒しましたが、なかなかレースは動きませんでした。迎えたラスト1周、勝負はラストスパートへともつれ込みました。スピードには自信がありましたが、それは他の選手も同じで、勝負は残

り100mとなりました。体は限界に達し、気持ちで負けそうになったその時、スタンドから陸上部の仲間の応援が耳に届きました。その声に背中を押され、最後の力を振り絞ることができました。結果は0.02秒差。競り合いを制し、優勝することができました。

大きな喜びを感じると同時に、翌日の5000mでも必ず優勝すると心に誓いました。そして迎えた2日目、5000mのスタート。レースは落ち着いたペースで進み、なかなか動きはありませんでした。私は後方で冷静な様子うかがい、勝負の時を待ちました。残り1kmでレースが動き、全体のペースが一気に上がりました。後方で力を温存していた私は、余裕を持って勝負に挑むことができました。残り200m、顧問の先生から「板山、お前の得意なレース展開だ！絶対勝てるぞ！」と声を掛けていただきました。その言葉を力に、ラストは大きな差をつけてゴールし、優勝することができました。この1500m、5000mでの優勝は、仲間のみんなの応援、そして顧問の先生の支えがあってこそ成し遂げられたものです。本当にありがとうございました。来年以降も、みんなで力を合わせ、さらに活躍していくことを心から楽しみにしています。

## 高専ロボコン全国大会を終えて

【メカトロニクス研究部】情報工学科3年  
木原 健心



私たちメカトロニクス研究部は、高専ロボコンでの全国制覇を目標に、日々ロボット製作に励んでいます。高専ロボコンとは、毎年提示される課題に対し、学生が自分たちの手でロボットを作り上げ、その完成度や独創性を競う大会です。今年、私たちのメカトロニクス研究部は実に11年ぶりとなる全国大会出場の切符を審査員推薦により手にすることができました。全国大会が開催される国技館は冬の時代を経て辿り着いた夢の舞台であり、今回は私が全国大会に出場することで何よりも強く感じたことをここに綴ります。

大会中に最も心を動かされたのは、勝敗を超えたロボコン同士との絆です。私たちが試合を終え、ロボットと共に待機エリアであるピットへ戻ったときのことです。そこには、直前までフィールド上で激しく競い合っていたライバルたちの姿もありました。しかし、彼らを含め、ピットにいた全ての人たちが私たちを同じ難題に挑んだ仲間として、惜しめない拍手で迎えてくれたのです。半年以上、この日のためにひたむきに情熱を注いできた者同士だからこそ通じ合う、互いへのリスペクトがあったのだと思います。勝ち負けに関係なく互いの健闘を心から称え合うその温かい空間に、私は深く感動しました。また、他高専の方々と技術的な交流ができたことも貴重な経験でした。他チームの機体を間近で見学したり、ロボットの制御方法について語り合ったりと、多くの刺激を受けました。自分たちが試行錯誤して作ったロボットについて質問されることも多く、誇らしく感じました。

今回は二回戦敗退という悔しい結果に終わりましたが、私たちにとってこれは終わりではなく、次なる挑戦への始まりです。この11年ぶりの出場を皮切りに、来年以降もこの流れを繋いでいけるよう、これからも精一杯ロボット製作に励みます。そしてこの経験を糧に、必ず来年またこの舞台へ戻り、来年こそ全国制覇を成し遂げます！



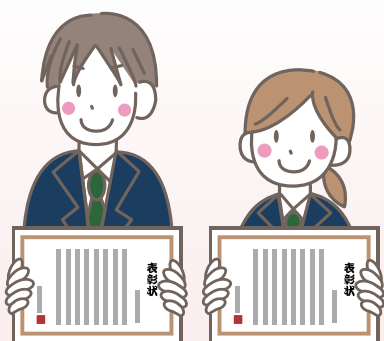
# 学生表彰

本校では、日々の学校生活や学習、そして部活動や地域での活動などで、特に頑張った学生や素晴らしい成果を挙げた学生を讃えるために「学生表彰制度」を設けています。この制度は、学生たちの努力を認め、自信へと繋げ、さらに次の挑戦を後押しすることを目的としています。

表彰の対象となるのは、学業成績が優秀な学生だけでなく、スポーツや文化活動で活躍した学生、さらにボランティア活動や善行を通して周囲の手本となる行動をした学生など、多岐にわたります。努力の形は一人ひとり違うため、さまざまな角度から学生の頑張りを評価できるようになっています。

表彰の種類には、在学中に欠課が皆無の者に与えられる「皆勤賞」、体育大会やコンテストでの優秀な成績もしくは学生会又は寮生会において顕著な功績があった者に与えられる「功労賞」や「スポーツ賞」、文化活動又は学会活動等において本校の名声を高めることに功績があった者又は団体に与えられる「文化賞」、社会福祉や人名救助及び重大事故の未然防止や社会的に顕著な善行があった者又は団体に与えられる「善行賞」、卒業研究として最も優秀な発表を行った者に与えられる「卒業研究最優秀賞」、学生の模範として表彰に値する者又は団体に与えられる「特別賞」がある。表彰は主に年度末に実施されますが、特に顕著な成果があった場合には適時表彰が行われます。

このように、学生表彰制度は、学生たちの努力を学校全体で認め、成長を支え、さらなる意欲を引き出すための大切な仕組みです。本校では、学生たちがそれぞれの場で力を発揮し、自信を持って未来へ進んでいけるよう、これからも温かく見守り、励ましてまいります。





## 令和7年度 第1回学生表彰一覧

### ◎スポーツ賞

#### ○団体の部

団体	大会等名	成績
ソフトテニス部	第62回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 ソフトテニス競技 男子団体	優勝
ハンドボール部	第62回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 ハンドボール競技	優勝
硬式テニス部	第62回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 テニス競技 男子団体	優勝
バドミントン部	第60回全国高等専門学校体育大会バドミントン競技 兼第49回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会 男子団体	優勝
バドミントン部	第62回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 バドミントン競技 男子団体	優勝
バドミントン部	第60回鹿児島県高等学校バドミントン競技大会 男子団体	第3位



○個人の部

学年・氏名	大会等名	成績
電子制御工学科 5年 松永 幸丸	第60回全国高等専門学校体育大会 バドミントン競技 兼第49回全日本高等専門学校 バドミントン選手権大会 男子ダブルス	準優勝
電子制御工学科 2年 向原 琉晴		
電子制御工学科 4年 阿比留 弘平	第60回全国高等専門学校体育大会バドミントン競技 兼 第49回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会 男子シングルス	優勝
電子制御工学科 2年 向原 琉晴		準優勝
電子制御工学科 5年 松永 幸丸	第62回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 バドミントン競技 男子ダブルス	優勝
電子制御工学科 2年 向原 琉晴		
電子制御工学科 4年 阿比留 弘平	第62回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 バドミントン競技 男子シングルス	優勝
都市環境デザイン工学科 5年 板山 幸汰	第62回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 陸上競技 男子 1500m	優勝
都市環境デザイン工学科 5年 板山 幸汰	第62回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 陸上競技 男子 5000m	優勝
情報工学科 4年 酒匂 莉乃	第62回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 陸上競技 女子 3000m	優勝
電子制御工学科 5年 中野 紅	第62回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 ソフトテニス競技 男子ダブルス	優勝
情報工学科 4年 川添 惺良		
電子制御工学科 1年 上園 彩加	第62回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 水泳競技 女子100m バタフライ	優勝
電子制御工学科 2年 向原 琉晴	第60回鹿児島県高等学校バドミントン競技大会 男子シングルス	第3位
電子制御工学科 2年 向原 琉晴	第70回鹿児島県春季バドミントン選手権大会 高校男子シングルス	第3位
電子制御工学科 2年 向原 琉晴	第39回鹿児島県ジュニアバドミントン大会 (兼 第44回全日本ジュニアバドミントン大会選考会) 男子ダブルス	第3位
電子制御工学科 2年 渡邊 周真		
電子制御工学科 2年 向原 琉晴	第39回鹿児島県ジュニアバドミントン大会 (兼 第44回全日本ジュニアバドミントン大会選考会) 男子シングルス	第3位
電子制御工学科 2年 向原 琉晴	第10回鹿児島県高等学校バドミントン一年生大会 男子シングルス	優勝
電子制御工学科 2年 増元 琉志	第10回鹿児島県高等学校バドミントン一年生大会 男子シングルス	ベスト8
電子制御工学科 2年 向原 琉晴	第10回鹿児島県高等学校バドミントン一年生大会 男子ダブルス	第3位
電子制御工学科 2年 橋口 寛史		
電子制御工学科 2年 増元 琉志	第10回鹿児島県高等学校バドミントン一年生大会 男子ダブルス	ベスト8
電子制御工学科 2年 渡邊 周真		

◎文化賞

○個人の部

学年・氏名	大会等名	成績
都市環境デザイン工学科 3年 今中 美輝	第4回 POLUS 木造住宅インターハイ 設計部門	佳作
都市環境デザイン工学科 3年 松原 杏佳	第4回 POLUS 木造住宅インターハイ 設計部門	奨励賞
建設工学専攻 1年 永田 侑希	令和6年土木学会西部支部研究発表会	優秀講演者賞

## 令和7年度 第2回学生表彰一覧

### ◎スポーツ賞

#### ○団体の部

団体	大会等名	成績
バレーボール部	第30回九州沖縄地区高専バレーボール新人大会 男子の部	優勝
サッカー部	第62回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	優勝
バドミントン部	第58回鹿児島県高等学校新人バドミントン競技大会 男子団体	第3位
サッカー部	第51回 KFA 学生リーグ	優勝

#### ○個人の部

学年・氏名	大会等名	成績
都市環境デザイン工学科 1年 沼田 紗良	第16回全国高等学校選抜クライミング選手権大会	鹿児島県代表 (県予選第1位)
電子制御工学科 2年 向原 琉晴	第58回鹿児島県高等学校新人バドミントン競技大会 男子シングルス	優勝

### ◎文化賞

#### ○個人の部

学年・氏名	大会等名	成績
都市環境デザイン工学科 3年 竹元 ほのか	令和7年度 第61回建築設計競技	金賞
都市環境デザイン工学科 2年 八谷 陽渚	令和7年度 第61回建築設計競技	銅賞
都市環境デザイン工学科 3年 飯森 爽晴	令和7年度 第61回建築設計競技	審査委員長特別賞
都市環境デザイン工学科 3年 松原 杏佳	令和7年度 第61回建築設計競技	佳作
都市環境デザイン工学科 3年 今中 美輝	第22回全国高等専門学校デザインコンペティション2025 プレデザコン部門 空間デザインフィールド	最優秀賞
建設工学専攻 2年 宮原 慎之助	令和7年度廃棄物資源循環学会九州支部 研究ポスター発表会	優秀ポスター賞
建設工学専攻 1年 緒方 怜進	10th STI-Gigaku 2025	Best Research Presentation Award
建設工学専攻 1年 久松 泰季	10th STI-Gigaku 2025	Best Research Presentation Award
建設工学専攻 1年 福富 将矢	令和7年度土木学会全国大会 第80回年次学術講演会	優秀講演者賞
機械工学科 5年 是枝 昇太	令和7年度パテントコンテスト	優秀賞 (特許出願支援対象)
電気電子工学科 5年 片平 瑠一	令和7年度デザインパテントコンテスト	優秀賞 (意匠登録出願支援対象)
電気情報システム工学専攻 1年 米田 歩生	ネットワークスペシャリスト試験	合格
情報工学科 1年 八ヶ代 悠人	実用英語技能検定	準1級合格
都市環境デザイン工学科 2年 清原 蘭	第58回九州沖縄地区国立高等専門学校 英語プレゼンテーションコンテスト 暗唱部門	第3位
情報工学科 4年 白鳥 弘士郎	第58回九州沖縄地区国立高等専門学校 英語プレゼンテーションコンテスト Q&A 部門	審査員特別賞
情報工学科 3年 碩山 健太	全国都道府県対抗 e スポーツ選手権2025 SIGA 大会 eFootball 部門 本戦出場	鹿児島県代表



# 学生会だより

## みんなで作った FUSION 2025

機械工学科4年 石原 汰一

皆さんこんにちは。文化祭実行委員長の石原汰一です。今年の文化祭では企画調整や動線設計、舞台配置の変更、YouTube 撮影の連携など、文化祭全体の進行に関わる仕事を担当しました。ここでは、5学科体制として迎える最後の文化祭に携わって感じたことや、この一年間で学んだことを紹介したいと思います。

今年の文化祭は、5学科体制として迎える最後の年度にあたる特別な文化祭でした。今年度のテーマは「FUSION 2025」。学科や学年、学生と地域、さらには来場者と学校全体がひとつにつながる文化祭を実現したいという思いから生まれたテーマです。私は実行メンバーとして、どうしたら一体感をつくり出せるかを考えながら準備に取り組んできました。

今年の文化祭で最も大きな挑戦のひとつが、舞台の位置変更です。例年とは異なり、覇者像前にステージを設置しました。校舎の中心に近く、展示や露店、体育館の催しなど、どこにいる来場者にも音や雰囲気が届く場所です。「文化祭に来た全員が、自然と同じ空気を共有できるようにしたい」という思いから、思い切って配置を変えました。この変更によって、人の流れが分断されにくくなり、校舎内展示の前を通りながらステージの盛り上がりを感じられるなど、文化祭全体の一体感が生まれたと感じています。

配置の工夫はステージだけではなく。露店、展示、体育館での出し物のすべてについて、動線を徹底的に考え直し、来場者だけでなく学生自身も満足して回れるように設計しました。どこで混雑が生まれるか、どの企画を近くに配置すれば相乗効果が出るかなど、何度も図面を書き直しながら最適なプランを探り続けました。スタンプラリーやエアアーチなど外観の工夫も加え、文化祭全体がテーマの「FUSION」を体現できるよう意識しました。

さらに今年は、YouTube

の高専チャンネルの方々にも協力していただき、撮影の準備にも携わりました。どの企画をどの時間帯に撮影するか、当日の動きがスムーズになるよう何度も打ち合わせを重ねました。外部の方と連携して進める仕事は初めてでしたが、相手に伝わるように説明することや、状況に合わせて調整する大切さを学びました。

こうして約一年をかけて準備してきた文化祭は、学生が主役となる「大きな文化祭」として形になりました。しかし、この成功は決して自分一人の力では成し得ないものでした。局長をはじめとするメンバーがそれぞれの担当を責任を持って進めてくれたおかげで、私は指示出しや全体調整に集中することができました。また、学生課の職員の方々、上田校長先生、学生主事の北蘭先生をはじめ、多くの先生方の支えがあり、さらに学生のみんが主体的に盛り上げてくれたことで、この文化祭が大成功したと感じています。また、人を動かす側に立ち、指示を出すことの難しさ、協力を得るために必要な姿勢や伝え方、さらには業者さんとのやり取りなど、学校では学べない多くの経験を得ることができました。何もない段階からアイデアを積み重ね、それが仲間とともに形になり、実際の会場に並んでいく過程は、私の中で大きな財産となりました。

「FUSION 2025」というテーマの通り、多くの人の力が融合した文化祭。その一端を担えたことを誇りに思うと同時に、この経験を今後の学校生活や将来に活かしていきたいとおもいます。



## 第63回体育祭

情報工学科4年 川元 太智



先日、鹿児島高専では第63回体育祭が開催されました！当日は天気にも恵まれ、早朝から校内には明るい声が響き、学生たちの表情にも自然と気合いが入っていました。私たち学生にとって体育祭は、普段の授業とは違う、学科全体の団結力を試せる特別な一日です。後期が始まってからの約一か月の準備期間には、どの学科も練習や制作に全力で取り組み、校内の雰囲気も一気に体育祭モードへと変わっていききました。「今年こそは優勝を！」という強い思いが、学科の垣根を越えて伝わってきました。

鹿児島高専の体育祭には大きな見どころが二つあります。それが「応援団」と「櫓絵」です。まず応援団では、各学科が演舞のテーマを決め、声出し・振り付け・隊形などをすべて学生だけで考え、約10分の演舞を作り上げます。今年もどの学科も迫力あるパフォーマンスを披露し、観客席からは大きな拍手が送られました。その中で応援の部優勝を果たしたのは情報工学科です。動きの揃い方や隊形の変化がとても美しく、日々の練習の成果がしっかり伝わる演技でした。応援団長の和田葵さんに話を伺うと、「この4年間、応援団では最下位しか経験してこなかったので、4年生として迎える最後の年に優勝できて本当に嬉しいです」

と、感極まりながら語ってくれました。

そしてもう一つの見どころが、体育祭の象徴ともいえる「櫓絵」です。各学科がテーマを決めて巨大アートを制作し、当日は全学科の作品がグラウンドにずらりと並びます。その光景は圧巻の一言で、毎年多くの人が写真を撮る人気スポットにもなっています。今年櫓絵の部で優勝したのは都市環境デザイン工学科です。細部まで丁寧に描き込まれた力強いデザインは多くの来場者を魅了し、完成度の高さが際立っていました。櫓絵長の西裕莉愛さんは、「都市環の櫓絵は他の学科よりも作業量が多く、完成まで本当に大変でした。でも最後に優勝できて、努力が報われました」と、達成感あふれる笑顔で話してくれました。

競技の部でも、学生たちの熱い戦いが繰り広げられました。短距離走や障害物競走、綱引き、玉押しなど、どの競技でも学科の仲間を応援する声絶えることはありませんでした。そして体育祭のクライマックスともいえる「学科対抗リレー」は、今年も一番の盛り上がりを見せました。どの学科も一歩も譲らない展開で、バトンが渡るたびに大きな歓声が上がりました。

特に今年は、最後の直線で電子制御工学科と都市環境デザイン工学科が激しいトップ争いを繰り広げ、会場全体が息をのむ展開となりました。そしてついに、電子制御工学科の走者が勢いよくゴールテープを切り、観客席からは大きな歓声が湧き起こりました。応援していた電子制御の学生たちは立ち上がり、歓喜の声を上げながら仲間と抱き合っていました。私自身もその瞬間を目の前で見て、本当に鳥肌が立ちました。

今回掲載されている写真は、まさにその電子制御工学科が1位でゴールした瞬間を捉えたものです。走者の全力の表情、仲間の歓声、熱気に包まれた空気感までも伝わってくる一枚で、今年の体育祭を象徴する場面となっています。

こうして発表された総合成績では、見事電子制御工学科が総合優勝を果たしました。リレーでの劇的な勝利をはじめ、どの競技でも安定した強さを発揮し、堂々たる優勝となりました。

体育祭の一日は本当にあっという間でしたが、学科の仲間と過ごしたこの時間は、忘れられない思い出になりました。準備を支えてくださった先生方や学生みんなのおかげで、今年も安全で盛り上がる体育祭となりました！本当にありがとうございました！！



# 寮生会だより

## 学内活動とは？

機械工学科4年 森尾 通

現在、私が所属している鹿児島高専志学寮寮生会は、学寮における活動を非営利的に行っている。もちろん、我々学生だけでは活動は成り立たず、諸先生方や寮務、当直の方々のご協力があってこそその活動であり、当然金銭的な利益や報酬はない。先にも述べたように、学生主体とはいえ教職員や職員の方々に助けられながらの活動であるし、寮生の生活について学生が主体となって活動することが目的だからだ。

私は本職に任命されてから、「学校教育における学内活動とはどのような役割があるのか？」という問いを自身の中で考えるようになった。今回は、この「高専だより」という機会をお借りして、自分なりの考えと寮生会の今後について意思表示させていただきたい。

このような問いを持ったのにはきっかけがある。それは、自身の考えと寮生会内での後輩たちとの意見の相違だった。活動の中で後輩たちと接していると、「寮生会にいてもメリットを感じない」という意見が多く見られた。確かに、自分自身の貴重な時間を割いて、寮内美化や点呼などの安全確認、寮内行事の企画運営などをしたとしても、アルバイトのように報酬をもらえるわけではない。だが、金銭を得ることや自身の目先の利益を追求することだけがメリットであると言えるのだろうか。

確かに、自分自身も寮生会の活動をする中で疲弊することや面倒に感じることはないわけではない。しかし、視点を変えてみれば、寮生会の活動の中で自身の成長や今後の糧になるようなこともあるのではないだろうか。マイナスの意識だけでは、せっかくの経験がもったいないと思う。部活動などの活動とは異なり、寮生会や学生会は自分自身のためだけの活動ではない。学校や寮などの集団のために活動している。だから

らこそ、得られるものがあると私は思う。

私の持論として、経験したことの意味は時間が経ってからでないと分からないと思う。実際に、苦労している時や面倒に感じている時は、「こんなことをして、なんの役に立つのだろう」と思うかもしれない。でも、案外後になってみると、経験したことが生きる場面に会うかもしれない。そう考えて行動した方が、いくばくか心も軽くなるし、前向きになれると思う。

それに、これから続く人生は案外長いものだと思う。だからこそ、私は「若いうちの苦労は買ってでもしろ」という言葉があるのだと思う。人は自分自身で成したことではないと、その人自身の価値にならないと思う。経験する過程で考え、悩み、工夫することが、その人なりの強さや能力になっていくのだと思う。だからこそ、早いうちからさまざまな経験を積むことが、未来の自分自身を助けることになると思う。

私は、寮生会という学内活動を通して、学内活動には「経験と成長の機会」という重要な役割があると感じた。確かに、普段の生活の中で経験や成長の機会がないわけではない。しかし、寮生会のような学内活動の場合、自分自身だけが対象ではなく、寮生全体に関わることもある。普段の生活と明確に違う点は、制約や配慮などの要素が複数あり複雑になっているという点だ。自分自身だけでない場合、行動一つをとっても何らかの縛りがある。その制約の中で問題解決に向け、自分自身で複数の要素について考えることが、より密度が高く応用性の高い経験を生むのではないだろうか。

だから、私は後輩たちに伝えたい。その瞬間の目先の利益や感情のような一次元的な考え方をしてほしくない。自分の行動の意味は、自分で見出すものだと。自分の捉え方次第であると。その時面倒だと感じることであったとしても、自分しか持っていない貴重な財産にすることができる。情けは人のためだけでは決してない。



# 部活動紹介

## 硬式野球部

- ①部長・副部長：緒方健心 立石楽人（高野連） 渡邊裕太（高専）
- ②顧問・コーチ：田中智樹 川添敦也 今村優樹 他2名
- ③活動内容：公式戦での勝利を目標に放課後の練習、土日に練習試合を行っています。自分達でメニューを考え、打撃・守備・基礎練習などに取り組んでいます。
- ④今年一番の思い出：新チームが始まってから部の在り方を本気で見直したことです。勝つために何が必要か考えたとき、技術面よりもまず日頃の練習の取り組み方に目を向けました。どこか緩い雰囲気、徹底力が十分ではありませんでしたが、話し合いを通して一人ひとりが危機感を持ち始め、意識が少しずつ変わっていきました。まだまだ未熟な部ですが、まずは一勝を掴むため、心血を注いで練習に励んでいきます。



## 男子バスケットボール部

- ①部長・副部長：川野清高 菊地凌陽
- ②顧問・コーチ：前薗正宜 杉元良成
- ③活動内容：チーム目標（全国高専大会優勝、県大会ベスト16）に向けての練習、練習試合等
- ④今年一番の思い出：九州沖縄地区高専大会で惜しくも全国高専大会への出場権を逃してしまったことです。開催地が鹿児島ということもあり、多くの関係者の方々が応援に駆けつけてくださり、部員の士気も高まった中で挑んだ大会でしたが、あと一步届きませんでした。悔しい結果でありましたが、数少ない5年生の先輩方がここまで導いてくれたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。



## 女子バスケットボール部

- ①部長・副部長：水田流菜
- ②顧問・コーチ：渡辺創 熊華磊 塩盛秀彰 吉原侑里
- ③活動内容：女子バスケットボール部は現在選手6名、マネージャー1名の計7名で活動しています。人数は少ないですが、週に4日、高専大会に向けて楽しく練習を行っています。
- ④今年一番の思い出：一番の思い出は今年度の九州沖縄地区高専大会で2年連続の準優勝を達成できたことです。来年度の九州沖縄地区高専大会では優勝することを目標にしてこれからの練習も頑張っていきたいと思えます。



## 男子バレーボール部

- ①部長・副部長：石原汰一 駿河栄太
- ②顧問・コーチ：池田匠児 拜田稔 田畑隆英 片平智仁
- ③活動内容：各種大会への参加とそれに向けた練習
- ④今年一番の思い出：鹿児島で開催された全国高専大会です。プレーするだけでなく大会運営側を経験したことにより、周囲への感謝の気持ちとチームの団結力が一段と強まった大会でした。良い成績は残せなかったものの、この一年間全国優勝に向け、部長の石原を中心に沢山の工夫や話し合い・練習を重ねている選手、それを全力で支えるマネージャーと先生方。今までより更に全員がひとつになれた一年間でした。来年度は今年手放してしまった九州王者の称号奪還と、悲願の全国優勝を目指し、後輩たちが頑張ってくれることでしょう。期待しています。





## 剣道部

- ①部長・副部長：椅山大駕
- ②顧問・コーチ：山本聡 節政徹也 蒲生義幸
- ③活動内容：日々剣道の修練を積み、各種大会に出場する。
- ④今年一番の思い出：九州沖縄地区高専大会において、4年連続での全国大会への出場権を勝ち取ったことです。昇段審査においても5年生が4段に合格しました。来年度はさらに上位の成績を目指せるよう稽古に励んでいきたいと思えます。



## 柔道部

- ①部長・副部長：尾辻朱蓮 井之上賢成
- ②顧問・コーチ：澁田諭 村上光樹 富永太志
- ③活動内容：打ち込み、投げ込み、乱取り、筋トレ
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は、福岡県で開催された全国高専大会への出場です。九州高専大会では団体戦で入賞できず、部員全員が悔しい思いをしました。しかしその悔しさを原動力に、日々の稽古に一層力を入れて取り組みました。その結果、開催地区代表として臨んだ全国大会では、3人制団体で見事3位という成績を残すことができました。これまで積み重ねてきた努力が形となり、仲間とともに戦えた時間は大きな自信にもなりました。来年は、より良い結果を残せるように今後も頑張っていきます。



## 卓球部

- ①部長・副部長：東郷浩弥 馬場壮太
- ②顧問・コーチ：入江智和 田中郁昭 基島慎之介
- ③活動内容：練習時間 月曜日・金曜日18時半まで 火曜日・木曜日17時半まで 土曜日9時～12時
- ④今年一番の思い出：九州高専大会で勝ち進み、全国高専大会に出場。



## 陸上競技部

- ①部長・副部長：板山幸汰 坂上達洋
- ②顧問・コーチ：逆瀬川栄一 柳詰豪 有菌ゆい 内文夫
- ③活動内容：高専大会に向けた継続的な練習
- ④今年一番の思い出：私が陸上部に入った頃、部員は少なくとも寂しい部活でした。だからこそ仲間を増やし、共に高め合える部活にしたいと勧誘に力を注ぎました。その結果、今では笑顔と活気に満ちた最高のチームとなりました。それぞれが個性を發揮し、支え合いながら努力し続ける仲間たちのおかげで、私はここで本当に実りある時間を過ごすことができました。共に過ごしてきた部員のみんな、全力で支えてくださった顧問の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。私が卒業した後も、部員のみんなが活躍することを楽しみにしています。本当に楽しい5年間をありがとう。



## 弓道部

- ①部長・副部長：長瀬隆晟 瀬戸口空馳
- ②顧問・コーチ：吉満真一 豊平隆之 津野総司 揚野翔
- ③活動内容：弓道部は、週5日練習を行っています。経験者だけでなく、高専から弓道を始めた人も多く、皆で楽しく行っています。高校生大会や高専大会など、多くの大会に出場しており、個人・チームどちらも入賞しています。弓道に興味がある方は見学だけでも来てください。
- ④今年一番の思い出：弓道の大会は全体的に高校生大会が多く、4年生は出場することが出来ません。ですが、高専大会は高専生が対象であり、4・5年生も出場することが出来ます。自分も部長であり、4年生なので大一番の大会となりました。個人としては結果を残すことはできませんでしたが、部長として部員を引っ張っていく上でとても成長できたと思います。



## サッカー部

- ①部長・副部長：久保菌弘稀 柴田夏希空
- ②顧問・コーチ：北菌裕一 山田真義 國谷徹 千頭一郎 池田昭大 竹下淳哉
- ③活動内容：約60名の部員と3名のマネージャーで活動を行っています。サッカー部はスローガン「響銘」を胸に、王座奪還を目指し、全国高専大会優勝に向けて日々鍛錬し、精進しています。スローガンには、学年関係なくチーム全体を巻き込んで協調し、鹿児島高専の歴史にもう一度名を刻むという意味が込められています。高専大会の他、学生リーグ、トップリーグなどにも出場しています。
- ④今年一番の思い出：新人高専大会を5年ぶりに優勝し、九州大会も2連覇を成し遂げました。優勝したこともですが日々の仲間とともに味わうきつい練習、山あり谷あり笑いあいの夏合宿など全てが思い出です。



## 水泳部

- ①部長・副部長：木原才喜 柴垣琉生
- ②顧問・コーチ：安井賢太郎 精松祐介 奥高洋 鎌田清孝 小吹智恵美
- ③活動内容：月～金の週5練習。夏は2時間練習。秋／冬は筋力トレーニング。
- ④今年一番の思い出：今年最も心に残っているのは、夏に出場した九州大会です。強豪選手がそろう中で緊張もありましたが、部員同士が支え合い、自分の力を発揮することができました。また、体育祭では水泳部の俊足代表がリレーに参加し、水中とは異なる場面で全力を尽くす喜びを感じました。これらの経験は、仲間の大切さや努力を続けることの意義を改めて実感させてくれる、貴重な思い出となりました。



## ソフトテニス部

- ①部長・副部長：村上大心 坂元円造 田中大夢
- ②顧問・コーチ：東雄一 今村成明 島名賢児 安楽四郎
- ③活動内容：放課後、休日の練習 大会出場 等
- ④今年一番の思い出：自分の今年1番の思い出は、九州高専大会の団体戦で優勝できたことです！自分は怪我をしてしまい、マネージャーとして参加したのですが、奇跡の大逆転大優勝を1番近くで感じる事ができたためすごく思い出に残っています！個人戦でも、優勝、準優勝と最高の結果でしたので、来年の活躍もすごく楽しみです！全国大会でも優勝できる力があると思うので、気を抜かず、日々努力して後悔のないようソフトテニスを楽しんで、今年以上の結果が出るように頑張ってください！！





## 硬式テニス部

- ①部長・副部長：日高優 池満瑛介
- ②顧問・コーチ：屋地康平 岸田一也 松浦將國
- ③活動内容：平日の練習に加えて、土日は部内戦や、自主練習を行っています。学生主体で練習を行っているためメニューは自分たちで考えています。とてもアットホームな部活で経験者も初心者も大歓迎です。
- ④今年一番の思い出：九州高専大会の団体戦で2連覇することができ、全国高専大会でベスト8に入ることができました。全国の初戦は逆転勝ちを収め、試合で勝つことの難しさや、粘り強くプレーをすることの大切さを学ぶことができ、とても貴重な経験となりました。



## バドミントン部

- ①部長・副部長：瀬筒英之進 松永幸丸
- ②顧問・コーチ：堂園一 新田敦司 佐藤正知 小原裕也 他2名
- ③活動内容：バドミントンを通して応援して下さるファンや関係者に結果で恩返しができるよう日々、バドミントンに励み楽しんでいます。
- ④今年一番の思い出：全国高専大会において、チームの夢である全国制覇・3連覇を達成できました。今年は部員全員で会場に足を運ぶことができ、これまで以上に一体感を持って大会に臨めました。試合中は多くの声援に背中を押され、仲間と喜びや達成感を分かち合うことができました。先輩方が築いてくださった連覇を引き継ぎ、自分たちの力で守り抜けたことに大きな達成感を感じると同時に、応援して下さるファンの方々や関係者の皆さまに感謝の気持ちを伝えられた大会になりました。



## ハンドボール部

- ①部長・副部長：笠師福之助 高原颯楽
- ②顧問・コーチ：白石貴行 谷口康太郎 新徳健
- ③活動内容：楽しんでハンドボールをする
- ④今年一番の思い出：九州高専大会での優勝とハンドボール部の記事が新聞に掲載されたことです。部員に5年生が少なく、スタメンの半分以上が3年生以下ということもあり優勝できるかとても不安でしたが、チーム全員で力を合わせて優勝できたことはとても嬉しかったです。また、新聞記者の方から取材を受けました。取材中は緊張して上手く受け答えできませんでしたが、まるで芸能人になったような気分でした。とても良い経験になりました。



## 極真空手部

- ①部長・副部長：本高德郁 秋元秀介
- ②顧問・コーチ：瀬戸山康之 竹覚照
- ③活動内容：スパーリングやミット打ち、補強などを行っています。
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は、日々の稽古と体育祭の部活動リレーです！  
毎日の基礎練習で鍛えた力を発揮し、仲間とバトンをつないで全力で走り抜きました。  
極真空手部で、強さと絆を一緒に育てましょう！



## ラグビー部

- ①部長・副部長：吉田昊太
- ②顧問・コーチ：熊谷博 柳原哲生
- ③活動内容：タッチフット、タックル練習、合同練習
- ④今年一番の思い出：今年の印象に残っている思い出は、大会ごとの合同チームとの関わりです。私たちラグビー部は部員の数が少なく単独では大会に出ることができないため、大会時は毎回他校と合同チームを組んで出場します。それが今年は特にいろいろな高校とチームを組むことが多かったように感じました。自分達だけで大会に出ることができない悲しさはある一方で合同チームでなければなかなか縁のないようなさまざまな高校の人と関わる機会ができ、良い経験だなと感じました。来年は部員がもっと増えて単独で大会に出ることができれば良いなと思います。



## 写真部

- ①部長・副部長：徳田着 佐藤聖華
- ②顧問・コーチ：三原めぐみ
- ③活動内容：個人での写真撮影、写真コンテストの運営、校外への撮影会、学外写真コンテストへの応募
- ④今年一番の思い出：2年前から一眼レフカメラが導入されたこともあり、外出時にスマホよりも良い写真が撮れるようになり、写真を撮る楽しさを改めて感じる事ができた。ここ数年課外活動をする機会が少なくなり、部内でのやり取りが減っているのが現状ではあるが、部内のカメラの貸し出しを行うなどして、写真部全体で写真撮影に対するモチベーションの向上に努めたい。また、コンテスト等への参加も積極的に行っていきたい。



## 吹奏楽部

- ①部長・副部長：坂元こよ莉 岡本夏葵
- ②顧問・コーチ：町泰樹 曾山夏菜
- ③活動内容：定期演奏会の開催や高専祭での演奏
- ④今年一番の思い出：定期演奏会。私にとっての今年一番の思い出は、定期演奏会です。顧問の先生方と部員全員が一丸となって取り組んだ日々はこれまでにないほど充実していました。さらに、外部の先生をお招きして行った練習では、基礎の大切さや、本気で音楽に向き合うことの楽しさを改めて実感することができました。また、上級生として部員をまとめることや、運営面での調整など大変なことも多くありましたが、その全てが自分の成長につながったと感じています。(部長：坂元)



## 英語部

- ①部長・副部長：留盛凛香 関野桃子
- ②顧問・コーチ：アニス・ウル・レーマン 山田直子 嵯峨原昭次
- ③活動内容：文法や会話、劇、プレゼンコンテスト
- ④今年一番の思い出：高専英語プレゼンコンテスト出場。大会には暗唱・プレゼン・Q & Aの三部門があり、私はプレゼンに挑戦しました。練習は災害の影響で対面練習が思うようにできなかったり、体調不良が重なったりと、悔しい思いをしました。それでも部員同士でアドバイスし合いながら準備を進めました。本番では、暗唱とQ & Aに出場した部員が入賞し、喜びを部員全員で共有することができました。これからの時代、英語は読む・書くだけでなく、自分の考えを伝える力が求められます。英語部では、挑戦する楽しさを大切にしながら、仲間と共に英語力向上を目指しています。





## 軽音楽部

①部長・副部長：北山煌明 山下未誉 大園 孟

②顧問・コーチ：小田原 悟

③活動内容：文化祭や校内でのライブ活動

④今年一番の思い出：高専祭でのライブ。今年はステージが覇者像前に変更され、プロの音響スタッフも加わり、最高の舞台が整いました。その中で行われた演奏は近年稀に見る盛り上がりでした。観客はステージ前のみならず、建物内や渡り廊下にまで溢れ、熱狂の渦がキャンパス全体を包みました。本部活動では高専祭の演奏を目標とする部員が多いです。今回出演したバンドは軽音楽部を代表するメンバーであり、素晴らしい演奏でした。このロック魂を次世代に繋げる為、新入部員の勧誘や部室内の機材整備も進めたいです。この素晴らしい環境を整えて下さった実行委員の皆様と先生に、心から感謝します。



## エコラン部

①部長・副部長：山崎陽太 松尾亜蘭

②顧問・コーチ：嶋根紀仁 檜根健史 江崎秀司

③活動内容：エコカーの製作・改良、大会出場

④今年一番の思い出：全国大会出場。一日目の雨で二日目の決勝レース前にマシンが故障するなど、不測の事態が起きましたが、力をあわせて修復し無事走り出しました。雨ということもあり、参加した部員全員が初めての経験だったのでとても不安でしたが、各部員が自分の役割を果たし、チームの団結力につながりました。結果は望むようなものではありませんでしたが、多くの経験をする事ができました。今年九州大会に参加できなかったのも、部で校外活動をするのは初めてでした。宿泊の時、外食に行くなどして部員同士の仲を深めることができ、部員全員が楽しめた全国大会でした。



## メカトロニクス研究部

①部長・副部長：丸野広幸 村尾陽太

②顧問・コーチ：渡辺創 上野孝行 上沖司

③活動内容：高専ロボコン出場・県内の小学校での出前講演 他

④今年一番の思い出：なんといっても“11年ぶりの全国大会出場を決めた瞬間”です！九州沖縄地区大会当日まで、何度も失敗を重ねながらも部員全員で意見を出し合い改善を繰り返してきました。夜遅くまで設計やプログラム、加工に明け暮れた日々。その積み重ねが結果として実を結んだ時の喜びは言葉では言い表せません。全員で作上げたロボットが長い間遠ざかっていた全国の舞台へ行ってくれることが本当に誇らしく、部員全員の努力が報われた瞬間でした。これからもこの経験を糧にさらなる高みを目指して挑戦していきます。



## 電子・情報システム研究部

①部長・副部長：花田純生 園田光登 京田悠希

②顧問・コーチ：武田和大 原崇

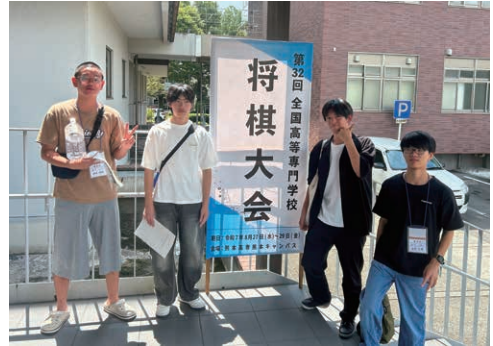
③活動内容：高専プロコンに向けたプログラム開発

④今年一番の思い出：今年の高専プログラミングコンテストは島根県松江市で開催されました。惜しくも数手差で敗れ、決勝戦は観戦する側に回りました。決勝戦では東京高専と八戸高専が熱い戦いを繰り広げ、こちらも僅差で八戸高専が優勝という結果でした。「ああ、こうすればよかったのか」「こういうこともできるんだなあ」という学びが多くあった大会でした。来年は決勝の舞台へ！！



## 将棋・囲碁部

- ①部長・副部長：大久保郷平
- ②顧問・コーチ：栢健一
- ③活動内容：将棋の対局、感想戦、勉強会、全国高専大会など
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は全国高専将棋大会です。  
今年の高専大会は熊本高専熊本キャンパスで開催され、部員4名で参加し、そのうち3名で団体戦にも出場しました。また、一年生の新入部員も出場し良い対局をしてくれました。個人戦、団体戦共にいい結果とはなりませんでした、濃厚な3日間を過ごすことができました



## 環境創造物理研究部 物理チーム

- ①部長・副部長：湯場崎啓心 荊原三香子
- ②顧問・コーチ：篠原学 杉村奈津子
- ③活動内容：モデルロケット・CanSatの製作／物理実験
- ④今年一番の思い出：種子島ロケットコンテスト2025年大会においてペイロード有翼部門・高度部門において優勝することができました。また、CanSat自律制御カムバック部門においてもアカデミック賞を受賞しました。モデルロケット・CanSatの両方とも昨年より進歩した機体を仕上げ、結果を得られたことが一番の思い出です。また、文化祭では、モデルロケットの打ち上げや展示物を多くの方にご覧いただき、楽しんでいただけました。



## 環境創造物理研究部 天文チーム

- ①部長・副部長：中原駿介 岩崎吏紗
- ②顧問・コーチ：篠原学 杉村奈都子
- ③活動内容：星座・天体の勉強をします。主に季節ごとに担当を振り分けて、それぞれの星座について学びます。前期中はプラネタリウムを使いながら解説できるよう練習し、後期の文化祭で発表します。緩〜く先輩達と交流しながらマイペースに楽しめますよ！後期は普段は立ち入れない屋上で観測会をします。性能のいい望遠鏡を使えるのも魅力です。
- ④今年一番の思い出：プラネタリウム用ドームの作成です。今年は例年使っていたドームが老朽化していたため、新たに作り直しました。段ボールを用いた規模の大きい工作でしたが、沢山の新生入生と共に完成させました。



## 航空技術研究部

- ①部長・副部長：久保大馳 久保心羽柙
- ②顧問・コーチ：福添孝明 橋口正平
- ③活動内容：模型飛行機の製作・操縦、その他航空関係全般
- ④今年一番の思い出：9月に東京で開催された全日本学生室内ロボットコンテストです。毎年出場していますが、今年的一般部門出場機体は2年生が設計し、下級生の活躍も活発になってきています。最近では鹿児島大学と合同での飛行練習も行い、設計技術の交流のできる貴重な体験ができました。





### 創造設計部（建築部門）

- ①部長・副部長：水流瑞季 飯森爽晴
- ②顧問・コーチ：内田一平 高安重一 他1名
- ③活動内容：建築見学旅、スケッチ、建築コンペへの挑戦
- ④今年一番の思い出：建築部門の今年一番の思い出は、建築見学旅です。

今年は夏に宮崎、秋に熊本のほうに日帰りで行有名建築や神社建築、橋を見に行きました。数週間前からスケジュールを練り、部員同士で事前に調べたことを共有しあう活動は、楽しかったです。当日は写真でしか見たことない建物を実際に見て歩き、スケールを感じることができ貴重な体験となりました。また、各自で撮った建築写真をもとに部内でフォトコンテストを開催したことで、とても良い振り返りができたと思います。



### 創造設計部（模型部門）

- ①部長・副部長：福永泰誠 谷口令欧
- ②顧問・コーチ：内田一平
- ③活動内容：ジオラマ作成、各種模型作成 コンテスト参加
- ④今年一番の思い出：模型部の今年一番の思い出は、人が乗ることができる

ミニ電車を作り、文化祭で走らせたことです。夏季休暇中は主に動力部分の制作を進め、学校が始まってからは外観の色を塗り、鹿児島で走る電車のような見た目仕上げました。最初は本当に人が乗れるものが完成するのか不安でしたが、部員同士で協力しながら無事に完成させることができました。文化祭本番で電車が無事に走り、来場した人が実際に乗って楽しんでくれたとき、努力が報われたと実感しました。



### 創造設計部（美術・イラスト部門）

- ①部長・副部長：迫田智愛 東啓介
- ②顧問・コーチ：嶋根紀仁 内田一平 他1名
- ③活動内容：絵画・イラストの創作 展示会の開催
- ④今年一番の思い出：今年1番の思い出としては、2年ぶりに鹿児島神宮へ奉納

させていただいた「六月燈」の制作です。創造設計部として活動する以前は、作品自体の規模も大きいので数枚を制作するのが手一杯な印象でした。しかし今年度は、部活動となった手前、部員全員が今まで以上に力を入れて制作したため、過去最高のクオリティと枚数で奉納できたかと思います。来年度も、更に腕を上げた素晴らしい作品を皆様にお届けできればと思います。



### 創造設計部（e-イベント部門）

- ①部長・副部長：小野千羽音 遠原颯太
- ②顧問・コーチ：高安重一 内田一平
- ③活動内容：クラスマッチ・文化祭運営、非公式ゲーム大会開催等
- ④今年一番の思い出：創造設計部として部門の場所を作り出した一年でした。

約50人の部員に恵まれ、自分たちの持つ技術を使って何か新しく面白いことできないかと、悩みながらも楽しく活動してきました。またSSDの時からやってきたクラスマッチと文化祭の運営に加え、今年初めて非公式のゲーム大会、そしてDJライブを外部で開催させていただきました。来年度以降も活動を続けていき部門として残していけるように頑張りたいと思っています。



### 創造設計部 (e-スポーツ部門)

①部長・副部長：福重藍音 尾堂巧海

②顧問・コーチ：内田一平

③活動内容：eスポーツ（特に格闘ゲーム）の大会（主にオンライン大会）に向けての練習・対戦

④今年一番の思い出：もともと SSD として始まったこの活動が今年ついに部活として正式に活動することができるようになりました。その影響もあってか、昔は3人だった部員が17人に。いまでは部員みんなでワイワイ楽しみながら、部員の育成及び対戦をしています。今年の文化祭では非常にたくさんの方が遊びに来てくださって本当にうれしかったです。これからもただのゲーマーではなく一種のスポーツマンとしてみんなで活動を続けていきたいです。





# 旅立ちに寄せて ~卒業生あいさつと担任の贈る言葉~

## めっちゃ楽しかった!!!!

機械工学科科5年 上野 風



僕は、この5年間を通して多くの経験をしてきました。入学当初は、慣れない環境の中で、クラスに同じ中学校の友達もおらず、不安で仕方ありませんでした。しかし、幸いにも周囲の人たちに恵まれ、5年生になった今ではたくさんの友達ができました。1年生の初

めの頃はレポートが大変で、「このままレポート漬けの高専生活を送るのか」と、内心少し悲しい気持ちになったこともありましたが、半年も経つと次第に慣れ、さまざまなことに取り組む余裕が生まれました。さらに、朝学習がないことや、定期テストの回数が他の高校と比べて少ないことから、自分のために使える時間が多いのだと実感しました。僕がいちばん楽しかったのは5年生です。1年生から3年生までは教科数も多く、テストの回数も多かったですし、4年生

の頃は学校行事の運営やインターンシップがあり、長期の旅行に行くことがあまりできませんでした。5年生になると授業数が減り、自由な時間が増え、友達と今までできなかった青春を取り戻すかのように、たくさん遊びました。正直に言うと、5年生では好きなことばかりをして過ごしていました。勉強も大切ですが、人生は勉強だけがすべてではないと考え、最後の1年を悔いのないものにするため、たくさんの思い出を作りました。特に思い出に残っているのは沖縄旅行です。クーラーの効きにくいレンタカーで「暑い、暑い」と嘆きながら沖縄中を駆け巡ったことは、今でも忘れられない思い出です。また、旅行中、毎日のように宴会を開き、お金が面白いほどなくなっていったことも良い思い出です。来年の4月から、みんながそれぞれ別々の道に進むことを思うと、とても寂しい気持ちになります。それでも、住む場所が離れていても、年末やゴールデンウィークにはまたみんなで集まりたいと思っています。結局、僕が何を言いたいかというと、鹿児島高専は最高に楽しい学校だということです。他の高校の修学旅行のストーリーを見て少し羨ましく感じることもありましたが、そんなことが気にならなくなるほど、自分のやりたいことをたくさんやり、多くの経験ができます。この学校に入学して本当に良かったです。

## ご卒業おめでとうございます

機械工学科科 5年担任 田畑 隆英

機械工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆さま、喜びもひとしおかと思えます。おめでとうございます。

4年次からの2年間、担任を務めました。私の知る限り、機械工学科としては女子学生が最多の5名を含む36名で4年次がスタートし、最終的には機械工学科始まって以来、おそらく最少人数30名での卒業となりました。進路としては、就職20名、進学10名であり、それぞれの途でどうぞご活躍ください。高専生活でやりたかったこと、十分に実現できたでしょうか。

また、5年間、ともに過ごしたクラスメイトが一堂に揃うのは、卒業式の日が最後です。小グループがたくさん5Mでしたが、ぜひ、クラス全体で懇親を深めてもらえればと思います。

さて、社会人となりましたら、仕事での新しい発見があったり、たくさんの人との出会いや関わりが始まり、楽しみです。居住地が変わり、組織が変わり、食事の内容が変わり、一気に環境が変わることで、慣れないうちはストレスがたまりがちになるかもしれま

せん。趣味などで気分転換をしながら、まずは、こころもからだも健康で、過ごしましょう。ここで、技術者として、正直で素直にものごとにあたることはもちろんのことですが、自分の心にも正面から向き合い、素直に正直に行動することを大切にしてもらいたいです。時には、世間の荒波にもまれて、過酷な環境にさらされることがあるかもしれません。ぜひ、頑張っ乗り越えてもらいたいものです。ここで、そのようなときほど、自分の心に問うてみてください。まだ、やれそうだなと思ったら、必死に頑張ってみてください。しかし、もうこれ以上は無理かも、と思ったときには、速やかにその環境から離れましょう。自分が自分であり続けるために、逃げることは決して悪いことではありません。静かに次のチャンスを待つことも大切だと思います。

最後に担任としては、皆さんのおかげで、あまり大きなトラブルもなく、2年間を終えることができ、クラス運営への協力に感謝します。今後は、リクルート活動等に限らず、機会あれば、本校に立ち寄ってください。再開できることを楽しみにしています。そして、今度は社会人として、後輩を引っ張り上げてくれればと思います。今後の皆さんのご活躍を楽しみにしています。

## 支えてくれた人

電気電子工学科5年 上窪 嵩人



2025年度卒業生の上窪嵩人です。中学校を卒業し、不安を抱えながら鹿児島高専に入学してから早くも5年が経ちました。振り返ると、この高専生活は常に周囲の人に支えられた日々でした。気の許せる友人、寮で同室になった先輩、部活動で相談に乗ってくれた先輩、そして私を慕ってくれた後輩—多くの人に助けられました。その中でも特に、同級生と吹奏楽部の先輩の存在が大きかったと感じています。

私は器用に物事をこなせるタイプではなく、入学当初から勉強に苦勞しました。そんな時、寮で仲良く

なった同級生が数学や英語、物理まで丁寧に教えてくれました。私も得意分野では解説をするなど互いに助け合い、学び合いました。その支えのおかげで「留年生が出る」と噂される鹿児島高専を、無事ストレートで卒業することができました。

座学だけでなく、実習でも仲間の存在は大きな力となりました。4年後期の創造実習では、ゼロから電気工作物を作り上げる課題に挑戦しました。各自の得意分野を活かし協力し合い、完成したものが動いた瞬間の感動は忘れられません。友人と共に挑んだ経験は、私の宝物です。

また、吹奏楽部では同じパートの先輩に支えられました。演奏面だけでなく学校生活の悩みにも耳を傾けてくださり、心強い存在でした。先輩の部屋で夜遅くまで語り合った時間は、肩身の狭さを感じていた私にとって大きな救いでした。もしその先輩でなければ、5年間吹奏楽を続けることはできなかったと思います。

在校生の皆さん、これからの学校生活で会う人との関わりは必ず一生の思い出になります。一つ一つの出会いを大切に、充実した高専生活を送ってください。

## 光り輝く素晴らしい未来へ

電気電子工学科 5年担任 中村 格

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

担任として皆さんと過ごした二年間は、私にとってかけがえのない宝物です。皆さんの成長を間近で見守ることができたことは、決して忘れることのできない素晴らしい思い出です。

さて、あるアーティストさんの名曲に「練習不足で舞台は待っていない」旨の一節があります。この一節を皆さんへの贈る言葉としたいと思います。

皆さんの人生は、これから始まる壮大な舞台です。社会という大舞台には、予期せぬ困難や試練が待ち受けているかも知れません。時に、思うようにいかないこと、挫折を味わうこともあるでしょう。そんな時、皆さんは「もっと準備しておけばよかった」などと後悔するかもしれません。

しかし、人生の幕は、皆さんの準備が整うのを待つてはくれません。時間は常に流れ、新たな幕は必ず開きます。大切なのは、練習不足を悔やむことではなく、限られた時間の中で、どれだけ真摯に練習に励んだか、いかにその舞台で自分らしさを表現するかです。

高専での五年間、皆さんは様々な練習を積んできました。学業は勿論のこと、部活動、委員会活動、友人との交流、そして何よりも、自分自身と向き合い、未来を考えると大切な練習です。その一つ一つが、皆さんの人生の舞台を彩る貴重な経験となり、揺るぎない自信となる筈です。鹿児島高専は、いつまでも皆さんの応援団です。

自信を持って、堂々と人生の舞台に立ち、自分らしい最高の芝居を演じてください。皆さんの未来が、光り輝く素晴らしいものであることを願って已みません。



## 夢のような5年間

電子制御工学科5年 松永 幸丸



地元熊本から鹿児島に来る決意を固め、早くも5年が経ちました。時間の流れの速さには本当に驚かされます。私はもともと熊本高専に進学したいと考えていました。小学1年生の時に熊本高専の文化祭に参加し、「高専に行きたい」と強く思ったことを覚えています。その後も、バドミントンの試合会場などでも勉強を続けていました。ところが最終進路決定の一週間前、ある先生からお話を伺う機会がありました。先生の熱い言葉と「鹿児島高専には君のような人材が必要だ」という強い思いに胸を打たれ、進路を鹿児島高専へと変更しました。突然の寮生活、全く知らない鹿児島という土地に馴染めるのか不安で、入学式前日はほとんど眠れませんでした。しかしその不安は杞憂で、

最高の仲間と担任の先生に恵まれたことで「自分は本当に運がいい」と感じました。もっともバドミントンをするために入学したのに、部活に行きたくないと思うことも多々ありました(笑)。そんな時に心を支えてくれたのは、クラスメイトと担任の先生であり、感謝の気持ちでいっぱいです。3年生の頃にはインターハイを目指して本気で練習に取り組みました。朝練、昼練、部活、寮での筋トレと毎日努力を重ねました。結局、インターハイ出場には届きませんでしたが、後悔のない試合ができたと思います。厳しい練習も楽しく感じられ、気づけば全国高専大会で優勝を果たしていました。その後は鹿児島高専の伝統である応援団に参加しました。最初は乗り気ではなかったのですが、次第に夢中になり、四六時中型を踊るほどのめり込みました。そして団長を務めることになり、4年生の記憶はほとんど応援団で埋め尽くされています。本当に楽しい経験でした。応援団は素晴らしい伝統であり、後輩の皆さんにもぜひ参加してほしいと思います。この伝統が失われることなく、今後も続いていくことを願っています。少し話が前後しましたが、高専では「何もしないこと」も「挑戦すること」も、ほとんどが学生自身に委ねられています。良い友達や良い出会いは、行動しなければ得られませんし、気づくこともできません。人間関係を最初から上手に築ける人はいません。私の経歴は少し特殊ですが、とにかく自分のやりたいことをやりながら、長くも短くも感じられる5年間を楽しんでほしいと思います。

## 卒業生の皆さんへ

電子制御工学科 5年担任 瀬戸山 康之

ご卒業おめでとうございます。2年間、担任として賑やかに過ごすことができました。4・5年生は行事や進路活動で忙しい時期でしたが、皆さんはその度に楽しみ、悩み、前に進む姿を見せてくれました。そして事あるごとにトラブルを引き起こすあたりが皆さんらしく、担任としては呆れつつもどこか微笑ましく感じていました。クラスは担任のカラーが出ると言いますが、適当な担任の影響ですかねえ。

本当は気の利いたことを書ければよいのですが私も人生経験豊富ではなく、偉そうに語るのも違う気がしています。これまでもこれからも、私が皆さんにでき

る唯一のことは“話を聞くこと”だけです。2年間、多くの学生が私の部屋を訪ねてくれました。進路や将来について、時には2時間近く語ってくれた学生もいました。あの時間は私にとっても大切な思い出であり、皆さんの力になれていたなら嬉しい限りです。卒業後も、愚痴でも相談でも雑談でも構いません。思い出したときに連絡をくれれば、話を聞きます。皆さんとまた話せる日を、心から楽しみにしています。



## あっという間の5年間

情報工学科5年 岡越 誉

高専での五年間を振り返ると、数え切れないほど沢山の経験と出会いがありました。まず、このように高専での五年間を振り返る機会をいただけたことに心から感謝します。私は鹿児島県の離島の沖永良部島から高専に進学しました。島を離れるときは不安もありましたが、同時に新しい環境で初めての土地で、挑戦できることへの期待も抱いていました。四年間にわたる寮生活では、初めて親元を離れて生活する大変さを感じながらも、仲間と支え合い、助け合う日々を送りました。日々の生活を共にする友達との毎日の生活や、思い出など、何気ない日常の積み重ねが私を成長させてくれました。寮を出る日、そこで過ごした時間がかけがえのない思い出となり、10代の中の四年間を過ごした第二の故郷になっていたことを実感しました。また、寮の先生方や食堂の方々にもとても感謝しています。

二年生のときから応援団へ入団したことは、学生生活の中で最も思い出のある出来事です。情報工学科は長い間成績が良くなく、毎年最下位になり、そのたびに悔しい思いもしました。それでも仲間と声を合わせ、全力で練習を一生懸命続けた時間は、かけがえの

ない宝物になっています。そして五年生のとき、私の一個下の代で、ついに情報工学科が応援の部で優勝を果たしました。その瞬間、とても胸が熱くなり、久しぶりに大きな感動を覚えました。勝敗だけがすべてではなく、何かに全力で向き合うことこそが心を動かし、人生を豊かにするんだ、と学びました。

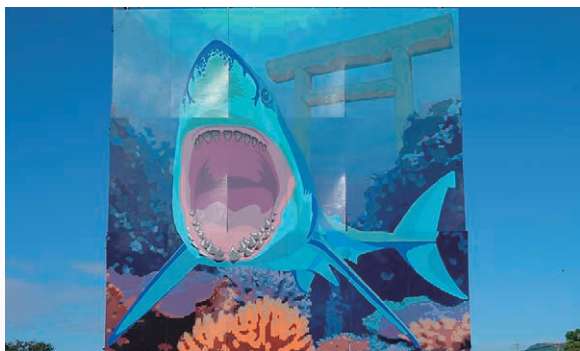
努力をしてきた経験こそが私の高専での一番の思い出となり、人を成長させるものだ、と強く感じます。

2024年の春休み、台湾への海外研修に参加しました。初めての海外での一週間は緊張の連続でしたが、現地の学生との交流を通して多くの刺激を受けました。また台湾に行きたいなと思いました。文化や言葉の違いを超えた友情は今も続いており、今でも互いに連絡を取り合う大切な仲間となっています。また、研修では半導体産業の最前線に触れ、新しい世界を知ることができました。「何事もやってみることが大切」と感じ、一度の挑戦が人生を大きく変えることを実感しました。その経験から、社会に貢献できる技術者になりたいという目標を抱くようになりました。

この五年間、家族や友人、先生方、そして高専という環境に支えられてここまで来れたんだなと思っています。出会ったすべての方々に感謝の気持ちを忘れず、これからも学びと挑戦を続け、恩返し的心を大切に、社会の発展に貢献できる人間を目指して努力を重ねてまいります。

## 夢へ向かって

情報工学科 5年担任 新徳 健



長かった高専生活を終え、新たな道へと進んでいく皆さんへ。

令和6年4月4日を覚えていますか？皆さんが4年に進級し、私が担任となって初めて対面した始業式の日です。その日のLHRで皆さんに言った言葉を覚え

ているでしょうか。吉田松陰の言葉です。吉田松陰は江戸時代後期の武士であり、思想家であり、教育者でした。松下村塾の主宰者です。松陰は一人一人の個性を尊重し、「至誠」を説いています。至誠とは孟子の言葉に由来し、簡単に言うならば、「誠実に、一生懸命に取り組みなさい。」という意味です。高専生活を一生懸命に取り組んできましたか？

話がそれましたが、始業式の日にした言葉は、「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に夢なき者に成功なし。」

です。夢を持つことで理想が生まれ、その理想のもとに計画を立て、その計画を実行に移すことが成功へとつながる、という意味です。4年進級時点では将来の夢がまだ決まっていない人も多くいたと思いますが、この2年間で夢は持てたでしょうか。その夢を忘れずに、今後の人生を突き進んでください。皆さんのこれからの活躍を期待しています。



## 挑戦と感謝の高専生活

都市環境デザイン工学科 5年 坂上 達洋



私は入学当初、「勉強を頑張る学校」という認識で高専生活をスタートさせました。しかし実際に学校生活が始まってみると、勉強はもちろん大切でしたが、それ以外にも夢中になれることが多くあり、充実した5年間となりました。

私は寮生活をしており、テスト前やレポートの提出直前には友人と集まって勉強会を開いたり、テストが終わるとカラオケに行ったり、寮でお菓子パーティーをしたりと、楽しい思い出がたくさんあります。

また、1年生の後期ごろから始めた国際交流活動も印象的です。英語力の有無にとらわれず、「英語というツールで国内外のさまざまな人と交流しよう」というスタンスだったため、積極的に取り組むことができました。

部活動では、入学当初は特に入りたい部活動がなく

迷っていましたが、友人に誘われて陸上競技部に入部しました。競技の知識が全くなかった私に、走ることの楽しさを教えてくれた友人、そして温かく迎えてくださった先輩、後輩の皆さんには本当に感謝しています。

さらに、3年生の終わり頃からは野球部との兼部をさせていただきました。自分のやりたいスポーツに挑戦することを認めてくださった顧問の先生方や部員の皆さんにも、心から感謝しています。

特に忘れられないのは、4年生で取り組んだ応援団です。仲間と1年間かけて演舞の型を考え、練習し、後輩たちと共に1カ月間準備して迎えた10分間の本番に全力を注いだ時間は、一生の宝物です。

また、企業でのインターンシップや5年生での卒業研究など、貴重な経験を数多くさせていただきました。

振り返ると、高専に入学してよかったと改めて思います。進路に迷ったときは相談に乗ってくれる先生や先輩、高専OBの方々があります。部活や勉強のやる気が出ないときは一緒に頑張ってくれる友人があります。自分の「やってみたい」という気持ちを後押ししてくれる環境があり、その環境を整えてくださっている学校職員の皆様があります。この鹿児島高専で5年間過ごせたことに、深く感謝しています。

最後に、矢沢永吉さんの言葉を紹介させていただきます。「戦後の時代でも、ITの時代でも、どんな時代でもやる人はやるし、やらない人はやらない。それは変わらないと思う。」この言葉に深く共感し、私もこの先の人生を“やる人”として歩んでいきたいと強く思います。

## 飛翔するみなさんへ

都市環境デザイン工学科 5年担任 内田 一平

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆さまも長い年月にわたり、日々の学びを支えてこられたご尽力に心から敬意を表します。

みなさんとは3年次より担任として接してきました。振り返ると、みなさんにとって良い担任だったかと問われれば自信はありませんが、よく付き合ってくれたと感謝しかありません。そして、みなさんが成長する時期の貴重な時間を共にできたことは、私にとっての仕事のやりがいでもありました。ありがとう、感謝申し上げます。

みなさんにとっての高専5年間は、どのように振り返ることができますか？みなさんの過ごしてきた日々は、学業として知識や技術を磨くだけでなく、部活動

や学校行事を通じて自分自身を鍛え、仲間と共に困難を乗り越える貴重な経験の連続だったと思います。それら全てが、みなさんの持てる実力に変わっていることと思います。例えば、課題に挑み、失敗を恐れず試行錯誤を重ねた時間は、これから社会に出て直面する様々な壁を越える力になることでしょうか。友人や先輩後輩と語る中で得られる自分とは異なる発想や考え方は、物事を多視点で捉えることの助力になることでしょうか。

未来は予測できないほど多様で複雑に広がっていますが、どうか自分の可能性を信じ、失敗を恐れず挑戦の第一歩を踏み出してください。知識や技術はもちろん、仲間を支える心や困難に立ち向かう姿勢こそが、社会で輝く原動力です。高専で培った誇りを胸に、自分らしい花を咲かせること、それが社会に還元されることを心から願っています。

## 私の7年間とこれから

機械・電子システム工学専攻2年 竹田 昂平



私は、あともう少しで鹿児島高専から完全に卒業します。私の高専生活は、本科から専攻科まで合わせて7年間という小学校よりも長い年月を重ねてきました。今からその一端を皆さんにお伝えします。

まず私の高専生活に大きく影響を与えたのは、COVID-19でしょう。電子制御工学科1年生の秋から流行したそれは、世界中のみならず私の生活にも大きく影響を及ぼしました。例えば、初の遠隔授業やマスク生活、様々な行事の自粛などです。貴重な十代の時間を縮こまりながら過ごすことにはなりました。しかし、教職員の方々や当時の先輩方のおかげでそれでも充実した学生生活を送っていたと今でも思います。

また、私は専攻科1年生の年まで寮生活でした。寮

私は、あともう少しで鹿児島高専から完全に卒業します。私の高専生活は、本科から専攻科まで合わせて7年間という小学校よりも長い年月を重ねてきました。今からその一端を皆さんにお伝えします。

では、大浴場やバランスの取れた食事たち、大勢の同世代の仲間たちなど恵まれた環境が整っていました。それでも、親元を離れることで心身を改め、少しでも自立した自分に成長することができたと思います。

専攻科入学後は、学科を超えた交流も増えて新たな発見や経験を得ることができました。また、初のゼミ形式の授業や考察課題などのように学業のレベルも上がり、専門知識だけでなく自分で考える力も養うことができました。

そして、私は本科5年生の時から今までの3年間、研究活動を続けてきました。研究という学業の最終奥義は、とても難しくて雲をつかむような思いでした。それでも、谷口先生の親身な指導のおかげで学会でも発表を行えるまでの成果を得ることができました。私の研究を引き継ぐ後輩にはより高みへ至ってほしいと思います。

私の高専生活7年間は、高専から卒業することができれば赤点回避です。それ以上を望むなら、これからが重要となるでしょう。なので、今日の私と立場の違いの明日の私が連続した人生の中でより良くなれることを願い、明日へ向かっていこうと思います。

最後に、鹿児島高専の益々の発展をお祈りいたします。

## 出会いに支えられた高専生活

電気情報システム工学専攻2年 井之脇 さくら



鹿児島工業高等専門学校に入学してから、気がつけば七年という歳月が過ぎ、いよいよ専攻科を修了する年を迎えました。私たちの代は、二年生の頃から新型コロナウイルスが流行し始め、慣れつつあった高専生活が一変しました。長期の休校で友人と会うこともままならず、「友達と同じ教室で過ごす日常」は決して当たり前ではないのだと強く感じました。そのような状況下でも、同級生と協力して実験やレポートに取り組んだこと、友達と文化祭で露店を出店したことなど、一つひとつの思い出が今では大切な宝物となっています。四年生の夏季休暇には、九州工業大学のインターンシップで安川先生のもと、生体の視覚モデルを手がかりにロボットビジョンや画像

鹿児島工業高等専門学校に入学してから、気がつけば七年という歳月が過ぎ、いよいよ専攻科を修了する年を迎えました。

私たちの代は、

処理技術について学ぶ機会をいただきました。九州工業大学では、多くの大学院生の皆さんと関わる機会に恵まれ、当初は自分がついていけるのか不安でいっぱいでした。しかし、気がつけば毎日が新しい発見の連続で、学ぶことそのものがとても楽しく感じられ、二週間があっという間に過ぎ、とても良い経験になりました。この時に、将来についてももう少し考え直し、もう少しだけ勉強してみようと思い、専攻科の進学を決意しました。

専攻科では、他学科の学生と関わる機会が増え、初めて触れる専門分野に戸惑うこともありましたが、どれも新鮮で刺激的な学びとなりました。研究に割く時間も増え、思うように結果が出ずに悩むこともありました。その中で、電気情報通信学会に参加させて頂いた際に、校外の先生や学生の皆さんから助言や励ましをいただいた経験は、今でも大きな糧となっています。

こうして充実した七年間を過ごせたのは、周囲の支えがあったからこそだと深く実感しています。これからは社会人として新たな一歩を踏み出しますが、これまで支えてくださった方々への恩返しができるよう、努力を重ねてまいります。これまでのすべての出会いに心より感謝申し上げます。



## 専攻科で育まれた「教える力」

建設工学専攻2年 宮原 慎之助



7年前、5年間という長い学生生活を無事に終わられるのか不安を抱きながら、私は鹿児島高専に入学しました。気づけば7年が経ち、専攻科での生活を終

えようとしています。私は本科4年生まで自分のやりたいことが見つからず、もう少し自分の将来について模索してみようと考え、専攻科への進学を決意しました。

本科5年次に研究室へ配属されてからは、専攻科の先輩のもとで研究方法や機器の使い方を学びました。配属当初は研究内容を理解できず、専攻科に進むという選択を後悔したこともありましたが、学会発表や研究活動を通して自分の興味ややりがいを見だし、就職活動にも積極的に取り組みました。気づけば最高学年となり、今度は私が後輩を指導する立場に

なっていました。

私を感じる専攻科の最大の利点は、「教える力」が身につくことです。論文の執筆や研究を理解することよりも、後輩に研究を教えることに最も苦労しました。後輩一人ひとりの理解度や意欲の差に向き合いながら、どのように工夫すれば伝わるのか、どこを重点的に指導すべきかを試行錯誤する中で、研究への理解やプレゼンテーション能力が大きく向上しました。

社会に出れば、誰も必ず「教える立場」になります。学生のうちにこの力を養えたことは、私にとって大きな強みになったと感じています。

専攻科で過ごした2年間は、本科の5年間よりも濃く、充実した時間だったと感じています。研究を通して知見を深め、論文を執筆し、学会発表も何度か経験しました。就職後は研究や論文執筆に直接携わる機会は少ないかもしれませんが、研究活動で培った探究心や課題解決力、発表を通して身につけた表現力は、確実に自分の中に蓄積され、今後の社会人生活にも活かされると感じています。

最後になりますが、これまでご指導して下さった先生方、共に高め合った友人、研究室の仲間たち、そして私生活を支えてくれた家族に、心より感謝申し上げます。

## 修了生へ贈る言葉

機械・電子システム工学専攻長 小原 裕也  
電気情報システム工学専攻長 武田 和太  
建設工学専攻長 安井 賢太郎  
研究主事・専攻科長 山田 真義

### AMS 修了生への贈る言葉 (AMS 専攻長)

修了おめでとうございます。今年度は例年になく進学する方が多く、その向上心の高さを強く実感しています。また、社会で新しい挑戦に臨む皆さんの前向きな姿勢も心強く感じます。専攻科で培った知識と経験を糧に、それぞれの道で挑戦を重ね、輝かしい未来を築いてください。母校で過ごした日々を胸に、皆さんの成長と幸せを心より願っています。

### AEI 修了生への贈る言葉 (AEI 専攻長)

修了生の皆さん、おめでとうございます。この2年間で皆さんは更なる成長を遂げ、また良い思い出を作ることができたのではないのでしょうか。これから社会に出て学ぶと成長の機会の毎日です。成長への意欲と前向きな姿勢をもって、あせらず自分のペースで歩んでください。その先にはきっと、頑張ってきてよかったと思える未来があります。皆さんの成長と活躍を期待しています。

### ACC 修了生への贈る言葉 (ACC 専攻長)

ご修了おめでとうございませう。この2年間で、皆さんは本当に頼もしい技術者に成長されました。これから先も、学びは続き、競争や挑戦の場も増えていくことでしょう。それでも、皆さんならきっと周囲から信頼される存在として、やりがいを持って前向きに取り組んでいけると信じています。最後に、皆さんの努力する姿勢は、必ず誰かが見ていてくれます。どうか自信を持って、鹿児島高専で培った学びを武器に、力強く歩んでください。そして、いつでも母校に遊びに来てください。またお会いできる日を、心から楽しみにしています。

### 専攻科修了生への贈る言葉 (専攻科長)

専攻科修了おめでとうございませう。本科5年間、専攻科2年間、計7年間の勉学、研究への挑戦を終え、今年度はAMS11名、AEI11名(連携生含む)、ACC5名、計27名が胸を張って母校を巣立ちます。鹿児島高専専攻科で「高度な専門知識」「課題解決能力」「国際的視野」を、皆さんは確かに身に付けました。ここで培った力は、これからの未来で必ず大きな価値を生み出します。挑戦を恐れず、学び続ける姿勢を忘れずに、さらに広い世界で羽ばたいてください。皆さんの未来に心から期待しています。



# 卒業生及び修了生の就職・進学先一覧

## 《機械工学科》

ANA エンジンテクノニクス株式会社
SUBARU テクノ株式会社
アイリスオーヤマ株式会社
旭化成株式会社
いすゞエンジニアリング株式会社
今治造船株式会社
エクセン株式会社 (2名)
キャノンメディカルシステムズ株式会社
京セラ株式会社 鹿児島国分工場
クレオ株式会社
株式会社コナミアークードゲームス
サントリーホールディングス株式会社
全農サイロ株式会社
東海旅客鉄道株式会社
中西金属工業株式会社
日立建機日本株式会社
株式会社日立ハイテク (2名)
ファナック株式会社
(進学) 鹿児島大学 工学部先進工学科機械工学プログラム(3名)
(進学) 鹿児島工業高等専門学校 専攻科 機械・電子システム工学専攻 (3名)
(進学) 東京都市大学 理工学部機械工学科
(進学) 豊橋技術科学大学 機械工学課程
(進学) 宮崎大学 工学部機械知能プログラム
(進学) 室蘭工業大学 創造工学科 航空宇宙工学コース

## 《電気電子工学科》

株式会社 HEXEL Works
JFE プラントエンジニア株式会社
NTT 西日本株式会社
株式会社アスウェア
株式会社アルトナー
鹿児島市役所
九電産業株式会社
京セラ株式会社鹿児島国分工場
ダイキン工業株式会社
株式会社タマディック
株式会社中央エンジニアリング
東京ドロウイング株式会社
東芝 IT サービス株式会社
トーテックアメニティ株式会社
株式会社ニュージェック
パーソルクロステクノロジー株式会社
株式会社日立パワーソリューションズ
三菱重工株式会社
三菱重工機械システム株式会社
三菱ディフェンス & スペーステクノロジーズ株式会社
三菱電機エンジニアリング株式会社
三菱電機システムサービス株式会社
三菱電機ビルソリューションズ株式会社
ムラテック CCS 株式会社
(進学) 鹿児島大学 工学部先進工学科電気電子工学プログラム
(進学) 鹿児島工業高等専門学校 専攻科 電気情報システム工学専攻 (5名)
(進学) 熊本大学 工学部情報電気工学科情報工学教育プログラム(2名)
(進学) 筑波大学 理工学群工学システム学類
(進学) 東京都市大学 理工学部電気電子通信工学科
(進学) 豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学課程
(進学) 宮崎大学 工学部電気電子工学プログラム



## 《電子制御工学科》

DMG 森精機株式会社 (2名)
SMC 株式会社
アズビル株式会社 (2名)
アマゾンジャパン合同会社
ウナルテクノロジー株式会社
グローブライド株式会社
シチズン時計マニュファクチャリング株式会社 鹿児島工場
セイハネットワーク株式会社
太陽ファルマテック株式会社
中部電力株式会社
東京ガスネットワーク株式会社
株式会社トヨタ車体研究所
株式会社ニコン
日本精工株式会社 (3名)
パナソニックコネクタ株式会社 (2名)
富士電機株式会社
フラー株式会社
株式会社フルリール
マキノジェイ株式会社
株式会社マルマエ
三菱重工業株式会社
三菱電機エンジニアリング株式会社
株式会社名南製作所
安川オートメーション・ドライブ株式会社
株式会社ゆめみ
(進学) 鹿児島大学 電気電子工学プログラム
(進学) 鹿児島工業高等専門学校 専攻科 機械・電子システム工学専攻 (6名)
(進学) 九州工業大学 電気電子工学科 電子システム工学コース
(進学) 九州大学 航空宇宙工学科
(進学) 千葉工業大学 工学部機械工学科
(進学) 豊橋技術科学大学 機械工学課程
(進学) 豊橋技術科学大学 情報・知能工学課程
(進学) 豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学課程

## 《情報工学科》

個人事業主 (CN Creative)
Japan Advanced Semiconductor Manufacturing 株式会社
NTT ドコモビジネスエンジニアリング株式会社
株式会社 NTT データフロンティア
株式会社アルファシステムズ
京セラコミュニケーションシステム株式会社
独立行政法人国立印刷局
ジョンソンコントロールズ株式会社
ソフトバンク株式会社
ダイダマン株式会社
ディーコム株式会社
株式会社テクノプロ
東京エレクトロン株式会社
東芝プラントシステム株式会社
西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
株式会社日立情報通信エンジニアリング
株式会社日立ハイシステム21
富士フイルムビジネスイノベーション株式会社 (3名)
本田技研工業株式会社
株式会社メンバーズ (3名)
株式会社ユピテル鹿児島
(進学) 鹿児島大学 (2名)
(進学) 鹿児島工業高等専門学校 専攻科 電気情報工学専攻 (5名)
(進学) 九州工業大学
(進学) 熊本大学 (2名)
(進学) 工学院大学
(進学) 筑波大学
(進学) 奈良女子大学

## 《都市環境デザイン工学科》

JFE シビル株式会社
MBC 開発株式会社
始良市役所
アイリスオーヤマ株式会社
青木あすなる建設株式会社
あおみ建設株式会社
インフラテック株式会社 (2名)
オリジナル設計株式会社
オリックス・ファシリティーズ株式会社
公益財団法人鹿児島県建設技術センター
カナデビア株式会社
コーアツ工業株式会社
サンコーコンサルタント株式会社
株式会社 三晃空調
ショーボンド建設株式会社
中部復建株式会社
西日本高速道路ファシリティーズ株式会社
西松建設株式会社
日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
株式会社三井 E&S
南九州市役所
山崎建設株式会社
若築建設株式会社
(進学) 鹿児島大学 (4名)
(進学) 鹿児島工業高等専門学校専攻科 建設工学専攻 (5名)
(進学) 熊本大学
(進学) 豊橋技術科学大学 (3名)
(進学) 長岡技術科学大学
(進学) 宮崎大学

## 《機械・電子システム工学専攻》

株式会社ジェイテクト
ソフトマックス株式会社
株式会社大気社
株式会社トヨタ車体研究所
富士電機株式会社
ルネサスエレクトロニクス株式会社
(進学) 九州大学大学院 総合理工学府Ⅱ類
(進学) 豊橋技術科学大学大学院 工学研究科 機械工学専攻
(進学) 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学領域 (2名)
(進学) 北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 マテリアルサイエンス系 メディカルサイエンス研究領域

## 《電気情報システム工学専攻》

DXC テクノロジー・ジャパン
アステック株式会社
ソフトバンク株式会社 (2名)
トーテックアメニティ株式会社
ニコン株式会社
パナソニック コネクト株式会社
株式会社日立アドバンストシステムズ (2名)
三菱重工業株式会社
(進学) 筑波大学大学院

## 《建設工学専攻》

NTT インフラネット株式会社
極東興和株式会社
ショーボンド建設株式会社
株式会社東芝
株式会社横河ブリッジ

令和8年1月31日現在



# 卒業生の現在

## 在校生の皆さんへ

令和6年度 機械工学科卒 藤崎 遼也  
(ニューフレアテクノロジー)

私は鹿児島高専機械工学科を卒業後、半導体製造装置メーカーに入社し、現在は社会人2年目のメカ系エンジニアとして働いています。主な業務は、お客様に納入した半導体製造装置の保守業務で、定期メンテナンスを通じて装置を長期的かつ安心して使用していただくための保守サービスを提供しています。



定期メンテナンスでは、周期的に交換が必要な部品や劣化部品を選定し、是正が必要な個所の有無を事前に把握したうえで、優先順位を検討しながら作業計画を立てています。装置の構造や動作原理を理解することが不可欠であり、材料力学や機械要素、製図など、高専の機械科で学んだ基礎知識が日々の業務を支えています。

また、メンテナンス作業はスケジュール通りに完了しなければお客様の生産計画に影響が出るため、限られた時間の中でスピード感をもってチームで取り組む力が求められます。実習や卒業研究で経験した「段取りを考えて作業を進めること」や「仲間と協力して課題を解決する姿勢」は、現場でもそのまま活かされています。

在校生の皆さんには、ぜひ日々の授業や実習を大切にしてほしいと思います。「この勉強が将来何の役に立つのか」と感じることもあるかもしれませんが、社会に出ると高専で学んだ基礎が確実に仕事につながっていることを実感します。分からないことをそのままにせず、自分で考え、手を動かし、周囲と相談しながら取り組む経験を積んでください。高専で培った力は必ず皆さんの強みになります。

## 脳筋大学院生の“好き”で世界が広がった話

令和4年度 電気電子工学科卒 福永 連太郎  
(熊本大学大学院)

鹿児島高専を卒業してから数年が経ち、現在は熊本大学大学院に所属しています。高専と似たテーマの研究に取り組んでいますが、高専時代と比べて大きく変わったのは、先生からの細かい指導が減り、自分で考えて



進める機会が増えたことです。論文を読み、実験条件を設定し、結果を考察して次の改善につなげるという流れを自ら作る必要があります。うまくいかないことも多いですが、自分の判断で成果を出せたときの達成感は格別です。また、他学部や違う学年の学生、さらにはその友人たちと関わることで、多様な視点を養うことができました。考え方や価値観に触れるたびに、自分の視野が広がっていくのを感じます。一方で、就職活動も進めており、夏には半導体関連企業のインターンシップに参加しました。現場では、製品の品質を安定して保つことの難しさを学びました。学生時代の実験では「一度うまくいけばよし」でしたが、企業では「何度やっても同じ結果を出す」ことが求められます。再現性やチームでの連携の重要性を実感し、多くの人との関わりから学ぶこともありました。

そしてもう一つ、私にとって大切なことが筋トレです。まだ“極めた”とは言えませんが、筋トレの話題をきっかけに大学やインターン先で多くの人と打ち解けることができました。好きなことを突き詰めると自然と個性が生まれ、人とのつながりも広がるのだと感じています。後輩の皆さんには、「自分の興味を信じて行動してほしい」と伝えたいです。研究でも趣味でも、夢中になって取り組むことは自分の力になります。ある分野を“極めた人”の話は謙虚でありながら、自信と面白さに満ちており、聞くだけで刺激を受けます。色々な人から刺激を受け、刺激を与えられるように、自分の“好き”を大切にしながら周りとの関わりを楽しんでください。その積み重ねが、きっと自分らしい未来をつくる力になるはずです。

## 学生時にやってよかったこと

令和5年度 電子制御工学科卒 入江 一馬  
(メタウォーター株式会社)

私はメタウォーター株式会社という水のライフライン設備を扱う会社で働いています。水は生活に不可欠なインフラです。私の仕事は浄水場や下水処理場といった重要な施設の電気設備の試験調整です。現在、私は現場監督になるため必要な経験と知識を習得する期間としてワールドエンジニアリング部に所属しています。この部の仕事は現場に出張し、ポンプやシステムを納入する前の最終確認を行うことです。仕様、システム、自動制御が設計通り動作するかを現場で確認します。この仕事では、機械に対する深い知識、シーケンス図面を読み解く力、工程を管理する力、ミスを見逃さない注意力などが求められます。



学生時代にやって良かったことは、多くのことに全力で挑戦したことです。私がこれを強く勧める理由は2つあります。

### 1. 自分という人間の自己理解

様々なことに挑戦し、取り組む過程で、「何が好きなのか」「何が苦手なのか」など、自身を深く知る機会を得られました。この自己理解は、自分で考え、全力を注いだ人だけが得られる恩恵だと感じています。

### 2. 人間関係の構築

テスト、部活動、応援団、アルバイトなど、共通の目標に向かって共に頑張った仲間との関係は卒業後も深い繋がりとなります。卒業して3年経った今でも、休暇に仲間と鹿児島と一緒に帰ったり、悩みがある時に電話したり、ご飯に行ったりと交流が続いています。心を許せる関係があることは、社会に出てみて貴重だと痛感しています。

私の場合は、勉強、部活動、応援団、アルバイトなどに力を入れました。最初は人見知りな自分を変えたという動機からでしたが、挑戦して後悔したことは一つもありません。

高専は、時間、自由、機会に恵まれた、とても特異な環境です。まずはゲームや遊びなど、熱量をもって取り組めることから構いません。その恵まれた環境を活かして、ぜひ多くのことに挑戦してみてください。きっと、人生をより面白くしてくれます。

## 私が高専生に伝えたいこと

令和6年度 情報工学科卒 高地 りりあ  
(京セラコミュニケーションシステム株式会社)

鹿児島高専を卒業して早くも二年目を迎えました。在学中、皆様には心より感謝申し上げます。私は現在、IT企業でシステムエンジニアとして働いております。



高専で学んだ情報工学科の知識は、現在の業務の土台です。プログラミングはもちろん、通信やセキュリティの知識も不可欠であることを痛感しています。将来IT分野に進むことを考えている学生には、特に意識して学んでほしいと思います。また、技術の進化が激しいこの業界では、「自ら学び続ける力」が何よりも大切です。コツコツと新たな技術分野について情報を取り入れる姿勢は、きっと皆さんの力になります。こちら、学生のうちからやっておけばよかったと思う後悔の一つです。

しかし、そんな高専生活で唯一、心から「悔いなくできた」と言えるのが、かけがえのない友達を作れたことです。皆さんも、在学中にできた友達は大切にしてください。高専時代の五年間、同じクラスで切磋琢磨し、共に過ごした「友達」は、何物にも代えがたい私の財産です。現在、長崎で働き、家族や知り合いがいない環境にいますが、定期的に連絡を取り合う高専の友達が、私にとって大きな心の支えになっています。就職後も、帰省した時や出張で東京に行った際などに旧友と再会します。みんなの変わらない姿を見ると、まるで学生時代に戻ったような安心感を覚えます。皆さんも、ぜひ積極的に仲間との交流を深め、一生の財産となる絆を大切にしてください。

友人との絆やたまに母校を訪れた際にいただく先生方からの温かいお言葉は、今も私の原動力です。これから高専生となる方々、そして在校生の皆さん、鹿児島高専には皆さんの将来を広げる素晴らしい環境があります。今の学生生活を大切に、目標に向かって進んでください。保護者の皆様におかれましても、引き続き本校へのご理解とご支援をお願いいたします。私も卒業生として、高専の発展を心から応援しています。



## 令和元年度 都市環境デザイン工学科卒 竹崎 智紀 (NTT インフラネット)

私は都市環境デザイン工学科を卒業後、長岡技術科学大学の修士課程を修了し、現在はNTT



インフラネット株式会社で社会人2年目を迎えています。NTT インフラネットと聞いて、何をしている会社か想像できる人は少ないかもしれません。簡単に言うと、NTTの通信インフラ設備の管理を担う会社です。その中で、私は「無電柱化事業」に携わっています。

無電柱化とは、道路の地下空間に電線類を収容し、道路上の電柱や電線を撤去することをいいます。無電柱化することで、景観を向上させ、歩行空間を確保し、災害時の電柱倒壊防止など、防災機能を強化する効果があります。普段意識しないかもしれませんが、街中でふと見上げると電柱や電線のない道路を見かけることがあると思います。そうした場所に、私たちの仕事関わっています。

業務では、高専で学んだ土木の知識が役立つ場面もありますが、通信インフラや無電柱化は初めての分野で、学ぶことが尽きません。それでも、先輩方が丁寧に教えてくれる環境のおかげで、少しずつ理解が深まり、「もっとできるようになりたい」と思いながら過ごしています。社会人生活は楽なことばかりではありませんが、責任を担う分だけ成長を実感でき、社会に役立っていると感じられる瞬間に、大きな達成感があります。

まだ社会に出たばかりですが、在校生へのアドバイスが1つあります。それは高専で学んだことは必ず社会で役立つということです。知識だけではなく、課題に取り組む姿勢や考え方、経験が大きな財産になります。学生時代の私は単位を取ることで必死でしたが、今振り返ると高専で学んだことが本当に力になっています。

最後となりますが、学生生活を思い切り楽しんでください。社会人生活も楽しいですが、学生時代の楽しさは特別だと思います。勉強や研究で忙しいと思いますが、友達と過ごす時間や挑戦する経験を大事にして、悔いない高専生活を送ってください。

## 令和5年度 機械・電子システム工学専攻修了 林 慶政 (パナソニックインダストリー株式会社)

私は機械・電子システム工学専攻を修了後、パナソニックインダストリー株式会社に入社し、現在はモーターのコイル部分の巻線工法開発や、新規モーターの要素部品に関する製造プロセス開発、さらに試作業務に携わっています。モーターは多くの製品を支える重要な要素であり、巻線や部品の製造方法を確立することは、品質や性能を左右する極めて重要な工程です。効率良く安定して生産できる工法を検討する際や、試作用の治具を設計する場面では、高専で学んだ知識が大いに役立っています。特にCADの基礎操作や図面の読み書きは実務に直結し、電子回路・電磁気・材料力学といった授業内容も、日々の業務を支える確かな知識になっています。学生時代には難しく感じていた科目も、今振り返ると自分の土台を築いてくれた大切な学びであったと実感しています。

さらに、専攻科での3年間、同じテーマにじっくり取り組んだ研究経験は、社会人になってから大きな強みになりました。試行錯誤を重ねながら課題に向き合う姿勢や自ら考えて手を動かす実践力は、高専生に共通する大きな武器だと感じています。実際、職場でも高専出身者は総じて実践力が高く、基礎から応用まで一貫して学べる環境の強さを改めて実感しています。こうした経験を通じて、私は「高専で過ごす時間は将来に直結する価値ある投資だ」と強く思うようになりました。特に、自分が開発した工法や治具が量産ラインで採用され、製品の品質向上やコスト削減に貢献できたとき、大きな達成感とやりがいを感じます。自分のアイデアが形になり、社会に役立つ製品づくりに直結することは、この仕事ならではの魅力です。

だからこそ、在校生の皆さんには、高専時代に築く友人関係を大切にしてほしいと思います。共に学び、支え合った仲間は、卒業後も大きな力になります。また、自分の興味や好きなことを大切に、やりたいことには積極的に挑戦してください。その積み重ねが、自分の軸となり、将来の選択において必ず支えになります。高専には多くの挑戦の機会が揃っています。日々の学びを大切にしながら、充実した高専生活を送り、皆さんが未来へ大きく羽ばたくことを心より願っています。

## 在校生のみなさんへ

令和5年度 電気情報システム工学専攻修了  
吉永 大成 (パナソニックコネクト株式会社)

私は2022年に本科の電気電子工学科を卒業後、専攻科を経て、現在はパナソニックコネクト株式会社で制御系の設計・開発担当として働いています。設計・開発という響きはカッコいいですが、実際にはまだ入社2年目



で業務も簡単なものが多いです。そんな私でも社会人になってから多くのことを感じました。今回はそれを踏まえて皆さんにお伝えしたいことを2つほど述べさせていただきます。

1つ目は、好きなことを見つけやり続けてほしいということです。私はバカみたいですがサッカーが好きです。もちろん本科5年間はサッカー部に所属をし、学生生活のほとんどを部活に費やしました。この経験は、素晴らしい出会いや自分自身の成長に大きく繋がりました。今でも会社のサッカー部に所属をし、サッカーを通じて人脈を広げています。何か全力で取り組めることがあるというのは、その人を成長させる、良き人と出会うきっかけになると思います。どんなことでも構わないので、とにかく自分が全力で取り組み続けることができる好きなことを何か1つ見つけてほしいなと思います。それがきっと人生を豊かにするきっかけをくれると思います。

2つ目は、思考と挑戦をしてほしいということです。自分で考えること、チャレンジしてみることは人生において大切なことだと思います。勉強や研究など、言われてやるだけ、テストのために覚えるだけでは正直身につかないしもったいないです。自分で考えて自発的に行動することを今のうちから癖づけておけば社会人になっても怖いものなしだと思います。特に学生のうちはどんなことでもいいので挑戦してみることが大事だと思います。怖がらずいろいろなことに挑戦してみてください。最後に、いろいろと言いましたが、学生生活を後悔のないように全力で楽しんでください！！！！

## 水環境を支える仕事に就いて

令和6年度 建設工学専攻修了 小川 滉士郎  
(株式会社 NJS)



私は、令和6年度に建設工学専攻を修了し、現在は株式会社NJSという上下水道を対象とした水コンサルタント

で働いています。

下水道施設設計にあこがれを持って入社した私が、実際に働いてみて感じたことなどについてお話させていただきます。

私は学生時代、水処理の研究を行っており、その中で培った知識を少しでも活かしたいという思いから、水コンサルタント業界、特に下水道分野を志望しました。ただ、入社するまでは具体的な業務内容については、設計する程度の人しかありませんでした。実際には、下水道分野のコンサルタントは、下水道管路や処理場、ポンプ場の計画・設計から、老朽化した施設の更新、耐震化、浸水対策まで幅広い業務を担っています。入社した当初は、聞き覚えのある単語はあっても、わからないことばかりで、毎日が勉強でした。

現在は、下水道施設の増設設計や耐震化などの業務に携わっています。実際に処理場に行って調査を行い、耐震性や維持管理性などを考慮した設計を進めています。最近では、初めて客先で自分が作成した資料を使って説明する機会がありました。自分の説明で希望していた案が採用された時は、大きな達成感を感じ、この仕事のやりがいを改めて実感しました。

学生時代は、研究や学びを通じて知識を深めることが中心でしたが、社会人になるとその知識を「実際に役立つ」ことが求められます。現場では、技術だけでなく、関係者との調整や期限管理など、幅広いスキルが必要です。責任の重さを感じる一方で、自分の仕事が社会に直接貢献していることを実感できるのは、学生時代には味わえなかった大きなやりがいです。

下水道分野のコンサルタントは、社会インフラを支える重要な仕事です。高専生の中ではこの分野を選ぶ人はまだ少ないですが、少しでも興味をもってもらえたらうれしいです。

皆さんの今後の活躍を応援しています。



# 教務だより

## ～個性と創造力をのばす 新しい学びの場～

教務主事 徳永 仁夫



皆さん、こんにちは。今年度より教務主事を担当しています徳永仁夫です。教務主事として最初の高専だよりへの寄稿にあたり、何を書くか悩みましたが、今回は「鹿児島高専での学びを基盤に、新しい挑戦を始めよう」というメッセージをお届けします。

私が学生だった頃（ずいぶん昔の話ですが）、研究成果を論文や学会で発表するのは、大学の先生や博士課程の学生だけが関わる「象牙の塔」の世界という印象がありました。しかし今、状況は大きく変わっています。高専生や高校生にも門戸が開かれ、全国の学会で学生セッションやポスター発表が当たり前になりました。さらに、科学技術を基盤とした自主的な取り組みを競うコンテストや起業に係るイベント等も数多く開催されています。これは、早期から探究活動に挑戦することが求められる時代の流れです。

高専で学ぶ皆さんには強みがあります。工学の専門知識に加え、実験・製作・プログラミングなど、実践的な力を身につけています。その力を教室や学校の枠にとどめず、外の世界に発信してみませんか？学会発表やコンテストは、仲間や専門家とつながり、自分のアイデアや実践力を試す絶好のチャンスです。失敗を恐れず、一步踏み出すことで、未来の可能性は大きく広がります。「高専だからできる挑戦」を、ぜひあなたの手で始めてください。

さて、ここからは鹿児島高専のこれからの学びについてお話しします。鹿児島高専は、Society 5.0の実現に貢献できる人材育成を目指し、大きな改革（改組）に踏み出します。AIやデータサイエンス、デザイン

など、幅広い知識と創造力を兼ね備えた「未来の技術を創る人材」を育てることが私たちの使命です。

なぜ今、改革が必要なのか？2030年には、日本全体で約54.5万人のDX人材が不足すると予測されています。独自に実施した内企業への調査でも「DX推進に人材が足りない」との声が多数ありました。一方、本校学生対象の調査では、情報系分野への関心は84%、必要性を感じる学生は100%という結果が出ています。つまり、学びたい気持ちと社会のニーズが一致している今こそ、教育の仕組みを変える時です。

新設される「創造デザイン工学科」は、1学科3類5コース制で、コンピュータサイエンス、データサイエンス、知能ロボティクス、先進エレクトロニクス、都市環境デザインなど、最先端分野を複合・融合的に学べます。1年次は基礎を固め、2年次から興味や適性に応じてコースを選択。「やりたいことが見つかる」仕組みを整えています。

授業はPBL（課題解決型学習）を取り入れ、実社会の課題に挑戦する力を養います。さらに、海外研修や企業インターンシップ、資格取得支援など、幅広い知識・素養・専門性を高めるサポートも継続します。もちろん、今回の改組は新入生だけでなく在校生にも新しい挑戦の場を提供するものです。さらに、教育DXの推進により、授業の質向上や学びやすい環境整備を進めます。例えば、以下を計画・検討しています。

- ・授業コンテンツのデジタルアーカイブ化で、いつでも学びにアクセスできる環境を構築
- ・反転授業やICT学習ルーム整備によって、主体的・対話的な学びを促進

これらは単なるカリキュラム変更ではありません。未来を生きる力を育てる教育への進化です。学生一人ひとりが「やりたいことを見つけ、社会で活躍する」ための道を、私たちは全力で支えます。地域企業との連携や海外研修など、学びの幅はこれまで以上に広がります。新しい鹿児島高専で、一緒に学びを進め、未来を切り拓きましょう。



# 総務企画だより

## Instagram開設、 キャリア支援

総務企画主事 岸田 一也  
キャリア支援室長 白石 貴行

### (1) (公式) Instagram開設

本年度は、改組に向けて、新しい学科の案内、イベント情報、学生の活躍をより積極的に発信するために、(公式) Instagramを開設しました。Instagramの運用については、広報センターが管轄しています。この記事を執筆しています令和7年11月28日現在、52投稿を行い、フォロワー数は1205名となっており、多くの方に関心をもって頂いて、情報を発信できていることに感謝しています。ぜひ、この高専だよりを読まれている保護者の中で、まだフォローされておられない保護者がおられましたら、フォローしていただいて、さらに友人の方、本校に興味を持っておられる方へ紹介いただければと思っています。よろしく願いいたします。

(公式) Instagramは、kagoshima\_kosenで検索することができます。



### (2) キャリア支援

キャリア支援室では、学生が自らのキャリアを考える機会を多く用意したいと考えています。4年生になると進路に関する外部イベントが一気に増えますが、こうした場に参加するには早い段階での経験が大きな助けになります。そこで、低学年のうちからキャリア活動に参加できる環境づくりを進めています。

近年は、長期休暇を利用した地元企業でのKTCインターンが定着しつつあります。今年度の夏休みには16社に低学年生42名が参加し、遠方の学生には宿泊先を手配してくださる企業もありました。また、県外企業を訪問する2泊3日のオープンカンパニーには60名が参加し、交通費・宿泊費はすべて企業が負担していただきました。いずれも回を追うごとに参加者が増え、学生の関心の高まりが感じられます。

特徴的なのは、こうした体験を一度でも経験した学生は、その後「自ら手を挙げて参加する」心理的ハードルが下がり、次の機会に積極的に参加できるようになることです。良い経験が次の行動を生み、視野が広がることで、キャリア形成が自然とスパイラルアップしていきます。この循環をつくるのが、キャリア支援室が大切にしている取り組みです。

進学支援についても、今年度初めて大学・大学院進学セミナーを実施しました。8月に実施予定でしたが記録的な大雨で中止となりました。しかし、各所から要望があり急遽2月末に実施しました。結果的に国立12校から先生をお招きして、学生103名・保護者93名の計196名という予想を上回る申し込みがあり、実施後のアンケートでもセミナーでしか聞けない話に参加者全員が満足という回答が得られました。

また、今年はこれらのキャリア活動をより進めやすくするために、「キャリアチャレンジクラブ」を創設しました。現在100名が所属しており、企業や団体と連携してイベントの共同参画を行ったり、クラブメンバー向けに優先参加枠をいただいたりすることで、成長したい学生を後押ししています。

社会からこれほど多くの応援や機会をいただける時期は、やはり学生時代が最も恵まれているのではないかと感じています。キャリア支援室としては、学生一人ひとりが良い選択をするために、良い経験を積める環境を今後も整えていきたいと考えています。



# 学生だより

## 自分の可能性

学生主事 北蘭 裕一



【Smile OK】学生の個性がキラキラと輝き、若者らしいエネルギーが溢れ、生き活きとした学生の声、学内に明るい笑顔の花が咲き誇ることを願ってのキャッチフレーズです。

2025バージョンのポスターは少しガーリーに仕上げで作成しておりましたが、学生の皆さん2025年度の学生生活はいかがでしたか？

私としては、学生主事として5年目を終えるにあたり、学生のおかげで、とても充実した時間を前向きに過ごすことが出来たと感じております。結果的にはこの5年間で早く感じてしまう自分があるのも事実です。

また、この3月に卒業する卒業生にとっては、在学期間ずっと私が学生主事だったことになり、もしも他の教員が学生主事であったならば、他の楽しみや喜び、達成感などを感じる機会があったかもしれません。そこはお詫び申し上げます。

そんな中、今回の高専だよりに何を書こうかと思案中で、この5年間、学校のため、学生のために何を取り組んできたかなと自分なりに振り返ることにしました。とは言うものの、具体的な例示は簡単に出来ない（思い出せない）ため、何となくですが、考え方を述べたいと思います。

自分の性格上、難しいことは苦手なので、基本的には、自分自身が明るく、前向きに、可能であれば常に楽しく生きていきたい、その雰囲気が結果として、学生や周りの大人にも伝わって、それが波及効果でもっともっと広がってもらえればと思っています。意外と手軽で、特に準備もいらない、比較的簡単に出来る、それが毎日の挨拶であったり、日頃の表情であったり、さらには笑顔であったりすると私は信じています。

そして、個人的にはこの「信じる力」は重要です。どのようなマインド（心構え）で生きていくか。1歩先にいる成長した自分をイメージする、1週間後、自分が成功して喜んでいる笑顔を描く、1年後、自分自身が明るく自信に満ち溢れている姿を信じる、そ



の実現へ向けて、簡単なことから始めてみませんか。それが毎日の挨拶だったり、日常の笑顔だったり、感謝の言葉だったり、それを成長のために信じてみようと感じる素直なマインドだったり。

学生主事になった当初、自分のキャラクターを活かせるような学校のキャッチフレーズとして分かり易い【Smile OK!】を掲げました。全ての学生が楽しいと言ってくれる学校を目標に、技術はもちろん、豊かな人間性でも世界に貢献できる「人」が育まれる鹿児島高専を目指したいですね。

私もまた新しい何かにチャレンジしようと思いません。現状維持は衰退であると言っている以上、自分の可能性を信じて、来年の北蘭がどのように成長しているかを自分自身も期待して、これまで以上に、日頃から明るく、前向きに楽しんでいきます。

2026年も【Smile OK!】明るいあいさつ、元気な笑い声、笑顔の花が咲き誇り、そして世界に誇れる鹿児島高専を共に創っていきましょう！





# 志学寮だより

## ～今年を振り返る～

寮務主事 椎 保幸

### (1) 寮生の動向

令和7年度4月当初の入寮者数は、男子349名、女子65名の計414名（内4名が留学生）でした。後期に入り、若干名の入退寮があり、11月現在では計411名となっております。体調不良者は時折出るものの、感染症等が流行することも無く、お陰様で穏やかな一年となりました。

### (2) 今年度の主な出来事

#### ・第5志学寮改修

昨年度は、収容人数が最も多い第6志学寮の改修工事が行われました。今年度は第5志学寮の改修が8月から翌2月にかけて行われます。第5志学寮も、第6志学寮と同様に、二人部屋から個室へと改修されます。

#### ・宿直体制の変更

現在、寮の宿直には毎日2名が従事し、寮の安全管理にあっております。以前は、教員2名が宿直に入っておりましたが、教員の研究および学生指導への業務量が増してきたことから、平成29年より教員1名、学寮指導員（非常勤職員）1名の体制となっておりました。この4月からさらに、学寮指導員2名の体制と変わりました。学寮指導員は計6名在籍しており、経歴として警察官、自衛官および本校職員と、経験豊富な方ばかりであり、非常時の対応においても大変心強い布陣となっております。

#### ・輸入米の一部導入

今年は、日本国内で米の需要が一気に高まり、国産米の価格が高騰し、安定的な確保が困難となる時期がありました。当然ながら、寮食堂の委託業者である魚国総本社様においてもその影響は避けられず、米の安定確保の観点から、輸入米を一部導入する必要がありました。味や食感はほとんど変わらず、安全性も問題なかったものの、やはり国産米と比べるとどうしても質の点で落ちる部分はありました。導入期間は約3ヶ月と短い期間ではありましたが、何とかこの難局を乗り越えることができました。これも偏に寮生と保護者のご理解とご協力によるものと深く感謝申し上げます。

#### ・寮食費の価格改訂

上述した“令和の米騒動”と合わせ、物価の価格高騰、労働者の賃金アップ、エネルギー・輸送費等の上昇などが重なり、食材調達のコストが急激に増加いたしました。委託業者様の方でもコスト削減のため様々な企業努力をして頂いておりますが、それだけではなかなか難しく、後期から食費の改定（値上げ）を行うこととなりました。重ねて寮生と保護者の皆様にはご理解をいただければと存じます。

### (3) 今年度の学寮行事

- ・ 4月5日（土）寮生会リーダー研修
- ・ 4月8日（火）～5月22日（水）1年生集合自習
- ・ 4月10日（木）学寮避難訓練
- ・ 4月14日（土）寮生マッチ
- ・ 4月18日（金）寮生総会
- ・ 6月12日（木）留学生パーティ
- ・ 7月3日（木）七夕パーティ
- ・ 1月15日（木）寮生パーティ（予定）
- ・ 試験前学寮チュートリアル（年4回）





# 専攻科だより

## 今年度のできごと

研究主事・専攻科長 山田 真義  
機械・電子システム工学専攻長 小原 裕也  
電気情報システム工学専攻長 武田 和大  
建設工学専攻長 安井 賢太郎

今年度の専攻科における主な取り組みについて、環境創造工学プロジェクト、特別研究進捗状況報告会、及び教員審査（特例適用専攻科における教育の実施状況等の審査）についてご報告します。



専攻科1年生対象の「環境創造工学プロジェクト」は、昨年度まで通年2単位で実施していましたが、昨年度より前期2単位に変更し、半期で集中的に取り組める体制としました。この変更により、学生は短期間で課題に集中でき、成果物の完成度が向上したと感じています。また、STEAM教育に活用できるテーマについては、7月26日に鹿児島県長島町で開催された「わくわくドキドキ科学教室 in 長島（主催：長島町教育委員会学校教育課）」に出展し、専攻科1年生10名が長島町の子供たちに科学を楽しく学ぶ機会を提供しました。さらに、本科目の発表会は8月5日に専攻科棟2階共用教室で開催し、チームで取り組んだ成果物の実演も含め、多くの教職員に対して報告を行いました。

昨年度まで準備日を含めて3日間で開催していた報



告会を、今年度は準備日を含めて2日間に短縮しました。また、ポスター発表に関しては、パネルを変更し、ポスターサイズをA0からA1へ縮小する試みを行いました。報告会では前日準備の翌日の午前中にショートプレゼン（1年生：日本語、2年生：英語、各3分間）、午後ポスター発表を行いました。ショートプレゼンは緊張感もあり、ポスター発表では和やかな雰囲気の中で教職員や学生同士の活発な議論が展開されました。また、発表会では全参加者による投票を行い、各学年3名、計6名の学生を選出しました。選出された学生は11月20日に校長室で表彰され、賞状と後援会から副賞が授与されました。

今年度は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による「特例適用専攻科における教育の実施状況等の審査」が行われました。この審査では、学修総まとめ科目である特別研究Ⅱも含め、専攻科の授業担当の適否について審査されます。審査結果は年度末に通知され、令和8年度から適用されます。

本年度も専攻科では、教育内容や運営方法の改善に取り組み、学生が主体的かつ実践的に学べる環境づくりを推進しました。



# 国際交流だより

## グローバル・キャンパスに向けて

国際交流センター長 國谷 徹

コロナ禍を経て海外との直接の人的交流を再開してから2年が経ちましたが、我が国をめぐる国際情勢が大きく変化しつつある中で、本校の国際交流活動も変革を求められていると感じます。国際交流センターでは、本校が目指す「グローバルに活躍する技術者」の育成を目指し、様々な取り組みを進めています。

### 1. KOSEN Global Camp

KOSEN Global Camp は2023年度から開始された事業で、「オンキャンパスの国際化」を目指し、海外学生と高専生が共同で学び、様々な課題の解決に取り組むプログラムです。

本校は2025年2月24日～3月1日、「情報工学分野とプロダクトデザインの融合により鹿児島県の第一次産業に新しい魅力を創造するものづくりワークショップ」と題して Global Camp を開催しました。スウェーデン・マレーシア・台湾の3カ国から計19名、これに国内の高専生27名を加えた46名が参加し、鹿児島県の農林水産業の課題について学び、それらの課題の解決のためのアイデアを出し合い、マイコンなどを用いてアイデアを具体的な試作品の形にしました。

この Global Camp は学生たち自身の手で企画・準備・運営されました。本校の学生団体 Global Club の学生たち40名以上がスタッフとして関わり、県庁農政課などを訪問しての事前調査、レクリエーション活動の企画などの準備を自分たちの手で進めたほか、ワークショップ本番では司会進行や技術面のサポート、グループ内ファシリテーションなどを担当しました。



なお、本校では2026年2月にも Global Camp を開催予定であり、既に学生スタッフが準備を始めています。今回も有意義なワークショップとなることを期待

しています。

### 2. 学生の海外渡航

9月15～25日にスウェーデン・NTI スtockホルム校への海外研修を開催し、15名の学生が参加しました。研修ではNTIのプログラミングやデザイン等の授業に参加した他、王立工科大学などの施設見学やホームステイも実施しました。

本校主催の海外研修としては、このほか春休みに台湾・台北科技大学を訪問する研修を開催予定です。

これら本校主催の海外研修に加えて、本年度は15名の学生が語学研修など個人での海外渡航を行いました。渡航先はシンガポール、韓国、台湾、オーストラリア、カンボジアなど様々で、高専祭では海外研修報告会を開催し、それぞれが海外で得た学びについて活き活きと発表していました。



### 3. 英語力向上への取り組み

このほか、学生の英語力向上のための取り組みとして、ネイティブ講師を招へいしての放課後英会話教室や、1・2年生向けのオンライン英会話授業、希望者を対象にeラーニング教材を活用したTOEICスコアアップチャレンジ等を実施しています。

おわりに

2月の Global Camp での本校学生スタッフの活躍は本当に頼もしく、国際交流に高い意欲を持つ学生がとても多いことに驚かされました。一方で海外への渡航は経済的負担が小さくないのが実情です。今後もオンキャンパスでの国際交流の機会を増やし、「グローバル・キャンパス」の実現を目指したいと思います。



# 地域共同テクノセンターだより

## 地域共同テクノセンターだより

地域共同テクノセンター長 島名 賢児

地域共同テクノセンターは、鹿児島高専と地域企業や自治体等との連携、共同研究や技術相談に対応している部署です。運営はセンター長の島名、副センター長の池田・山本、各科からの運営委員、総務課企画係で担当しています。

現在、当センターが特に力を入れていることは、①本校学生の活躍を地域企業や自治体にPRすること、②社会で活躍している本校の卒業生の声を地元の企業や在校生に伝えること、③県内の小・中学生に理系分野に興味を持ってもらうイベントであるSTEAM (Science Technology Engineering Arts Mathematics) 教育講座を開催すること、の3つです。



KTC 技術研修会. 本校との産学官連携組織である鹿児島高専テクノクラブ (以下、KTC) では会員向けに年3回の技術研修会を開催しています。令和5年度までは3回とも外部の方による特別講演や本校教職員の研究紹介などを行ってききましたが、令和6年度から第3回目は学生の活動を紹介する機会としています。令和6年度はコンテスト等へ出場している6つの部活動に活動を紹介してもらい、その後、実演等も行っても

らいました。引き続き、令和7年度の第3回技術研修会でも学生の活動を紹介していきたいと思います。



さらに令和7年度の技術研修会では、社会で活躍している本校の卒業生に特別講演を依頼しています。第1回は情報工学科OGにAIに関するテーマについて、第2回は電子制御工学科OBにDXに関するテーマについて講演してもらいました。参加者のアンケート結果では「高専の卒業生が県内企業で活躍している姿を見られてとても満足」といった声もありました。STEAM教育. 本校では令和4年7月にSTEAM教育支援室を設置し、本校教職員や学生が小・中学校を訪問して実施する出前型講座と、参加者の小・中学生が本校に来校して実施する来校型講座の2パターンで開催しています。多くの講座は、本校教職員が講師として実施していますが、本校学生がメインの講師として実施している講座もあります。本校が開催しているSTEAM教育講座に参加した小・中学生が将来本校に入学してくれることを期待しています。



# 学生何でも相談室だより

## 相談室のご紹介

学生何でも相談室長 町 泰樹

### 〈学生何でも相談室のご案内〉

学生何でも相談室は、「学生」とついでいますが、学生だけではなく保護者や教職員の様々な相談に対応しています。

相談員として、私を含めた相談室スタッフ（副相談室長1名と相談員1名、保健室看護師2名）に加え、5名のスクール・カウンセラー（SC）の先生と2名のスクール・ソーシャル・ワーカー（SSW）の先生がいます。

相談時間は、日によって異なりますが、基本的には14：30～17：00の、学生たちが3限目を受け終わった後からに設定されています。平均して週4日はSCかSSWの先生が来校しています。

予約の方法としては、Web上の「学生何でも相談室予約フォーム」から、もしくは保健室への電話やメールがあります。相談方法も、対面や電話、メールに対応しています。

友人や家族との関係のこと、勉強のこと、部活のこと、進路のこと、などなど、その時々で私たちは悩みを抱えて生きていると思います。一人で考えていると堂々巡りになってしまったり、親しい人にも言い難いことだってあつたりしますよね。そうした時に、気軽に相談に来て欲しいなと思っています。

### 〈カウンセラーの先生と話すとき〉

以前、カウンセラーの先生と話した時に、他者の話を聴くことは意外と難しいという話になりました。「人の話を聴く時のコツってあるんですか？」と尋ねると、「ウンソウ屋になるといいですよ」と言われました。「何を運ぶねん！」と思いましたが、その心は、「うんうん、そうか～、そうだよ～」と話を聞くということだったんですね。

「なんだダジャレかよ～、簡単じゃないか」と思っていると、カウンセラーの先生が察したように続けます。「でもね、先生。ウンソウ屋に徹するってのは意外と難しいんですよ。特に先生と呼ばれるような人

たちは」。

「・・・なんででしょう？」

「理由は簡単で、先生ってのは教えるのが基本好きでしょ。だから悩んでいる人がいると、こうしたらいとかああしたらいとか、つい言っちゃいたくなるんですよ。そんなことはありません？」

「思い当たることばかりです。」

「でしょう。それがあかんのですよ。先生も経験あるでしょうけど、中途半端なアドバイスなんかもらっても、そんなん分かってるわ！ってなるでしょ。そやから、話をしたいいう人がおつたら、その人がどんな状況なのか、何に本当に困ってるのか、どうしたいと思ってるのか、全部その人から聴いていかないかんのですよ。そらアドバイスすることもありますけど、結局はその人が自分の力で少しずつ進んでいくしかないわけですから。周りの人は、とにかくそれを信じて一緒にいる。そうした聴くこととその人を信じ切ることへの覚悟みたいなんが大事なんですよ。」

思わず「ついていきます兄貴！」と言いきりになりました。

私自身が上記の内容を実践できているかというと非常に心許ないのですが、SCやSSWの先生方とお話をすると、ためになる話も聞けます。そういう話でした。

### 〈耳寄り情報をもう一つ〉

相談室では、月に1回、学校医による健康相談も実施しています。体のことで「何か気になるな」ということがあれば、是非活用してみてください。

皆さんが健やかに過ごせますように！





# 退職の挨拶

## 去る前に伝えておかなきゃ!~\*

電気電子工学科 田中 郁昭

皆さん、こんにちわ。電気電子工学科の田中です。私は2026年3月末日をもちまして鹿児島高専を退職いたします。3年半前に着任の挨拶をした記憶が残る中で、退職の挨拶をすることになりました。寂しい限りです。もともと私は民間企業に31年間在籍し、残りのサラリーマン人生を「未来ある若者と過ごしたい」という思いで59歳にして教育機関へ転職いたしました。ご想像のとおり現役の社会人として残された時間はそう長くはありません。その短い時間の中で私は何をしましたか? それをこの挨拶に書き残して卒業していきたいと思います。

### 1. 常に自己研鑽して下さい。チャンスは必ず来ます。

私は、前職を通してアジアの技術者に目を向けた時、彼らはよく勉強し、総じて世界で成功するためのコスト意識や起業精神の高さに驚かされていました。将来、様々な分野で皆さんが、このような人達と共存していけるのだろうか、という不安を抱くようになりました。日本の若者にこうした志を感じられないのは、これまでに歩んできた日本の経済や科学技術の進展の成功に過信してしまい、他国を注視する姿勢が低

下してしまった結果であると考えています。もっと個人がグローバル化しながら自律心を高める必要があると強く感じています。これはまさに高専教育の目指しているところであり、「日頃の地道な鍛錬こそ成功の秘訣であること。継続は力となり必ずチャンスが訪れること」を皆さんにお伝えしたい。

### 2. 周囲に対して敬意を払い信頼される人物になってください。

社会人となった時、先輩の社会人はあなたの行動を見て人物を評価します。それは皆さんが思っている以上に社会では約束を守ることが何よりも大切で、その人物の評価(信頼性)を決めてしまうと言っても過言ではありません。学生時代は仲良しグループで約束破りの常習犯であっても許されていたものが、いろんな世代の集まりである社会では、約束を守ることこそが信頼を得るための術となります。ぜひ学生の頃から約束に対して責任感をもつような心掛けをお願いしたい。

最後になりますが、私の現役の終わりに教鞭をとらせて頂いたことには大変感謝しております。至らなかった面が数多くあったかと思いますが、周りの教職員の方と学生の皆さまに支えられながら無事その日を迎えることができそうです。本当にありがとうございました。





# 新任教員の紹介

## 自己紹介

都市環境デザイン工学科 村上 光樹

- ①出身地：鹿児島県始良市  
鹿児島高専 → 九工大（編入）→ 九大（修士）→ 民間企業 → 鹿児島高専教員  
去年まで広島でお仕事していました。



- ②好きな食べ物・苦手な食べ物  
好きな食べ物：いちご、みかん、もみじ饅頭  
苦手な食べ物：紅ショウガの天ぷら（大阪のソウルフードらしいです）
- ③趣味：  
1. 囲碁、将棋、ボードゲーム  
高専に赴任するまでは、毎週のように碁会所に行って囲碁を打っていました。他にもネット将棋や、ネットでボードゲームもやっています。  
2. 柔術（写真）  
人間チェスとも呼ばれ、老若男女が楽しめる

格闘技である柔術を少しだけやっていました。そろそろ再開しようかと思いつながら半年以上過ぎました。

- ④担当科目  
土質／地盤系科目など
- ⑤専門分野と研究テーマ  
建設系材料を専門分野として、火山灰などの未利用資源を建設材料として有効活用するための研究を行っています。
- ⑥学生へのメッセージ  
論語の中に「天才は努力する者に勝てない、努力する者は楽しむ者に勝てない（意識）」という教えがあるようです。日々の成長を加速するには、課題の発見、対策、評価、改善のPDCAサイクルを回すことが重要になります。そのサイクルを夢中になって楽しみながら繰り返すことが「未来の技術を創る技術者」になる近道だと感じ始めています。斯く言う私も、教員生活の中で多くの学びを得ています。皆さんと一緒に楽しくPDCAサイクルを回していきたいと思つています。

## 新任のご挨拶

一般教育科 山田 直子

- ①出身地：山口県下関市
- ②好きな食べ物：蕎麦、チーズ、ワイン
- ③趣味は？  
自然を楽しむことです。霧島にはハイキングに最適な遊歩道が多く、恵まれた環境です。



- ④どんな科目を担当されていますか？  
英語を担当しています。先日、インドネシアの大学生とオンライン交流を行いました。ICTを使ったコミュニケーション活動を取り入れていきたいと思っています。
- ⑤専門分野と研究テーマ  
私の専門分野は異文化間教育学です。さまざまな言語や文化の背景をもつ人々と協働する力をどのように育成できるのかを、実践研究を通して模索してきました。近年は、欧州で生まれた「Internationalization at Home（学内の国際化）」という考え方に注目し、そ

れが教育にどのような影響を与えているのかを、フィンランドを事例に考察しています。この考え方は、学内の教育活動や課外活動を通して、誰もが国際的な学びを獲得できることを目指すもので、多様な民族・宗教が混在するヨーロッパの経験から多くの示唆を得られると感じています。文化や習慣、価値観の違いは、新しいイノベーションを生み出す可能性を持つ一方で、相互理解の困難さや衝突を伴うこともあります。これは、エンジニアを目指す高専生にとって重要な課題だと思いますので、高専教育に還元できるよう努めていきたいと思つています。

- ⑥学生たちへのメッセージ  
「失敗を恐れずに、まずはやってみよう」という言葉を送ります。失敗を学びのチャンスとして捉え、試行錯誤を楽しむ姿勢は、成長の原動力になると思つています。高専生の多くが大好きなビデオゲームでも同じですね。何度も失敗しながら基本操作を覚え、戦略を練り、勝利の条件を見極めていくというプロセスは、上達（＝成長）のカギ。現実の世界でも、経験したことのないことや、想定外の状況に直面したときは、「まずはやってみよう」という気持ちで挑戦してみましよう。応援しています！



## 新任のご挨拶

一般教育科 上ノ原 怜那

①出身地：鹿児島県です。

②好きな食べ物・苦手な食べ物

好きな食べ物は豆腐です。豆腐であるならば、高野豆腐でも豆腐干でも、どんな調理法でも好きです。中でも油揚げ、厚揚げ、揚げ出し豆腐は別格です。苦手な食べ物は特にありません。

③趣味

考えること、考えたことを書くこと、古書と向き合うこと、絵を描くこと、うさみみハリケーン（当然個人利用の範囲）で遊ぶこと、散歩等です。

④担当科目：国語（言語文化、文学国語等）です。

⑤専門分野と研究テーマ

専門は日本漢文学です。専門と言うのが憚られるほど知識も技量も不足しており、慚愧する日々です。現在は、島津氏に仕えていた禅僧で、外交官としても活躍した、文之玄昌（1555～1620）の漢詩文集を研究しています。文之の著作として最も知られているのが、日本への鉄砲伝来を伝える『鉄砲記』です。この『鉄砲記』をはじめ、漢文による様々な

文書や漢詩が、『南浦文集』と総称される詩文集に収録されています。

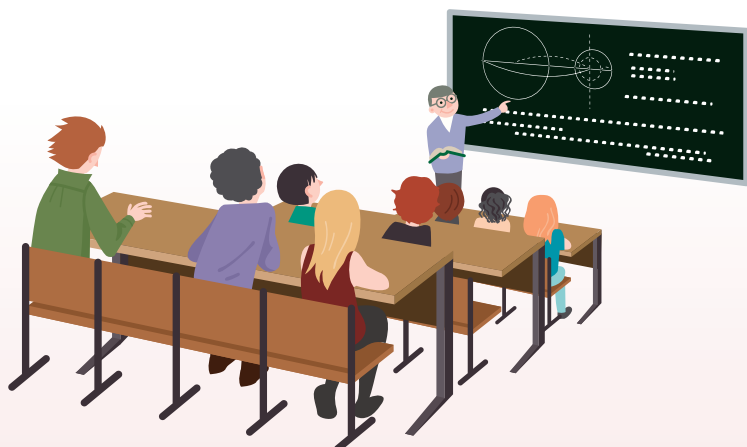
実は、高専があるこの土地は、文之と関係が深い土地であるのです。鹿児島神宮付近にかつて、文之が住持を務めていた正興寺というお寺がありました。文之はまた、現在の鹿児島市立大龍小学校地にあった大龍寺の開山でもあり、大龍寺からこの正興寺までを行き来していました。つまり高専があるこの隼人の地は、文之が生活し歩き回った、文之にとっての庭の如き土地なのです。



（写真：大龍寺跡）

⑥学生へのメッセージ

工学も文学も、人が人とそれを取り巻く環境を土台に紡ぎ続けてきた、人のためのものです。人のために必要であり続けるからこそ、今なお途切れることなく、新たなものが生み出されているのです。ぜひ、様々な学問が人のために担う部分に思いを巡らし、改めて工学にできることを見定め、その技術を発展させていってください。古人は言います、「天生我材必有用」と。皆さん一人一人に、果たせる役割が必ずあるのです。





# 後援会だより

## 応援合戦

後援会会長 白鳥 竜也

日頃より、後援会活動に温かいご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、後援会長という立場上、体育祭では来賓席にて応援合戦の採点を務めております。これが毎年、うれしい反面、なかなか悩ましい役目です。

というのも、どの学科の演武もレベルが高く、「全学科優勝をお願いします」と言いたいほど、工夫も熱量も本当に素晴らしいからです。

私事で恐縮ですが、わが子は情報工学科に在籍しております。情報工学科といえば、これまで応援合戦では「万年最下位」が定位置でした。ところが今年は、情報工学科がついに優勝。和田団長を中心にみんなで勝ち取った勝利だったと思います。本人たちの驚きと誇らしさが入り混じった表情は、今も印象に残っています。それと同時に負けた他の学科の団員たちが涙を

流して本気で悔しがる姿もとても印象に残りました。

この出来事を通して改めて感じたのは、高専で育まれる力は教室の中だけではない、ということです。うまくいかなかったことを振り返り、改善点を見つけ、役割分担をして、仲間と試行錯誤を重ね、最後はやり切る。応援合戦は、まさにチームで成果を出す“実践の場”であり、学生の皆さんが日頃培っている力が存分に表れる瞬間なのだと思います。

そして今、社会で求められている力もまさにこの「チームで成果を出す力」。これからも応援合戦をはじめ高専祭全体をもっと盛り上げていてもらいたいです。

後援会は、学修環境の充実はもとより、行事や課外活動を含めた多様な挑戦が、学生の成長につながるよう、これからもできる限りの支援を続けてまいります。今後ご支援をよろしくお願いいたします。

後援会 副会長 橋口 美昌

息子が鹿児島高専に入学してもう3年が経とうとしています。息子の入学と同時に私も後援会理事をお引き受けし、今年度は副会長という大役をお引き受けいたしました。よろしくお願いいたします。

学生の皆さんは、授業や実験・実習、部活動にと忙しくも、充実した毎日を過ごしていることでしょうか。保護者の皆様におかれましては、「勉強は大丈夫だろうか」「ついて行けているだろうか」「まあ、何とかやっているんだろう」と、日々いろいろな思いを巡らせているのではないのでしょうか。

高専での勉強は、専門的な学びをするということと課題に追われる日もあり、決して楽な道のりではないと思います。それでも、失敗と成功を繰り返しながら、少しずつたくましく成長してほしいと願っています。ときには桜島の噴煙を見て、「今日も元気だなあ」とリラックスしながら、それぞれの目標に向かって前を向いて前進して欲しいと思います。そんな日常の積み重ねが、将来につながる大きな力になることでしょうか。

そして、私が感じた鹿児島高専の学生さんたちの印象ですが、やる時はやる、はっちゃける時は徹底的に

はっちゃけるという印象です。その最たるものが高専祭でしょう。学生達が主体となって作り上げる高専祭。体育祭での応援団の演舞を初めて見た時は鳥肌が立つほどの迫力でした。そうかと思えば高専祭が終わればすっかり元通り。このメリハリが良いんだよね。

あつという間の3年間、そしてこれから卒業までもきっと「光陰矢の如し」なのでしょう。後悔の無いように高専生活を過ごしてほしいと願っています。

後援会では、学生の皆さんが安心して学び、思い切り挑戦できるよう、学習環境や課外活動の支援を行っています。会員の皆様のご協力のおかげで、学生たちの「もうひと頑張り」を支えることができいております。

これからも学校・教職員の皆様と連携し、鹿児島らしい温かさで学生を見守ってまいります。必要以上に口出しはせず、しかし困ったときにはしっかり支える——そんな立ち位置でありたいと思っております。

結びに、学生の皆さんが鹿児島での高専生活を楽しみながら成長されること、そして鹿児島工業高等専門学校とのさらなる発展を心より願っております。



## 多くの支えに包まれて

電子制御工学科5年 理事 橋本 由紀子

息子は入学以来、自宅から自転車で通学しております。「行ってきます」と自転車に乗り、最初の曲がり角で手を振る一年生の頃の姿が、今も鮮明に思い出されます。今では、聞こえるか聞こえないかの小さな声でリビングを出て行き、時には気付くともう家にはいないことも。卒業が近づくと、少し照れくさそうな笑顔が懐かしく感じられます。

学業の面では進級が心配で、テストごとに結果をしつこく聞いておりましたが、最近は、聞きたい気持ちを我慢できるようになった自分自身の成長も感じております。スポーツでは、長く続けてきたトランポリン競技に力を注ぎ、県内外の大会へ挑戦してまいりました。特に県外大会は旅費の負担も大きく、学校・後援会からのご支援は、本人、また家族にとっても大きな励みとなりました。改めて深く感謝申し上げます。

進路は、親としては進学を願う気持ちもありましたが、息子は県外企業への就職を選びました。説明会、面接、内定式と進む中で、ネクタイの結び方も少し慣れてきたでしょうか。必ずお弁当と答えていた「お弁

当とお昼代どっちがいい？」の尋ねに、最近はずいぶん迷わずお昼代と返ってくるようになりました。送迎していた溝辺体育館も今は自分で運転をしていきます。正直、楽になる嬉しさもあり、少し寂しくもあり、親としての節目を感じるこの頃です。

理事会への参加を通しては、先生方の温かい姿勢に触れる機会にも恵まれました。学生一人ひとりの学びと成長を見守り、支え、日々真摯に向き合ってくださいの姿を拝見し、鹿児島高専という場がどれだけ多くの大人の支えによって成り立っているかを実感いたしました。学校の雰囲気や取り組みを直接感じられたことは、理事を務めさせていただいて良かったと感じる大きな理由の一つです。卒業を迎える今、息子が多くの方に支えられながら成長してきたことを改めて実感しております。学びを導いてくださった先生方、共に過ごした友人たち、後援会の皆さまと学校全体の温かい環境に心より感謝申し上げます。高専で過ごした5年間は、これからの人生の大切な土台となると信じております。

最後になりますが、在校生の皆さまが恵まれた環境の中で、充実した日々を送られますこと、また、学校のさらなるご発展をお祈り申し上げます。

## 兄の背中を追いかけて

機械工学科1年 理事 桐原 隆志

兄が在籍していた頃は高専にあまり興味を示さなかった娘ですが、進路選択の時期を迎え、学校説明会で先輩方が生き生きと学生生活を送っている姿を知り、またモノづくり体験を通じて自らも高専で学びたいという気持ちが芽生えました。兄からの助言にも背中を押され、最終的には自らの意思で高専という学び舎への第一歩を踏み出しました。

女性の少ない環境に対して不安も抱いていたようですが、数年前から導入された学科を越えた混合学級のおかげで素晴らしい友人にも恵まれ、日々楽しく学校生活を送っている様子を、保護者として大変安堵しております。

高専は、専門的な知識や技術を習得するだけでなく、自ら考え挑戦する力、そして社会に貢献できる人間としての成長を育む場であると感じております。

専門教育を軸に、実験・実習を通じた実践的な学び、

クラブ活動や地域との関わりを通じた多様な経験を得ることができる五年間の学校生活の中で、子どもたちは多くの挑戦と向き合うことなのでしょう。時には壁にぶつかることもあるかもしれませんが、しかし、その一つひとつの経験が将来への確かな力となり、自ら考え行動できる技術者としての成長につながるものと確信しております。

これからの五年間を通して、多くの学びと経験を積み重ね、大きく成長してくれることを、保護者として心より期待しております。

保護者といたしましても、子どもたちが安心して学び、視野を広げ、夢に向かって努力できるよう、学校と連携しながら温かく見守ってまいりたいと存じます。また、後援会活動を通じて、教育環境の充実や行事の支援など、微力ながらお役に立てるよう努めてまいります。学校・地域・家庭が力を合わせて子どもたちの成長を支えていくことが、これからの学びをより豊かにするものと考えております。

# 編 集 後 記

今年度も残すところあとわずかとなりました。振り返ると、子どもたちの活躍が光る一年でした。学習や行事で見せてくれた笑顔や真剣なまなざしは、私たちに大きな感動と希望を届けてくれました。

高専祭をはじめ、さまざまな学校行事では仲間と力を合わせて挑戦する姿があり、日々の授業では、できることを一つひとつ増やしていく子どもたちの成長を感じました。その一步一步が、未来へとしっかりつながっていると強く感じます。

また、保護者の皆様や地域の方々の温かいご支援があったからこそ、こうした活動が充実したものになりました。目に見えないところでのご協力に心から感謝申し上げます。学校は、子どもたちを中心に、家庭と地域が一つになって育てる場です。今年度もその絆の強さを改めて実感しました。

新しい年度に向けて、子どもたちがさらに輝けるよう、私たち教職員も力を尽くしてまいります。どうぞこれからも温かいご理解とご協力をお願いいたします。一年間、本当にありがとうございました。

「高専だより」 主担当：澁田 諭

## 「高専だより」編集委員会（広報センター）

広報センター長	岸田 一也（電子制御工学科）
広報副センター長	澁田 諭（一般教育科）
委員	白石 貴行（機械工学科）
	佐藤 正知（電気電子工学科）
	谷口康太郎（電子制御工学科）
	入江 智和（情報工学科）
	内田 一平（都市環境デザイン工学科）
	松浦 将國（一般教育科）
担当事務	学生課図書情報係

## 「鹿児島高専だより」第80号

編 集 鹿児島工業高等専門学校 広報センター  
発 行 鹿児島工業高等専門学校  
〒899-5193  
鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1

